



Solaris 9 4/03 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-1208-11
2003 年 5 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, Java, JDK, Solaris JumpStart, SunOS, OpenWindows, XView, JavaSpaces, SunSolve, iPlanet Directory Server, Sun4U, Sun StorEdge, Solstice AdminSuite, SunInstall, Solaris Web Start, Java Naming and Directory Interface、および Enterprise JavaBeans は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

PostScript は、米国 Adobe Systems, Inc. の商標であり、国によっては登録されていることがあります。Netscape および Netscape Navigator は Netscape Communications Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 9 4/03 Release Notes

Part No: 817-0488-11

Revision A



030515@5943



目次

はじめに	13
1 Solaris 9 4/03 のメディアの概要	17
Solaris 9 4/03 のメディア	17
Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD	17
Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD	17
Solaris 9 4/03 SOFTWARE 2 of 2 CD	18
Solaris 9 4/03 LANGUAGES CD	18
Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD	19
Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD	19
Solaris 9 4/03 Operating Environment DVD	19
Solaris Software Companion CD	19
2 インストールに関する注意事項とバグ情報	21
日本語環境をインストールする前に知っておく必要がある情報	21
必要なディスク容量	21
日本語環境の選択	25
Solaris 9 4/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要がある注意事項	28
SPARC: Solaris 9 4/03 DVD からのブート	28
x86: Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD のパーティションに関する問題	28
x86: 起動ディスクのデフォルトパーティションレイアウトの変更	29
SPARC: デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある	30
x86: Service パーティションがないシステムでは、デフォルトで Service パーティションが作成されない	31

- x86: Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) ブート用フロッピーディスクが使用できない 33
- x86: Solaris 9 オペレーティング環境へアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS を最新のものに更新する必要がある 34
- x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない 34
- Solaris 9 4/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ 35
 - x86: Service パーティションの保存、および Solaris パーティションの作成を選択すると、suninstall が終了する (バグ ID: 4832216) 35
 - x86: 3Com 3c905C ネットワークインタフェースカードを使用すると、インストールに失敗することがある (バグ ID: 4791458) 36
 - x86: PXE ネットワークブートが Sun LX50 Systems で正常に実行されない (バグ ID: 4725108) 36
 - Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424) 37
 - Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 4/03 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090) 38
- Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報 39
 - Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 4/03 ドキュメントをインストールする方法 39
- Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報 40
 - ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127) 40
 - [日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項 40
- インストール時またアップグレード時に発生するバグ情報 41
 - Solaris WBEM プロバイダパッケージ SUNWwbpro をインストールすると、無効なエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4824518) 41
- アップグレードに関する注意事項とバグ情報 41
 - Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない 42
 - Solaris suninstall プログラムによるアップグレードでのロケール選択 42
 - x86: Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD (x86 版) を使用して x86 システムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードできない 42
 - 旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない 43
- アップグレード時に発生するバグ情報 45
 - アップグレード時に、SUNWceudt パッケージをインストールできない (バグ ID: 4826785) 45
 - アップグレード後、パッチ 114711-01 または 114712-01 に同梱された VDiskMgr.jar ファイルを手動で登録しなくてはならない 46

SPARC: Managed Object Format (MOF) ファイルに依存する Solaris 管理コンソールアプリケーションは、アップグレード後に失敗する可能性がある (バグ ID: 4825349)	47
Solaris Live Upgrade の使用時にインストールプログラムが表示するテキストに関する問題 (バグ ID: 4736488)	48
SPARC: パッチリストファイルを指定したときに、luupgrade コマンドがパッチを追加できない (バグ ID: 4679511)	49
SPARC: アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (バグ ID: 4525236)	49
Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)	50
Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)	51
/export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)	51
ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)	52
アップグレード後に発生するバグ情報	52
SPARC: アップグレード後にパッチを削除すると WBEM リポジトリが破壊されることがある (バグ ID: 4820614)	52
アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)	54
日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4677463)	54
インストール全般に関する注意事項とバグ情報	54
SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)	55
スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)	55
[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される	56
[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力	56
64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報	57
SPARC: 一部の Sun UltraSPARC システム (Sun4U) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある	57
DOCUMENTATION CD に関する注意事項	59
Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前のドキュメントパッケージをインストールできない	59
DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報	59
Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)	59
特定のロケールで Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD が Solaris 9 4/03	

- DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールしない (バグ ID: 4859494) 60
- コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352) 60
- インストール時のローカライズに関する注意事項 61
 - 選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある 61
- インストール時のローカライズに関するバグ情報 61
 - Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォントパッケージが Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードされない (バグ ID: 4653908) 61
 - タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059) 62
- 3 実行時の注意事項とバグ情報 63
 - スマートカードのバグ情報 63
 - スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094) 63
 - スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632) 64
 - 共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項とバグ情報 64
 - 共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項 64
 - 米国英語、中国語、韓国語の Unicode/UTF-8 ロケールがインストールされていないと、ヨーロッパ各国言語およびロシア語の Unicode/UTF-8 ロケールで mp 印刷コマンドの実行に失敗する (バグ ID: 4805695) 65
 - x86: CDE 起動アプリケーションが root-window 入力方式で表示される (バグ ID: 4770994) 66
 - CDE のリムーバブルメディア自動実行機能が削除されている (バグ ID: 4634260) 66
 - SPARC: FontList オプションが指定されている場合、コマンド行から起動した dtmail がクラッシュする (バグ ID: 4677329) 66
 - 行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793) 67
 - Solaris PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435) 67
 - 国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を Solaris PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814) 68
 - dtmail で不在返信メッセージを作成すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110) 68
 - [日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項 69
 - [日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565) 69

[日本語環境のみ] ATOK12 で Java のプログラムに日本語を入力するとき、不具合が生じる (バグ ID: 4780941)	69
システム管理に関するバグ情報	70
Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587)	70
Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)	70
Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)	71
アップグレード後、Solaris 管理コンソールを使用して追加したユーザーアカウントにホームディレクトリが作成されない (バグ ID: 4803524)	71
/etc/named.conf ファイルが存在する場合、Solaris 管理コンソールからユーザーアカウントまたはグループツールで処理を実行しようとするとき失敗する (バグ ID: 4777931)	72
x86: BIOS のブート時に F4 キーを押すと Service パーティションのブートに失敗する (バグ ID: 4782757)	73
Solaris 9 4/03 オペレーティング環境で、UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403)	74
Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)	74
XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID: 4497393、4497399、4497406、4497411)	75
Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)	75
WBEM でデータを追加しようとするとき CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)	76
[日本語環境のみ] Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の Sun ONE Console で GUI 上のレイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)	76
admintool を使用してユーザーを作成する場合の注意事項	77
Solaris ボリュームマネージャの問題	77
Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある	77
Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報	78
障害の発生したホットスワップディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの metahs -e コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)	78
論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの metadevadm コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)	79
Solaris ボリュームマネージャの metarecover コマンドが metadb 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)	80
ネットワーキングに関するバグ情報	81
フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパ	

- ケットが失われることがある (バグ ID: 4152864) 81
- セキュリティに関するバグ情報 81
 - CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474) 81
 - cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431) 82
- ソフトウェアに関するその他のバグ情報 82
 - SPARC: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114) 82
- DOCUMENTATION CD に関する注意事項 83
 - iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない 83
 - 他のドキュメントパッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要 83
- DOCUMENTATION CD に関するバグ情報 84
 - ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475) 84
 - Solaris 9 4/03 ドキュメントパッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 4/03 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961) 84
- ローカライズに関する注意事項 85
 - ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項 85
 - Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードのハードウェアがサポートされない 86
- ローカライズに関するバグ情報 87
 - SPARC: アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879) 87
 - ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314) 87
- Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関するバグ情報 88
 - [日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123) 88
 - [日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428) 88
 - Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571) 89
- Netscape 7.0 に関する注意事項 89
- Sun ONE Application Server のバグ 89
 - デフォルトのブラウザが Sun ONE Application Server 7 と互換性がない (バグ ID: 4741123) 89
 - SPARC: Netscape Navigator の一部のバージョンでアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされていない (バグ ID: 4750616) 90

Oracle 9.2 クライアントで Oracle 9.1 データベースにアクセスすると、データが破壊される場合がある (バグ ID: 4707531)	90
SPARC: コマンド行で作成した持続マネージャファクトリのリソースを表示すると、管理インタフェースはバリファイアエラーを表示する (バグ ID: 4733109)	91
SPARC: <code>server.xml</code> ファイルの <code>iiop-listener</code> 要素のアドレス属性は、 <code>any</code> 値をサポートしない (バグ ID: 4743366)	91
SPARC: SSL 対応環境への移行時にアプリケーションサーバーが再起動に失敗する (バグ ID: 4723776)	91
SPARC: 動的再ロードの実行中にアプリケーションサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4750461)	92
システムのデフォルトエンコーディングが UTF-8 ではない場合、コンソール出力が適切に表示されない (バグ ID: 4757859)	92
外部証明書のニックネームが、管理インタフェースのニックネームリストに表示されない (バグ ID: 4725473)	93
SPARC: <code>flexanlg</code> コマンドを使用すると、オープンエラーが表示される (バグ ID: 4742993)	94
IPv6 のみに対応したクライアントからアプリケーションサーバーに接続できない (バグ ID: 4742559)	94
変更したサンプルが、再配置するまで更新されない (バグ ID: 4726161)	95
SPARC: トランザクションの設定に 0 以外の値を指定すると、ローカルトランザクションが遅くなる (バグ ID: 4700241)	96
Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない (バグ ID: 4732684)	96
アプリケーションの動的再ロードおよび呼び出し中にアクセス権の問題が発生する (バグ ID: 4756981)	96
IPv6 アドレスに対する DNS アドレス参照が失敗すると、RMI-IIOP クライアントが IPv6 アドレスに対して動作しない (バグ ID: 4743419)	97
アプリケーションまたはシステムが UTF-8 エンコーディングを使用していない場合、「表示するエントリタイプ」フィールドに指定した値はイベントログ中で文字化けする (バグ ID: 4763655)	97
デフォルトの管理コンソールの GUI が (ローカライズ版で) 英語で表示される (バグ ID: 4761017)	97
<code>asadmin</code> ヘルプから翻訳されたマニュアルページが呼び出せない (バグ ID: 4758671)	98
Sun ONE Application Server のセキュリティ関連のバグ	98
アプリケーションサーバーがすべてのインスタンスを <code>root</code> として開始するため、 <code>root</code> 以外のユーザーにも <code>root</code> アクセス権が許可される (バグ ID: 4780076)	98
Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の問題	100
設定の問題	100
スキーマの問題	101
レプリケーションの問題	101
サーバープラグインの問題	101

サービスのロールとクラスの問題	101
インデックスの問題	101
Sun ONE Directory Server に関するバグ情報	102
Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)	102
ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)	102
サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)	103
ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが有効なまま残る (バグ ID: 4527623)	103
インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)	103
DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)	103
エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)	104
レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)	104
その他	105
バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない	105
4 追加情報	107
Solaris Live Upgrade を使用した Solaris フラッシュ差分アーカイブのインストール	107
概要	107
5 サポート中止に関する情報	111
Solaris 9 でサポートを中止した製品	111
adb マップ修飾子とウォッチポイント構文	111
AnswerBook2 文書サーバー	112
aspppd ユーティリティ	112
ATOK8 日本語入力方式	112
crash ユーティリティ	112
Solaris ipcs コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション	112
cs00 日本語入力方式	113
x86: devconfig コマンド	113
x86: デバイスとドライバソフトウェアのサポート	113
アーリーアクセス (EA) ディレクトリ	113
ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ	114
enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタ	114
x86: Intel 486 システム	114

japanese ロケール	114
Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2	114
JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8	114
libjapanese.a	115
OpenWindows 開発ツールキット	115
OpenWindows ユーザー環境	115
プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ (priority_paging/cachefree)	115
s5fs ファイルシステム	116
sdtudc_extract_ps	116
sendmail ユーティリティ機能	116
SUNWebnfs パッケージ	117
sun4d ベースのサーバー	117
SUNWrdrn パッケージ	117
将来のリリースでサポートを中止する予定の製品	117
AdminTool コマンド	117
アジアの短縮 dtlogin 名	118
廃止されるデバイスドライバインタフェース (DDI)	118
power.conf の Device Management エントリ	120
デバイスとドライバソフトウェアのサポート	121
フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド	121
GMT zoneinfo タイムゾーン	121
SPARC: グラフィックドライバのサポート	121
JRE 1.2.2	122
Kerberos バージョン 4 クライアント	122
Korean CID フォント	122
LDAP クライアントライブラリ	122
廃止される軽量プロセス (LWP) インタフェース	122
匿名インタフェースグループ機能	123
netstat の -k オプション	123
NIS+ ネームサービスの種類	123
pam_unix モジュール	123
Perl バージョン 5.005_03	124
電源管理入出力制御コマンド	124
64-bit SPARC: libc の ptrace(2) インタフェース	124
sendmailvars と L sendmail.cf コマンドまたは G sendmail.cf コマ ンド	125
Solaris 32 ビット Sun4U カーネル	125

Solaris スタティックシステムライブラリ	126
Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム	126
Solstice Enterprise Agents	126
SPC ドライバ	126
スタンドアロンのルーター検出	126
sun4m ハードウェア	127
Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカード	127
XIL	127
xutops プリントフィルタ	127

6 マニュアルに関する情報 129

マニュアルの訂正・補足と注意事項 129

『Solaris WBEM 開発ガイド』の付録 A 「Solaris スキーマ」 129

『Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の概要』の「ソフトウェア開発者用マニュアルの変更」 129

『Solaris WBEM 開発ガイド』 130

『Solaris WBEM 開発ガイド』の「クライアントプログラムの記述」 130

『Sun ONE Application Server 7 開発者ガイド』 130

『Solaris ボリュームマネージャの管理』の「ルート (/) のミラー化に関する特殊な考慮事項」 132

[日本語環境のみ] X Window System 関係の日本語翻訳マニュアルページが古い 132

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD に関する注意事項 132

ナビゲーションファイルに関する注意事項 132

『Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) - Japanese』の日本語版マニュアルについて 133

A Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のパッチについて 135

SPARC パッチの一覧 135

x86 パッチの一覧 159

はじめに

本書『Solaris™ 9 4/03 ご使用にあたって』は、Solaris 9 4/03 をご使用になるにあたって最初に読んでいただくマニュアルです。Solaris 9 4/03 オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報や、既知の問題点について説明します。

『Solaris 9 4/03 ご使用にあたって』は、以下の2つの版が存在します。

- Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD の「Solaris 9 4/03 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの
- <http://docs.sun.com> に掲載されている「Solaris 9 4/03 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの (『Solaris 9 4/03 インストールにあたって』 + 最新情報が記載されている) - 本書

注 - Solaris オペレーティング環境は、SPARC® プラットフォームおよび x86 プラットフォーム上で動作します。また、Solaris オペレーティング環境は、64 ビットおよび 32 ビットのアドレス空間で動作します。本書で説明する情報は、章、節、注、箇条書き、図、表、例、またはコード例において特に明記しない限り、両方のプラットフォーム、および両方のアドレス空間に該当します。

対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 9 4/03 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

内容の紹介

本書は、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境ソフトウェアに関する以下の情報を提供します。

第1章では、Solaris 9 4/03 のメディアについて説明しています。

第2章では、インストールに関する注意事項とバグについて説明しています。この章の内容を理解してからインストールを開始してください。

第3章では、Solaris 9 4/03 実行時の注意事項とバグについて説明しています。

第4章では、Solaris 9 4/03 のマニュアルセットの発行後に追加された情報について説明しています。

第5章では、サポートを終了するソフトウェア機能またはハードウェアについて説明しています。

第6章では、Solaris 9 4/03 のマニュアル中の記述に関する、補足事項や訂正事項を説明しています。

付録 A では、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のパッチについて説明しています。

Solaris のほかに付属のソフトウェアをインストールする場合は、付属ソフトウェアに含まれている最新リリース情報を参照して、そのソフトウェアに関する注意事項とバグ情報を確認してください。

関連マニュアル

Solaris 9 4/03 をインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- 『Solaris 9 インストールの手引き』
- 『Solaris 9 インストールガイド』 (Part No: 817-1217)
- 『Solaris 9 4/03 ご使用にあたって』。次のメディアでご利用いただけます。
 - Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の Solaris 9 4/03 Release and Installation Collection - Japanese
 - <http://docs.sun.com> (最新版) (本書)
 - 「Solaris 9 4/03 System Administrator Collection - Japanese」
 - 『Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の概要』

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、インストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアのメーカーから提供される『Solaris 9 Sun ハードウェアマニュアル』などのインストール手順の補足資料を参照してください。

注 - このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の素材について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面 上のコンピュータ出力と区別して示 します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特 定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm</code> <code>filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガ イド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー 名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照して ください。 この操作ができるのは、「スーパー ユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキスト がページ行幅を超える場合に、継続 を示します。	<code>sun% grep '^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をすることがあります。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Solaris 9 4/03 のメディアの概要

Solaris 9 4/03 は、複数言語をサポートするマルチリンガル製品です。この章では、Solaris 9 4/03 に含まれている CD および DVD について説明します。

Solaris 9 4/03 のメディア

Solaris 9 4/03 のメディアについて、概要を説明します。

Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD



この CD には、Solaris Web Start 3.0 インストールプログラムが含まれています。Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris ソフトウェアおよび同梱の CD に含まれているその他のソフトウェアをインストールする場合に使用します。

Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 4/03 オペレーティング環境 (「コアシステムサポート」と一部の「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループ用のソフトウェア)
- 従来の suninstall インストールプログラム

注 - GUI (Motif) 版の suninstall は削除されました。CUI 版はアジア言語でもローカライズされました。

Solaris 9 4/03 SOFTWARE 2 of 2 CD



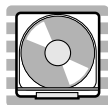
この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 4/03 オペレーティング環境 (「エンドユーザーシステムサポート」の残り
と、それ以上のソフトウェアグループ用のソフトウェア)

- ExtraValue ソフトウェア

ExtraValue ソフトウェアには、サポート対象である CoBundled ソフトウェア (SunScreen 3.2、 Web Start Wizards SDK 3.0.1) と評価用のアーリーアクセス・ソフトウェア (Bonus_Languages) が含まれています。Bonus_Languages (SPARC 版のみ) には、Solaris 8 用のカタロニア語、ポーランド語、ロシア語の CDE の翻訳メッセージが含まれています。

Solaris 9 4/03 LANGUAGES CD



この CD には、Solaris オペレーティング環境で英語以外の言語を使用する際に必要なソフトウェアが含まれています。

注 - Solaris 9 4/03 でサポートされているすべてのロケールの基本機能 (言語の入力、出力、印刷、データ処理) をサポートするソフトウェア (部分ロケールと呼ぶ) は、SOFTWARE CD に含まれています。LANGUAGES CD には、各言語用のユーザーインターフェースの翻訳および追加ソフトウェアが含まれています。

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD



この CD には、英語およびヨーロッパ言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD



この CD には、日本語およびその他のアジア言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。また、英語のオンライン文書コレクションも一部含まれています。

Solaris 9 4/03 Operating Environment DVD



この DVD には、前述のすべての CD の内容が含まれています。

Solaris Software Companion CD



この CD には、Solaris 9 オペレーティング環境向けの Linux アプリケーションと、その他のオープンソースフリーソフトウェアのコレクションが収録されています。

注 - これらのソフトウェアについては、サポートもいかなる保証も提供されません。上記ソフトウェアの一部には、その使用条件を規定するサードパーティから通知またはライセンス (あるいはその両方) が提供されています。Sun ではこれらのソフトウェアに対するサポートも支援も行なっていません。サポートに関しては、ニュースグループや Web サイトなどを参照してください。

第 2 章

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のインストールに関連した問題を説明します。

この章には、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 4/03 ご使用にあたって』の発行後に見つかった、以下のインストール時のバグに関する説明が追記されています。

- 35 ページの「x86: Service パーティションの保存、および Solaris パーティションの作成を選択すると、suninstall が終了する (バグ ID: 4832216)」
- 41 ページの「Solaris WBEM プロバイダパッケージ SUNWwbpro をインストールすると、無効なエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4824518)」
- 45 ページの「アップグレード時に、SUNWceudt パッケージをインストールできない (バグ ID: 4826785)」
- 46 ページの「アップグレード後、パッチ 114711-01 または 114712-01 に同梱された VDiskMgr.jar ファイルを手動で登録しなくてはならない」
- 47 ページの「SPARC: Managed Object Format (MOF) ファイルに依存する Solaris 管理コンソールアプリケーションは、アップグレード後に失敗する可能性がある (バグ ID: 4825349)」

日本語環境をインストールする前に 知っておく必要がある情報

必要なディスク容量

Solaris 9 4/03 の日本語環境と DOCUMENTATION CD をインストールする場合に必要なディスク容量について説明します。

Solaris 9 4/03 CD のソフトウェア容量

次の表に、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 2 of 2 CD、Solaris 9 4/03 LANGUAGES CD に含まれている日本語ロケール (ja、ja_JP.PCK、ja_JP.UTF-8) のパッケージをインストールするために必要なディスク容量を示します。Solaris 9 より、ファイルシステムの自動配置でデフォルトとして選択される領域は、ルート (/) とスワップ (swap) だけになりました。記載されている値は、このデフォルトのファイルシステムでインストールする場合に必要なルートファイルシステムの推奨値 (括弧内は最小値) で、スワップ領域に必要な容量は含まれていません。

なお、Solaris suninstall プログラムで「ソフトウェアの選択」画面に実際に表示される各ソフトウェアグループの値は、スワップ領域を含んだ値です。この値は、インストールするシステムのディスクやメモリーのサイズによって異なります。

表 2-1 Solaris 9 4/03 (SPARC 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
全体ディストリビューション と OEM サポート	2097 (1783)
全体ディストリビューション	2057 (1749)
開発者システムサポート	1723 (1464)
エンドユーザーシステムサポート	1192 (1013)

注 - この表に記載されている値は、Sun4U アーキテクチャのシステムにソフトウェアをデフォルトでインストールする場合に必要な容量で、64 ビット (sparc v9) サポートパッケージの容量を含んでいます。64 ビットパッケージをインストールしない場合や、Sun4U 以外のアーキテクチャにインストールする場合には、この表の値よりも推奨値で 100M ~ 180M バイト、最小値で 90M ~ 150M バイトほど少ない容量で済みます。

表 2-2 Solaris 9 4/03 (x86 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
全体ディストリビューション と OEM サポート	1654 (1406)
全体ディストリビューション	1654 (1406)
開発者システムサポート	1450 (1233)
エンドユーザーシステムサポート	994 (845)

Solaris DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量

次の表に、アジア言語版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている、英語および日本語のドキュメントパッケージとその容量を示します (その他のアジア言語のパッケージは省略)。これらのパッケージのうち * 印がついているパッケージは、デフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-3 Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWaadm *	Solaris 9 4/03 System Administrator Collection (HTML 版)	29
SUNWdev *	Solaris 9 4/03 Software Developer Collection (HTML 版)	20
SUNWids *	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) (HTML 版)	8
SUNWsdocs *	Documentation Navigation for Solaris 9	1
SUNWjaadm *	Solaris 9 4/03 System Administrator Collection - Japanese (HTML 版)	28
SUNWjabe *	Solaris 9 User Collection - Japanese (HTML 版)	15
SUNWjaman *	Solaris 9 4/03 Reference Manual Collection - Japanese (HTML 版) ¹	15
SUNWjdad *	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (HTML 版)	9
SUNWjdev *	Solaris 9 4/03 Software Developer Collection - Japanese (HTML 版) ¹	14
SUNWjids*	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (HTML 版)	8
SUNWjinab *	Solaris 9 4/03 Release and Installation Collection - Japanese (HTML 版)	4
SUNWwnabj *	Solaris 9 4/03 About What's New Collection - Japanese (HTML 版)	1
SUNWjasdc *	Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) - Japanese (HTML 版) ¹	3
SUNWjqdoc *	Sun ONE Message Queue 3.0.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (HTML 版)	3
SUNWpaadm	Solaris 9 4/03 System Administrator Collection (PDF 版)	26

表 2-3 Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト) (続き)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWpdev	Solaris 9 4/03 Software Developer Collection (PDF 版)	20
SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) (PDF 版)	8
SUNWpjaadm	Solaris 9 4/03 System Administrator Collection - Japanese (PDF 版)	29
SUNWpjabe	Solaris 9 User Collection - Japanese (PDF 版)	15
SUNWpjaman	Solaris 9 4/03 Reference Manual Collection - Japanese (PDF 版) ¹	16
SUNWpjdad	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (PDF 版)	10
SUNWpjdev	Solaris 9 4/03 Software Developer Collection - Japanese (PDF 版) ¹	18
SUNWpjids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (PDF 版)	12
SUNWpjina	Solaris 9 4/03 Release and Installation Collection - Japanese (PDF 版)	5
SUNWpwnabj	Solaris 9 4/03 About What's New Collection - Japanese (PDF 版)	2
SUNWpjdoc	Sun ONE Message Queue 3.0.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese (PDF 版)	5
SUNWpjasdc	Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) - Japanese (PDF 版) ¹	4

注 1: 一部のみの翻訳となりますので、全情報を参照する場合は、対応する英語のコレクションをご覧ください。

注 - * 印のついていない PDF 版のパッケージはデフォルトではインストールされません。これらのパッケージをインストールする場合には次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 2 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、パッケージを選択し、インストールを実行する。

次の表は、英語 + ヨーロッパ言語版の DOCUMENTATION 1 of 2 CD にのみ含まれており、日本語に翻訳されていないマニュアルを含む英語のドキュメントパッケージです。

それらのマニュアルをインストールする場合には、次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 1 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、該当するパッケージを選択し、インストールを実行する。

パッケージはデフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-4 Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
[英語]		
SUNWaman	Solaris 9 4/03 Reference Manual Collection (HTML 版)	54
SUNWpaman	Solaris 9 4/03 Reference Manual Collection (PDF 版)	29
SUNWakcs	KCMS Collection (HTML 版)	3
SUNWpakcs	KCMS Collection (PDF 版)	4
SUNWadoc	Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) (HTML 版)	14
SUNWpadoc	Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) (PDF 版)	20
SUNWaref	Sun ONE Application Server 7 Reference Manual Collection (HTML 版)	2
SUNWparef	Sun ONE Application Server 7 Reference Manual Collection (PDF 版)	1

日本語環境の選択

Solaris 9 4/03 のインストール中に行うことができる、日本語環境の選択について説明します。日本語環境の選択では、「デフォルトロケール」と「インストールするロケール」の2つを選択します。インストール手順の詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris 9 4/03 は、次に示すように3種類の文字エンコーディングに対応した4つの日本語ロケールをサポートしています。

- EUC をサポートする ja および ja_JP.eucJP ロケール

- PCK (PC 漢字コード) をサポートする ja_JP.PCK ロケール (シフト JIS と同等)
- Unicode の UTF-8 をサポートする ja_JP.UTF-8 ロケール

デフォルトロケールの選択

インストール後のシステムのデフォルトロケールを選択します (具体的には、`/etc/default/init` ファイル内に LANG 環境変数が定義されます)。

日本語環境をインストールする場合に、システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールを選択しなければならないわけではありませんが、日本語ロケールを選択することをお勧めします。システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていると、たとえば、システムログイン時の LANG の設定を、ユーザーごとに環境設定ファイルで定義しなくても済むようになります。また、`dtlogin` の言語設定で、デフォルトで日本語ロケールが設定されます。

- Solaris Web Start 3.0 (CD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。システムのデフォルトロケールは、「ja」に設定されます。

- Solaris suninstall プログラムまたは Solaris Web Start 3.0 (DVD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。次に、日本語ロケールとして「Japanese EUC (ja)」、「Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)」、「Japanese UTF-8 (ja_JP.UTF-8)」のいずれかを選択してください。ここで選択したロケールが、システムのデフォルトロケールとして設定されます。

Solaris Web Start 3.0 インストールでは、次の手順を実行することでデフォルトロケールを選択し直すことができます。

(例) ja_JP.PCK ロケールをデフォルトロケールにする場合

1. 「インストールの形式の選択」画面で、「カスタムインストール」を選択する。
2. 「ソフトウェアのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールのチェックボックスを ON にする (ここでチェックされていないロケールは、次の選択画面で表示されません。)
3. 「システムのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールを選択する。

注 - いずれのインストール方法を選択した場合でも、ja_JP.eucJP ロケールをデフォルトロケールとして選択することはできません。

- システムのデフォルトロケールを、インストール後に設定または変更する場合には、`/etc/default/init` ファイルでの LANG 環境変数の設定を次のようにしてから、システムを再起動します。

ja ロケールに設定	LANG=ja
ja_JP.eucJP ロケールに設定	LANG=ja_JP.eucJP
ja_JP.PCK ロケールに設定	LANG=ja_JP.PCK
ja_JP.UTF-8 ロケールに設定	LANG=ja_JP.UTF-8
c ロケールに設定	LANG= の行を削除、または LANG=C

インストール前に、このデフォルトロケールをあらかじめ設定しておくことも可能です。この事前設定をしておく、GUI インストール時にもロケール設定画面が表示されません。この設定は、カスタム JumpStart による自動インストールの場合など、意図的にロケール設定画面を表示させたくない場合に有効です。¹

インストールするロケールの選択

インストールしたいロケールを選択すると、ロケールに依存するソフトウェアパッケージがインストールされます。日本語環境をインストールするには、必ず日本語パッケージをインストールする必要があります。

注 – Solaris 9 から、インストールするロケールとして、日本語ロケールを 1 つだけ選択した場合でも、すべての日本語ロケールがインストールされるようになりました。たとえば、ja ロケールのみを選択した場合でも、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK、および ja_JP.UTF-8 ロケールがインストールされます。

- DOCUMENTATION 2 of 2 CD を Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD からインストールする場合

後述のバグ情報にあるバグ ID: 4859494 のため、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD を使用して、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールする場合には、インストールするロケールの項で、対象言語の EUC ロケールが選択されている必要があります。Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD の「カスタムインストール」を選択した後、「ソフトウェアのロケール選択」画面で EUC のロケール (日本語環境の場合は ja ロケール) を選択し、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールするように設定してください。
- Solaris suninstall プログラムの場合

「地域の選択」画面で、インストールするロケールを選択します。この画面では、あらかじめ選択したシステムのデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、この画面では ja ロケールのみが選択されますが、実際にはすべての日本語ロケールがインストールされます。
- Solaris Web Start 3.0 インストールの場合

¹ デフォルトロケールの事前設定を行う方法には、「ネームサービスに事前に定義しておく方法」と「sysidcfg ファイルを使用する方法」の 2 通りがあります。詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

「インストール形式の選択」画面にて、「デフォルトインストール」を選択した場合、システムのデフォルトロケールのみが自動的に選択され、ロケールを選択するための画面は表示されません。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールのみがインストールされます。他の言語のロケールをインストールする場合は「カスタムインストール」を選択して、「ソフトウェアのロケール選択」画面で、追加したいロケールを選択してください。

- カスタム JumpStart インストールの場合

カスタム JumpStart インストールが参照するプロファイルに locale キーワードを追加します。²

日本語ロケール環境をインストールする場合には、locale キーワードの値に ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK または ja_JP.UTF-8 のいずれかを指定します。

なお、プロファイル中で locale キーワードを明示的に定義しない場合でも、デフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていれば、すべての日本語ロケール環境が自動的にインストールされます。

Solaris 9 4/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要がある注意事項

SPARC: Solaris 9 4/03 DVD からのブート

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境は DVD でも提供されています。DVD からインストールまたはアップグレードを行うには、Solaris 9 4/03 DVD を DVD-ROM ドライブに挿入して、ok プロンプトで次のコマンドを入力し、システムをブートします。

```
ok boot cdrom
```

x86: Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD のパーティションに関する問題

Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD の Solaris Web Start 3.0 プログラムがシステムで Solaris の fdisk パーティションを検出できない場合は、root ディスクに fdisk パーティションを作成する必要があります。

² locale キーワードは、日本語パッケージのインストールに影響しますが、システムのデフォルトロケールを決定するものではありません。



注意 - 現行の fdisk パーティションサイズを変更すると、パーティション内のデータはすべて自動的に削除されます。Solaris の fdisk パーティションを作成する前に、データをバックアップしてください。

Solaris Web Start 3.0 プログラムでインストールを実行するためには、次の 2 つの fdisk パーティションが必要になります。

- Solaris の fdisk パーティション
標準的な Solaris の fdisk パーティションです。
- x86 ブート fdisk パーティション
10M バイトの fdisk パーティションです。x86 ベースのシステムで新しく作成されたスワップスライスからミニルートを起動できるようにします。そのスワップスライスは Solaris の fdisk パーティション上に置かれます。

注 - Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD に同梱されているインストールプログラムは、x86 ブートパーティションを作成し、Solaris の fdisk パーティションを 10M バイトだけ削除します。この削除により、既存の fdisk パーティションが変更されることはありません。

このパーティションは手動で作成しないでください。

また、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD を使用して Solaris 2.6 または 7 リリースから Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードすることはできません。詳細については、41 ページの「アップグレードに関する注意事項とバグ情報」を参照してください。

x86: 起動ディスクのデフォルトパーティションレイアウトの変更

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、起動ディスクに対するデフォルトのパーティションレイアウト方式が変更されました。Solaris Web Start および suninstall プログラムを使用して Sun™ LX50 システムをインストールする際にこの新しい方式を使用すると、既存の Service パーティションが保持されます。

新しいデフォルトの設定には次のパーティションが含まれています。

- 第 1 パーティション - Service パーティション (既存の Service パーティション)
- 第 2 パーティション - x86 ブートパーティション (約 11M バイト)
- 第 3 パーティション - Solaris パーティション (起動ディスクの残りの容量)

デフォルトのレイアウトを使用するには、Solaris Web Start または suninstall プログラムから起動ディスクのレイアウト選択を要求されたときに「デフォルト」を選択します。

注 – Service パーティションが作成されていないシステムに Solaris 9 4/03 オペレーティング環境 (x86 版) をインストールすると、Solaris Web Start および suninstall プログラムはデフォルトでは新しい Service パーティションを作成しません。システムに Service パーティションを作成するには、31 ページの「x86: Service パーティションがないシステムでは、デフォルトで Service パーティションが作成されない」を参照してください。

また、fdisk コマンドユーティリティを使用して、手動でディスクパーティションレイアウトを作成することもできます。次の場合、起動ディスクのパーティションを手動で編集します。

- 既存の Sun Linux パーティションを保持する場合
- Solaris パーティションを作成する必要があるが、既存のパーティションをディスクに残す場合

注 – システム上にアップグレード対象の Solaris オペレーティング環境がすでにインストールされているが x86 ブートパーティションがない場合、Solaris INSTALLATION CD によるアップグレードは実行できません。x86 ブートパーティションが作成されていないシステムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードするには、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD に同梱されている suninstall プログラムを使用してください。

SPARC: デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある

Solaris 9 4/03 メディアのデフォルトの Solaris JumpStart™ プロファイルを使用して、ディスク容量の小さいシステムに複数のロケールをインストールすると、インストールが失敗することがあります。この問題は、次の状況で発生する可能性があります。

- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、2.1 G バイトディスクのシステムに C ロケール以外のロケールをインストールする
- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、4 G バイトディスクのシステムに 2 つ以上のロケールをインストールする

x86: Service パーティションがないシステムでは、デフォルトで Service パーティションが作成されない

Service パーティションが存在しないシステムに Solaris 9 4/03 オペレーティング環境をインストールすると、インストールプログラムはデフォルトでは Service パーティションを作成しません。Service パーティションを Solaris パーティションと同じディスクに作成するには、Service パーティションを作成しなおしてから、オペレーティング環境をインストールする必要があります。

Solaris 8 2/02 オペレーティング環境を Sun LX50 システムにインストールする場合、インストールプログラムが Service パーティションを保存しない可能性があります。fdisk ブートパーティションのレイアウトを手動で編集して Service パーティションを保存しないと、インストールプログラムはインストール時に Service パーティションを削除します。

注 - Solaris 8 2/02 オペレーティング環境をインストールしたときに Service パーティションを明示的に保存しないと、Service パーティションを作成しなおして、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードできません。その場合、ソフトウェアを最初からインストールしなおす必要があります。

回避方法: Solaris パーティションを含むディスク上に Service パーティションがある場合は、次のいずれかを実行してください。

- Solaris Web Start インストールプログラムを使用し、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD からインストールするには、次の手順を実行します。

1. ディスクの内容を削除します。
2. インストールを開始する前に、Sun LX50 Diagnostics CD を使用して Service パーティションを作成します。

Service パーティション作成の詳細については、<http://www.sun.com> で『Sun LX50 Server User's Manual (英語版)』および Sun LX50 Knowledge Base (英語版) を参照してください。

3. Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
4. Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のインストールを開始します。

インストールプログラムが Service パーティションを検出すると、次のメッセージが表示されます。

デフォルトでは、ブートディスクの空いている領域に、x86 Boot パーティションと Solaris パーティションが配置されます。サービス fdisk パーティションが存在する場合は、デフォルトで保持されます。

継続するには次のいずれかを選択してください:

- 1) デフォルトのディスク配置を使用する

- 2) fdisk を実行し、ディスクを手動で編集する
- 3) 終了する

選択してください: []

5. 1 を入力して、デフォルトレイアウトを選択します。
インストールプログラムにより Service パーティションが保存された後、x86 ブートパーティションと Solaris パーティションが作成されます。

注 - Solaris Web Start インストールプログラムは、Solaris の fdisk パーティションを 10M バイトだけ削除して x86 ブートパーティションを作成します。このユーティリティは、既存の fdisk パーティションが変更されないようにします。このパーティションを手動で作成しないでください。

6. インストールを完了します。
- ネットワーク上のインストールイメージを使用するか、Solaris 9 4/03 DVD を使用してネットワーク上でインストールするには、次の手順を実行します。
 1. ディスクの内容を削除します。
 2. インストールを開始する前に、Sun LX50 Diagnostics CD を使用して Service パーティションを作成します。
Service パーティション作成の詳細については、<http://www.sun.com> で『Sun LX50 Server User's Manual (英語版)』および Sun LX50 Knowledge Base (英語版) を参照してください。
 3. ネットワーク上でシステムを起動します。
「fdisk パーティションのカスタマイズ」画面が表示されます。
 4. 「デフォルト」をクリックし、デフォルトのブートディスクパーティションレイアウトを読み込みます。
インストールプログラムにより Service パーティションが保存された後、x86 ブートパーティションと Solaris パーティションが作成されます。
ネットワーク上でシステムをブートする詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。
 - suninstall プログラムを使用し、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD またはブートサーバー上のネットワークインストールイメージでオペレーティング環境をインストールするには、次の手順を実行します。
 1. ディスクの内容を削除します。
 2. インストールを開始する前に、Sun LX50 Diagnostics CD を使用して Service パーティションを作成します。
Service パーティション作成の詳細については、<http://www.sun.com> で『Sun LX50 Server User's Manual (英語版)』および Sun LX50 Knowledge Base (英語版) を参照してください。
 3. システムを起動します。

インストールプログラムで、Solaris パーティションの作成方法の選択を促すプロンプトが表示されます。

4. 「残りのディスクを使用して Solaris パーティションを配置します」を選択します。

インストールプログラムにより Service パーティションが保存された後、Solaris パーティションが作成されます。

5. インストールを完了します。

ネットワーク上でシステムをブートする詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

x86: Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) ブート用フロッピーディスクが使用できない

Solaris 9 4/03 リリースでは、Solaris 9 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) はブート用フロッピーディスクとして配布されていません。Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) をブートするには、次のいずれかの方法を選択してください。

- システムの BIOS が CD-ROM ドライブからのブートをサポートしている場合は、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD (x86 版)、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD (x86 版)、または Solaris 9 4/03 SOFTWARE DVD (x86 版) からブートします。
- ブート用ディスクのイメージをフロッピーディスクにコピーし、ブート用フロッピーディスクを作成します。ブート用ディスクのイメージは、次の場所にあります。
 - Solaris 9 4/03 SOFTWARE 2 of 2 CD (x86 版)
 - Solaris Developer Connection Web サイト
(http://soldc.sun.com/support/drivers/dca_diskettes)

イメージをフロッピーディスクにコピーし、フロッピーディスクからシステムをブートします。

- システムが PXE (Preboot Execution Environment) によるブートをサポートしており、インストールイメージがネットワーク上で使用できる場合は、ネットワークからブートします。

システムの BIOS 設定ツールまたはネットワークアダプタの設定ツールを使用して、PXE の使用を有効にします。

詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

x86: Solaris 9 オペレーティング環境へアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS を最新のものに更新する必要がある

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境には、サイズの大きいパーティションをインストールするための新しい機能が追加されています。DPT PM2144UW コントローラの BIOS は、LBA (論理ブロックアドレス指定、Logical Block Addressing) をサポートしていなければなりません。最新の BIOS は、LBA アクセスを完全にサポートしています。LBA をサポートするために、ほかの DPT コントローラモデルも更新しなくてはならない場合があります。

回避方法: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS が最新のバージョンであることを確認してください。

システムに DPT コントローラがインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

1. 次のコマンドを実行します。

```
prtconf -D
```

2. 名前 **dpt** が表示されたら、カードの構成ユーティリティを起動して、機種や **BIOS** のバージョンに関する情報を取得します。
3. **BIOS** をフラッシュするか、最新の **BIOS EPROM** をインストールして、**DPT PM2144UW** コントローラをアップグレードします。すべての **DPT** コントローラの最新の **BIOS** イメージについては、<http://www.dpt.com> を参照してください。

これで、システムをアップグレードできます。

x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境には、サイズが大きいパーティションをインストールできる新しい機能が含まれています。システム BIOS は Logical Block Addressing (LBA) をサポートしている必要がありますが、BIOS バージョン GG.06.13 は LBA アクセスをサポートしていません。このような衝突を Solaris ブートプログラムは処理できません。このことは他の HP Vectra システムにも影響します。

このシステムをアップグレードすると、HP システムはブートしなくなります。暗い画面上に点滅する下線が表示されるだけです。

回避方法: 最新の BIOS バージョン GG.06.13 の HP Vectra XU シリーズシステムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードしないでください。Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、これらのシステムはサポートされていません。

ブートフロッピーディスクまたはブート CD を使用すれば、ブートにハードディスクコードを使用しないので、システムをブートすることができます。ブート可能デバイスとして、ネットワークまたは CD-ROM ドライブではなくハードディスクを選択してください。

Solaris 9 4/03 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ

x86: Service パーティションの保存、および Solaris パーティションの作成を選択すると、`suninstall` が終了する (バグ ID: 4832216)

`suninstall` インストールプログラムを使用して、既存の Service パーティションを持つシステムに Solaris 9 4/03 オペレーティング環境 (x86 版) をインストールしようとする、インストールプログラムが終了する可能性があります。この問題は、下記の状況で発生します。

- `suninstall` プログラムを使用して Solaris 9 4/03 オペレーティング環境をインストールする。
- インストール時に、既存の Service パーティションを持つディスクの配置を選択するが、そこに Solaris `fdisk` パーティションは含まれていない。
- 「Solaris `fdisk` パーティションの作成」パネルで「サービスパーティションを保存し、Solaris `fdisk` パーティションを作成」オプションを選択する。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従って、`suninstall` プログラムの実行時に Solaris `fdisk` パーティションを手動で作成する。
 1. `suninstall` インストールプログラムから Solaris `fdisk` パーティションの作成方法を選択するよう要求されたら、「手作業で `fdisk` パーティションを作成」オプションを選択する。
 2. Service パーティションを保持したまま、Solaris `fdisk` パーティションを作成する。

3. インストールを完了する。
- 次の手順に従って、`fdisk` コマンドを使用して Solaris `fdisk` パーティションを作成する。
 1. F5 ファンクションキーを押して `suninstall` インストールプログラムを終了する。
 2. 端末ウィンドウが開く。
`fdisk` パーティションの作成について詳細は、`fdisk(1M)` のマニュアルページを参照してください。
 3. 次のコマンドを入力して `suninstall` インストールプログラムを再起動する。

```
# suninstall
```
 4. インストールを完了する。

x86: 3Com 3c905C ネットワークインタフェースカードを使用すると、インストールに失敗することがある (バグ ID: 4791458)

3Com 3c905C ネットワークインタフェースカードを使ってネットワークインストールを実行すると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
elxl%d: no active connection found; please connect
```

このエラーメッセージが表示された場合、インストールがハングアップする可能性があります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 別のネットワークインタフェースを使ってネットワークインストールを実行する
- Solaris 9 4/03 DVD または Solaris 9 4/03 CD を使ってインストールを実行する

ネットワークインストールの詳しい手順については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

x86: PXE ネットワークブートが Sun LX50 Systems で正常に実行されない (バグ ID: 4725108)

PXE (Preboot Execution Environment) ネットワークブートを使用して、Sun™ LX50 システムに Solaris 9 4/03 オペレーティング環境をインストールすると、ネットワークブートに失敗することがあります。その場合、次のメッセージが表示されます。

```
error: Assertion failure: - "rp->flags & RESF_ALT", "ur.c" line 80
```

```
The root filesystem is not mounted and the configuration assistant
```

has exited prematurely. Booting is unlikely to succeed.
CTL-ALT-DEL may be used to reset the machine.

Failover to boot interpreter - type ctrl-d to resume boot

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- PXE ネットワークブートが不要な場合は、次の手順を実行します。
 1. 次のいずれかのメディアを使用してシステムをブートします。
 - Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD
 - Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD
 - ブート用フロッピーディスクの Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助、DCA)
Solaris DCA によるブートの詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。
 2. DCA を実行し、ネットワークデバイスの選択が要求されたら、適切なネットワークデバイスを選択してシステムをブートします。
- PXE ネットワークブートを使用する場合は、インストール時にシステムの BIOS でシリアルコンソールを無効にします。Sun LX50 システムでの BIOS 変更の詳細については、『Sun LX50 Server Manual (英語版)』(<http://www.sun.com/servers/entry/lx50/documentation2.html>) を参照してください。

Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)

システムに、ファームウェアリビジョン 1007 の Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブが含まれていると、Solaris 9 4/03 DVD からのブートが失敗します。

回避方法: パッチ 111649-03 以降を適用して Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブのファームウェアを更新します。パッチ 111649-03 は、Solaris 9 4/03 Supplement CD の次のディレクトリにあります。

DVD_Firmware/Patches

パッチのインストール方法については、上記のディレクトリにある README ファイルを参照してください。パッチをインストールする前に、README ファイルに記載されている注意事項や警告内容のすべてに目を通して、その内容に従って作業してください。

Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 4/03 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)

Solaris 2.6 オペレーティング環境または Solaris 7 オペレーティング環境を実行しているシステムでは、Solaris 9 4/03 DVD がボリューム管理によって正しくマウントされません。そのため、インストールサーバーを設定したり、Live Upgrade を実行したり、メディア上のデータにアクセスしたりできません。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- システムに対応したパッチを適用する。

表 2-5 Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境用の DVD パッチ

リリース	パッチ ID
Solaris 2.6 オペレーティング環境 (SPARC 版)	107618-03
Solaris 7 オペレーティング環境 (SPARC 版)	107259-03
Solaris 2.6 オペレーティング環境 (x86 版)	107619-03
Solaris 7 オペレーティング環境 (x86 版)	107260-03

- Solaris 9 4/03 DVD をマウントする。

ただし、ボリューム管理を使用しないでください。次の手順に従って、手動で DVD をマウントします。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリューム管理を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```

3. 手動で DVD をマウントします。

```
# mkdir /mnt1
```

```
# mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /mnt1
```

4. DVD がマウントされていて、DVD 上のデータにアクセスできることを確認します。

```
# cd /mnt1
```

```
# ls
```

DVD が正しくマウントされている場合は、システムから次の情報が返されます。

```
Copyright Solaris_9
```

Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報

Solaris Web Start 3.0 を使用したインストールに関する情報と問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris suninstall プログラムを使用するときには発生しません。

Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 4/03 ドキュメントをインストールする方法

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD (英語版 + ヨーロッパ言語版) には、英語のドキュメントがすべて含まれています。アジア版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD には、一部のアジア言語にだけ翻訳されている、またはまったく翻訳されていない、以下の英語ドキュメントが含まれています。

Solaris 9 4/03 Software Developer Collection

Solaris 9 4/03 System Administrator Collection

iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition)

DOCUMENTATION 2 of 2 CD に付属のインストーラでは、これらのドキュメントの HTML 版が、デフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からインストールする必要があります。

Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD から Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris オペレーティング環境をインストールする場合、上記の英語版 HTML ドキュメントは DOCUMENTATION 2 of 2 CD からデフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、Solaris Web Start 3.0 の「製品の選択」画面で「Solaris 9 Documentation European」を選択して、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からドキュメントをインストールしてください。

Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD からインストールする場合の注意事項と問題について説明します。

ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)

インストール中、ファイルシステムの作成時に、次のどちらかの警告メッセージが出力される可能性があります。

```
Warning: inode blocks/cyl group (87) >= data blocks (63) in last cylinder group. This implies 1008 sector(s) cannot be allocated.
```

または

```
Warning: 1 sector(s) in last cylinder unallocated
```

この警告メッセージは、作成中のファイルシステムのサイズと使用しているディスク上の容量が等しくない場合に表示されます。この場合、ディスク上に、作成中のファイルシステムには取り込まれない未使用の領域ができます。この未使用のディスク領域は、他のファイルシステムに割り当ててはできません。

回避方法: 警告メッセージは無視してください。警告メッセージが表示されても問題は発生しません。

[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項

CD からのインストールにおいて、ソフトウェアグループとして「コアシステムサポート」を選択した場合、インストールするロケールとして日本語ロケールを選択しても、LANGUAGES CD に含まれる日本語パッケージはインストールされません。これは、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールが完了し、システムがリブートした後、コアシステムの環境で LANGUAGES CD のインストールを起動できないためです。

回避方法: インストール終了後、次のように pkgadd (1M) コマンドを使用して LANGUAGES CD に含まれる必要な日本語パッケージをインストールしてください。


```
# cd /cdrom/sol_9_403_lang_sparc/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjfpref SUNWjfpue SUNWjos SUNWjws2
```

LANGUAGES CD のイメージを含むインストールサーバーを使用して Solaris suninstall プログラムによるインストールを行う場合や、Solaris Web Start 3.0 でインストールする場合は、この問題は起こりません。

インストール時またアップグレード時に発生するバグ情報

Solaris WBEM プロバイダパッケージ SUNWwbpro をインストールすると、無効なエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4824518)

Solaris 4/03 オペレーティング環境をインストールする場合、次のエラーメッセージが /var/sadm/system/logs/install_log ファイルに記録されます。

```
/tmp/Solaris_Application.mof: No such file or directory
```

Solaris 4/03 オペレーティング環境をアップグレードする場合、同じエラーメッセージが /var/sadm/system/logs/upgrade_log ファイルに記録されます。

このメッセージは、Solaris WBEM プロバイダパッケージ (SUNWwbpro) のインストール時に表示されます。

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。パッケージのインストールに影響はありません。このエラーメッセージは、インストールプログラムが、存在しない一時ファイルを削除しようとするために記録されます。

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

旧リリースの Solaris がインストールされているシステムを、Solaris 9 4/03 にアップグレードする場合の注意事項とバグについて説明します。

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない

使用している Solaris 8 システムが、Storage Area Network (SAN) に接続されている場合、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする前にサポートエンジニアに確認してください。SUNWsan がインストールされている Solaris 8 システムを、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードするには特別な手順が必要があります。システムに SUNWsan パッケージがインストールされているかどうかを確認するには、端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
# pkginfo SUNWsan
```

SUNWsan パッケージがインストールされていると、次の情報が表示されます。

```
system          SUNWsan          SAN Foundation Kit
```

Solaris suninstall プログラムによるアップグレードでのロケール選択

Solaris 8 から、インストールするロケールを選択する機構が変更されました。このため、Solaris suninstall プログラムを使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 9 4/03 へアップグレードすると、既存システムのインストール時に明示的にインストールしなかったロケールが「地域の選択」画面で自動的に選択されます。これは、既存システムのインストール時に明示的に指定していないロケールのソフトウェアが、暗黙のうちにインストールされていたためです。

既存システムのインストール時にインストールするロケールとして明示的に指定しなかったロケールが含まれている地域を、「地域の選択」画面で選択解除することができます。余分なロケールをそのまま選択解除せずにアップグレードを行っても問題はありません。アップグレードしたシステムには、アップグレード前と同じレベルのロケール環境がサポートされます。ただし、既存のシステムに明示的にインストールしたロケールは、「地域の選択」画面で削除することはできません。

x86: Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD (x86 版) を使用して x86 システムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードできない

x86 ブートパーティションに関する制限事項のために、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD (x86 版) を使用して、Solaris 2.6 または Solaris 7 の x86 システムを Solaris 9 へアップグレードすることはできません。x86 システムでは、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD (x86 版) を使用して、Solaris 2.6 または Solaris 7 から Solaris 9 4/03 へのアップグレードを行なってください。

旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない

Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアは、旧バージョンの Solaris Management Console 1.0、1.0.1、1.0.2 ソフトウェアと互換性がありません。Solaris Management Console™ 1.0、1.0.1、1.0.2 のいずれかのソフトウェアがインストールされた状態で Solaris 9 4/03 オペレーティング環境およびその互換バージョンにアップグレードしたい場合は、Solaris Management Console ソフトウェアをアンインストールする必要があります。システムに SEAS 2.0、SEAS 3.0、Solaris 8 Admin Pack のいずれかがインストールされていると、Solaris Management Console ソフトウェアが終了することがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アップグレードする前に `/usr/bin/prodreg` コマンドを実行して、Solaris Management Console ソフトウェアのフルアンインストールを行います。
- アップグレード前に Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 をアンインストールしていなかった場合は、Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 のすべてのパッケージを削除する必要があります。パッケージの削除には `prodreg` コマンドではなく、`pkgrm` コマンドを使用します。必ず、手順に記載された順番どおりに削除してください。以下の手順に従います。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを実行します。

```
# pkginfo |grep "Solaris Management Console"  
# pkginfo |grep "Solaris Management Applications"  
# pkginfo |grep "Solaris Diskless Client Management Application"
```

上記の出力結果で、パッケージ名の説明文の先頭に「Solaris Management Console 2.1」という文字列がない場合、そのパッケージは Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアのパッケージです。

3. `pkgrm` を使用して、Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – 説明文に「Solaris Management Console 2.1」という文字列が含まれているパッケージは削除しないでください。たとえば、SUNWmc.2 は Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアのパッケージです。

pkginfo の出力に、複数のバージョンの Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージが含まれている場合は、pkgrm を使用して、すべてのバージョンを削除してください。このとき、パッケージ名の末尾に番号が付いていないものを先に削除します。その後で、末尾に番号が付いているものを削除してください。たとえば、pkginfo の出力に SUNWmcman と SUNWmcman.2 が含まれている場合、最初に SUNWmcman を削除して、次に SUNWmcman.2 を削除します。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWmcman
# pkgrm SUNWmcapp
# pkgrm SUNWmcsvr
# pkgrm SUNWmcsvu
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmcsws
```

4. 端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# rm -rf /var/sadm/pkg/SUNWmcapp
```

これで Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。将来 Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアの保守を行う際は、または、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能しない場合は、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアをいったん削除します。次の手順で再インストールしてください。

1. pkgrm を使用して、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – SUNWmc と SUNWmc.2 のように、ある Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアパッケージに対して複数のインスタンスがシステム上に存在する場合は、最初に SUNWmc を削除して、次に SUNWmc.2 を削除してください。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWjadcl
# pkgrm SUNWjrmui
# pkgrm SUNWjlvmg
# pkgrm SUNWjmga
# pkgrm SUNWjsmc
# pkgrm SUNWpmgr
# pkgrm SUNWrmui
# pkgrm SUNWlvmg
# pkgrm SUNWlvma
```

```
# pkgrm SUNWlvmr
# pkgrm SUNWdclnt
# pkgrm SUNWmga
# pkgrm SUNWmgapp
# pkgrm SUNWmcdev
# pkgrm SUNWmcex
# pkgrm SUNWwbmc
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmccom
```

2. Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_403_sparc/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmgapp
```

3. CD を取り出して、Solaris 9 4/03 SOFTWARE 2 of 2 CD を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_403_sparc_2/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmccom SUNWmcc SUNWmc SUNWwbmc SUNWmcex SUNWmcdev SUNWmga SUNWdclnt
```

4. CD を取り出して、Solaris 9 4/03 LANGUAGES CD を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_403_lang_sparc/s0/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjsmc SUNWjmga SUMWjadcl SUNWjlvmg SUNWjrmui
```

これによって、すべての旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアが削除され、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。

アップグレード時に発生するバグ情報

アップグレード時に、SUNWceudt パッケージをインストールできない (バグ ID: 4826785)

Solaris 9、Solaris 9 9/02、または Solaris 9 12/02 オペレーティング環境から Solaris 9 4/03 リリースにアップグレードする場合、pkgchk コマンドに -n オプションを使用すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/datatypes.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.IS08859-2/develop.dt
```

```
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.ISO8859-2/dtfile.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.ISO8859-2/dtmail.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.ISO8859-2/dtpad.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.ISO8859-2/print.dt
pathname does not exist
ERROR: /usr/dt/appconfig/types/cs_CZ.ISO8859-2/uxstd.dt
pathname does not exist
```

回避方法: Solaris 9 4/03 DVD または Solaris 9 4/03 Software 1 of 2 CD を使用して、SUNWceudt パッケージを追加し直します。次の手順に従います。

1. スーパーユーザーになります。
2. SUNWceudt パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWceudt
```

3. 製品ディレクトリに移動します。

```
# cd path_to_Solaris_9/Product
```

4. SUNWceudt パッケージを追加し直します。

```
# pkgadd -d `pwd` SUNWceudt
```

アップグレード後、パッチ 114711-01 または 114712-01 に同梱された VDiskMgr.jar ファイルを手動で登録しなくてはならない

アップグレード以前にシステムにパッチ 114711-01 (SPARC 版) または 114712-01 (x86 版) を適用していた場合、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードした後で、これらのパッチに同梱された VDiskMgr.jar ファイルを手動で登録する必要があります。パッチに同梱された VDiskMgr.jar ファイルを手動で登録しないと、既存の VDiskMgr.jar ファイルがシステムに残ります。また、パッチがその問題を完全には解決しません。

システムにこれらのパッチがインストールされているかを調べるには、次のいずれかのコマンドを入力します。

- SPARC システムの場合

```
# patchadd -p | grep '114711-01'
```

- x86 システムの場合

```
# patchadd -p | grep '114712-01'
```

回避方法: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードした後で、指定された2つのパッチに同梱された VDiskMgr.jar ファイルを手動で登録します。次の手順に従います。

1. スーパーユーザーになります。
2. 既存の VDiskMgr.jar ファイルを、パッチに同梱された .jar ファイルで置き換えます。

```
# /usr/sadm/bin/smcregister tool -n \  
com.sun.admin.diskmgr/VDiskMgr.jar \  
/usr/sadm/lib/diskmgr/VDiskMgr.jar \  
/usr/sadm/lib/dismgr/VDiskMgr_classlist.txt \  
/usr/sadm/lib/diskmgr/VDiskMgrInfo.xml > /dev/null 2>$1
```

3. ツールボックスにある既存の VDiskMgr を、パッチに同梱された VDiskMgr ツールで置き換えます。

```
# /usr/sadm/bin/smcregister toolbox add -f tool \  
com.sun.admin.diskmgr.client.VDiskMgr \  
-F "/Storage/" >/dev/null 2>&1
```

4. WBEM サーバーを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

5. WBEM サーバーを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

SPARC: Managed Object Format (MOF) ファイルに依存する Solaris 管理コンソールアプリケーションは、アップグレード後に失敗する可能性がある (バグ ID: 4825349)

Solaris 9 オペレーティング環境から Solaris 9 9/02、Solaris 9 12/02、または Solaris 9 4/03 リリースにアップグレードすると、既存の Managed Object Format (MOF) ファイルは再登録されません。アップグレード時に、以前の /var/sadm/wbem/logr ディレクトリは /var/sadm/wbem/logru3 ディレクトリとして保存されます。登録されている MOF ファイルはアップグレード後に再登録されません。その結果、MOF ファイルに依存する Solaris 管理コンソールアプリケーションが失敗することがあります。

コンソールの「マウント」ツールおよび「ディスク」ツールを使用すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_NOT_FOUND
```

回避方法: 不足する MOF ファイルを手動で登録します。MOF ファイルは /var/sadm/wbem/logru3 ディレクトリにあります。次の手順を完了してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. MOF ファイルを手動で登録します。

```
# /usr/sadm/bin/mofreg -r tag mof-file
```

ここで、*tag* は /var/sadm/wbem/logru3/unregDir/ ディレクトリにあるディレクトリ名で、*mof-file* は、*tag* ディレクトリにある MOF ファイル名です。

たとえば、次のようにします。

```
# /usr/sadm/bin/mofreg -r svm \  
/var/sadm/wbem/logru3/unregDir/svm/svm/Solaris_Vm1.0.mof
```

3. WBEM サーバーを停止します。
4. WBEM サーバーを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

Solaris Live Upgrade の使用時にインストールプログラムが表示するテキストに関する問題 (バグ ID: 4736488)

Solaris Live Upgrade で `luupgrade (1M)` コマンドに `-i` オプションを指定して、アクティブでないブート環境をアップグレードした場合、言語によってはインストールプログラムが表示するテキストが判読不能になります。これは、現在のブート環境にはあるが古いリリースには存在しないフォントを、インストールプログラムが要求した場合に発生します。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- SOFTWARE 1 of 2 CD、2 of 2 CD、および LANGUAGES CD を統合したネットワークインストールイメージを使用してインストールします。
- システムの環境変数を設定し、C ロケールを有効にします。
 - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. C ロケールを設定します。

```
# LANG=C; export LANG
```
 2. インストールを開始します。
 - C シェルを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. 次のコマンドを入力します。

```
# csh
```
 2. C ロケールを設定します。


```
# setenv LANG C
```

3. インストールを開始します。

SPARC: パッチリストファイルを指定したときに、luupgrade コマンドがパッチを追加できない (バグ ID: 4679511)

-s オプション付きで luupgrade コマンドを使用し、ディレクトリとパッチリストファイルを指定してパッチを追加する場合、パッチが追加されません。このとき、たとえば次のようなメッセージが表示されます。

```
/usr/sbin/luupgrade [52]:          3 patch-list-file: bad number
```

上記のメッセージで、*patch-list-file* は、パッチを追加するために luupgrade コマンドに指定したパッチリストファイルです。

回避方法: パッチリストファイルを指定してパッチを追加するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. パッチを当てたいブート環境をマウントします。

```
# lumount boot-envir-name mount-point
```

3. ブート環境にパッチを追加します。

```
# /usr/sbin/patchadd -R mount-point -M patch-path patch-list-file-name
```

上記のコマンドで、*patch-path* には、追加するパッチの入ったディレクトリのパス名を指定します。*patch-list-file-name* には、追加するパッチのリストの入ったファイルを指定します。

4. ブート環境をアンマウントします。

```
# luumount boot-envir-name
```

SPARC: アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (バグ ID: 4525236)

Solaris 8 オペレーティング環境から Solaris 9 またはそれ以降のオペレーティング環境へのアップグレードの際、SUNWjxcft パッケージが削除されるときに、次のようなエラーメッセージが upgrade_log ファイルに記録されます。

```
Removing package SUNWjxcft:
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias
```

```
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias
```

Removal of <SUNWjxcft> was successful

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。アップグレード後の環境で問題は発生しません。

Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、Kerberos Version 5 グローバル機構はプライバシサポートを含んでおり、Kerberos ドメスティック機構は必要ありません。Kerberos ドメスティック機構 (/usr/lib/gss/do/mech_krb.so.1 にある) を Solaris 8 システムにインストールしている場合、Kerberos ドメスティック機構を削除してからシステムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードしてください。

回避方法: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、次の手順に従ってください。

1. 次のコマンドを入力して、Kerberos ドメスティック機構がシステムにインストールされているかどうかを確認します。

```
% pkginfo | fgrep ' SUNWk5'
```

- このコマンドの出力に SUNWk5 で始まるパッケージ名が含まれる場合、Kerberos ドメスティック機構はシステムにインストールされています。手順 2 に進んでください。
- このコマンドの出力に SUNWk5 で始まるパッケージ名が含まれていない場合、Kerberos ドメスティック機構はインストールされていません。残りの手順を省略します。システムをアップグレードしてください。

2. 次のコマンドを入力して、/etc/nfssec.conf と /etc/gss/qop ファイルをバックアップします。

```
% tar -cf /var/tmp/krb_config_files.tar /etc/nfssec.conf /etc/gss/qop
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルがバックアップされていることを確認します。

```
% tar -tf /var/tmp/krb_config_files.tar
```

4. 手順 1 の出力に含まれていた各パッケージを削除します。

```
% pkgrm package-name package-name package-name
```

5. Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードします。

アップグレードプログラムは Kerberos グローバル機構コードを更新して、Kerberos プライバシサポートを有効にします。

6. テキストエディタで、`/etc/gss/mech` ファイルの次の行を変更します。

- 次の行のコメントを解除します。

```
kerberos_v5      1.2.840.113554.1.2.2      g1/mech_krb5.so g1_kmech_krb5
```

必要であれば、上記行を `/etc/gss/mech` ファイルに追加します。

- 次の行を削除します。

```
kerberos_v5      1.2.840.113554.1.2.2      do/mech_krb5.so do_kmech_krb5
```

- 次のコマンドを入力して、`/etc/nfssec.conf` ファイルと `/etc/gss/qop` ファイルを復元します。

```
% tar -xf /var/tmp/krb_config_files.tar
```

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)

`/etc/init.d/sshd` デーモンから他社の Secure Shell (OpenSSH など) を実行しているシステムの場合、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードすると、既存の Secure Shell デーモンが使用できなくなります。アップグレード時に、Solaris 9 4/03 のアップグレードソフトウェアが、Solaris 9 4/03 の `sshd` で `/etc/init.d/sshd` の内容を上書きし、既存の `sshd` が失われます。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムが不要な場合は、アップグレード時に `SUNWsshdr` パッケージと `SUNWsshdu` パッケージをインストールしない。
- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムまたはクライアントプログラムが不要な場合は、アップグレード時に Secure Shell Cluster (`SUNWCssh`) をインストールしない。

`/export` が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)

`/export` ディレクトリの空き容量がゼロに近い状態で、システムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードしようとする時、`/export` ディレクトリ容量の必要条件の計算に誤りが発生し、アップグレードに失敗します。この問題は、ディスククライアントがインストールされているか、`/export` ディレクトリに他社製のソフトウェアがインストールされている場合によく発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: Insufficient space for the upgrade.
```

回避方法: アップグレードの前に、次のいずれかを実行してください。

- アップグレードが完了するまで、一時的に /export ディレクトリの名前を変更する
- アップグレードが完了するまで、/etc/vfstab ファイル内の /export の行を一時的にコメントアウトする
- /export が別のファイルシステムである場合は、アップグレードを実行する前に /export のマウントを解除する

ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)

現在のシステムが、Solstice AdminSuite™ 2.3 の Diskless Client ツールによってインストールされたディスクレスクライアントをサポートしている場合、2つの手順を実行する必要があります。まず、既存のディスクレスクライアントのうち、サーバーと同じ Solaris バージョンで同じアーキテクチャのものをすべて削除します。そのあとで、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境をインストールするか、または Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードします。具体的な手順については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

ディスクレスクライアントを削除せずに Solaris 9 4/03 をインストールしようとする、次のようなエラーメッセージが表示されます。

スライス <xxxxxxx> 上の Solaris のバージョン (*version-number*) がアップグレードできません。ディスク上にインストールされたソフトウェア構成に未知の問題があります。

このエラーメッセージの *version-number* は、現在、システムで稼働している Solaris のバージョンを表します。<xxxxxxx> は、このバージョンの Solaris オペレーティング環境を実行しているスライスです。

アップグレード後に発生するバグ情報

SPARC: アップグレード後にパッチを削除すると WBEM リポジトリが破壊されることがある (バグ ID: 4820614)

次のような手順で操作した場合、WBEM リポジトリの CIM データベースが破壊される可能性があります。

- Solaris 9 オペレーティング環境を実行しているシステムに Solaris Upgrade リリースのパッチ 112945 のリビジョンを適用します。
- 上の手順で適用したパッチを削除します。

WBEM リポジトリが破壊された場合、Solaris 管理コンソールのログビューアに次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_FAILED:
/usr/sadm/lib/wbem/../../../../var/sadm/wbem/logr/
preReg/PATCH113829install/Solaris_Application.mof,18,ERR_SEM,
ERR_EXC_SET_CLASS,CIM_ERR_FAILED:Other Exception:
java.io.StreamCorruptedException: invalid stream header
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- WBEM リポジトリの破壊を防ぐには、次の手順を実行します。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. パッチを適用する前に、WBEM リポジトリのバックアップを作成します。


```
# cp -r /var/sadm/wbem/logr path/logr
```

path には、バックアップ用 WBEM リポジトリのパスを指定します。
 3. パッチのバックアウト後、WBEM リポジトリが破壊されたら、WBEM サーバーを停止します。


```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```
 4. バックアップ用 WBEM リポジトリを復元します。


```
# cp -rf path/logr /var/sadm/wbem/logr
```
 5. WBEM サーバーを再起動します。


```
# /etc/init.d/init.wbem start
```
- 次の手順で、新しい WBEM リポジトリを作成します。

注 - この方法では、すでに破壊された WBEM リポジトリのデータを回復することはできません。インストール時にリポジトリに追加されたデータはすべて失われます。

1. スーパーユーザーになります。
2. WBEM サーバーを停止します。


```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```
3. /logr ディレクトリからファイルを削除します。


```
# rm /var/sadm/wbem/logr/*
```
4. /notFirstTime ディレクトリを削除します。


```
# rmdir notFirstTime
```

5. WBEM サーバーを起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

6. 独自の Managed Object Format (MOF) ファイルを手動でコンパイルします。

```
# /usr/sadm/bin/mofcomp MOF-filename
```

アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)

Solaris 9 4/03 へのアップグレードを行うと、アップグレード時に設定したデフォルトロケールがシステムのデフォルトロケールに正しく設定されない場合があります。

Solaris 9 4/03 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用したアップグレードの場合、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールの終了後、自動ブートしたシステムが英語環境で起動し、SOFTWARE 2 of 2 CD および LANGUAGES CD のインストール画面が英語で表示されることがあります。

回避方法: アップグレード終了後、システムのデフォルトロケールを /etc/default/init ファイルの LANG 環境変数に設定してください。

日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4677463)

Solaris 8 および Solaris 8 アップデトリリースから Solaris 9 4/03 へアップグレードを行うと、古いフォント設定ファイル (ファイル末尾に :8 が付く) が残ります。

回避方法: 古いフォント設定ファイルは削除してください。

```
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias:8
```

インストール全般に関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 4/03 のインストール全般に関する注意事項とバグ情報を説明します。

SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)

複数のネットワークインタフェースを持つシステムに Solaris 9 4/03 オペレーティング環境をインストールまたはアップグレードした場合、システムはすべてのシステムインタフェースが使用可能であると認識します。つまり、ネットワークにプラグインされていない、あるいは使用する予定のないインタフェースが `ifconfig -a` コマンドの出力に表示されます。さらに、同じイーサネットアドレスを持つインタフェースに同じ IP アドレスが割り当てられることがあります。その場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ifconfig: setifflags: SIOCSLIFFLAGS: qfe3: Cannot assign requested address
```

この問題は、`local-mac-address` PROM 変数が `false` に設定されているシステム上でも発生します。この問題が発生するのは、すべてのインタフェースが同じ IP アドレスで構成されるためです。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 構成されたインタフェースだけを使用するには、初期ブート後にシステムをリブートする。
- 各ネットワークインタフェースに異なる IP アドレスを割り当てるには、次のいずれかの方法で `local-mac-address` PROM 変数を `true` に設定する。

- `ok` プロンプトで、次のコマンドを入力する。

```
ok setenv local-mac-address? true
```

- スーパーユーザーとして、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
# eeprom local-mac-address?=true
```

スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)

同梱されている CD を、その CD に含まれている Solaris Web Start 2.x (installer) を使用して日本語ロケール (日本語表示) でインストールしているときに、スワップ容量の不足のためインストールが失敗することがあります。この場合、コンソールにエラーメッセージが表示されますが、エラーメッセージは次のように文字化けしています。

```
RunCmd Error:java.io.IOException: ??????????????????????
```

回避方法: 同梱されている CD に含まれている Solaris Web Start 2.x は、実行時におよそ 50M バイトのメモリーを消費します。Solaris Web Start 2.x を使用してインストールする場合は、`swap -s` コマンドなどで空きスワップ容量を確認し、不足している場合は、メモリーの消費量が多いアプリケーションを終了するか、スワップファイルを作成してスワップ領域を追加してください。詳細は、`swap(1M)` のマニュアルページを参照してください。

[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される

選択したデフォルトロケールに関係なく、`install_log`、`upgrade_log` などの Solaris のインストールログファイルは、EUC (ja ロケール) テキストとして生成されます。

回避方法: コードコンバータで変換して参照するか、テキストエディタなどの GUI ツールを ja ロケールで起動して参照してください。

[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力

日本語タイプ 5 キーボードは OpenBoot PROM のバージョンによっては、モニターレベルでタイプ 4 キーボードとして動作します。そのため、モニターレベルでは、キーボード上の印字と実際の入力が一部異なります。次の表を参照してください。その他の注意事項は、U.S. タイプ 5 キーボードと同じです。『Sun タイプ 5 キーボードプロダクトノート』を参照してください。

表 2-6 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字

日本語タイプ 5 キーボード上の印字	実際の入力文字
“	@
&	^
'	&
(*
)	(
Shift-0)
=	-
~	+

表 2-6 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字 (続き)

日本語タイプ 5 キーボード上の印字	実際の入力文字
^	=
¥	\
@	[
'	{
[]
{	}
+	:
:	'
*	"
]	'
}	~
-	LF
\	LF

64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報

64 ビット Solaris をインストールする場合の、注意事項とバグ情報について説明します。

SPARC: 一部の Sun UltraSPARC システム (Sun4U) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある

注 - システムがすでに 64 ビット対応のファームウェアを実行している場合、Flash PROM のアップデートは不要です。

UltraSPARC® システム上で 64 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合、Flash PROM ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。Solaris 9 4/03 インストールプログラムには、64 ビットサポートを追加する選択肢があります。UltraSPARC システムにインストールする場合は、この 64 ビットサポートがデフォルトで選択されます。64 ビットシステムは、200MHz 以上の CPU 速度を持つ場合のみ、デフォルトで 64 ビットでブートします。

注 - Sun システムまたは UltraSPARC システムで 32 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合は、Flash PROM のアップデートは不要です。

次の表に、UltraSPARC (Sun4U™) システムと必要な最小限のファームウェアバージョンを示します。システムタイプは、`uname -i` コマンドを実行して確認できます。実行中のファームウェアバージョンは、`prtconf -v` コマンドを実行して確認できます。

表 2-7 UltraSPARC システム上で 64 ビット Solaris を実行するために必要なファームウェアバージョン

システムタイプ (<code>uname -i</code> で出力される)	必要最小限のファームウェアバージョン (<code>prtconf -v</code> で出力される)
SUNW,Ultra-1-Engine	3.10.0
SUNW,Ultra-1	3.11.1
SUNW,Ultra-2	3.11.2
SUNW,Ultra-4	3.7.107
SUNW,Ultra-Enterprise	3.2.16

注 - この表に記載されていないシステムでは、Flash PROM をアップデートする必要はありません。

Solaris CD を使用して Flash PROM をアップデートする方法については、「Solaris 9 on Sun Hardware Collection」のマニュアルをご覧ください。このコレクション中のマニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照することができます。

DOCUMENTATION CD に関する注意事項

Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前のドキュメントパッケージをインストールできない

翻訳された PDF 形式の文書コレクションの中には、パッケージ名が 9 文字を超えるものがあります。Solaris 7 または 8 オペレーティング環境が稼働しているサーバーに、このような PDF コレクションをインストールする場合は、先にパッチを 2 つインストールしておく必要があります。

注 - このリリースの時点では、Solaris 2.6 サーバー用のパッチはありません。

回避方法: 各パッチのインストール手順については、DOCUMENTATION CD の最上位ディレクトリ (DVD の場合は最上位ディレクトリにある 1of2_Doc_CD/ ディレクトリまたは 2of2_Doc_CD/ ディレクトリ) にある index.html ファイルの「システムにドキュメントパッケージをインストールする」を参照してください。

DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)

Solaris 9 Product Registry から立ち上げる Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の uninstaller で「全体」を選択した場合、uninstaller はデフォルトでインストールされるマニュアルパッケージしか削除しません。

回避方法: `uninstaller` のアンインストール形式の選択で「部分」を選択して、アンインストールしたいパッケージを選択します。

特定のロケールで Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD が Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールしない (バグ ID: 4859494)

特定のロケールでは Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD を使用する場合、インストールプログラムは Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD からパッケージをインストールするかどうかをたずねません。この問題は、EUC 以外の次のロケール選択で発生します。EUC ロケール (日本語環境なら `ja` ロケール) を選択することで問題は回避できます。

- `ja_JP.PCK`
- `ja_JP.UTF-8`
- `ko.UTF-8`
- `zh.GBK`
- `zh.UTF-8`
- `zh_CN.18030`
- `zh_HK.BIG5HK`
- `zh_HK.UTF-8`
- `zh_TW.BIG5`
- `zh_TW.UTF-8`

回避方法: 次のいずれかの回避方法を選択してください。

- Solaris 9 4/03 ソフトウェアをインストールするときに、デフォルトのインストールロケールとして、EUC ロケール (`ja`、`ko`、`zh`、または `zh_TW`) の1つを選択する。
- Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD から、直接 `installer` ユーティリティを実行する。

コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)

`-nodisplay` オプションを指定して Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用すると、確認画面が正しく表示されないことがあります。

回避方法: Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用するときに、`-nodisplay` オプションを指定しないでください。Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD をインストールするときには、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) モードを使用してください。

インストール時のローカライズに関する 注意事項

選択したロケール以外のロケールもインストール されることがある

Solaris 9 4/03 では、インストールするロケールを選択した場合、関連するほかのロケールもインストールされることがあります。これは、すべての完全ロケール (メッセージが翻訳されている) とアジアおよび日本語の部分ロケールが、言語単位でパッケージ化し直されたためです。ほかの部分ロケールは従来通りに地理上の分類 (中央ヨーロッパなど) に基づいて、パッケージ化されてインストールされます。

インストール時のローカライズに関する バグ情報

Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォント パッケージが Solaris 9 4/03 オペレーティング環境 にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)

簡体字中国語または繁体字中国語のロケールを含んだ Solaris 9 Beta Refresh オペレーティング環境を実行しているシステムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする場合、簡体字中国語と繁体字中国語の CDE フォント各国語対応パッケージ (SUNWcdft または SUNWhdft) が適切な Solaris 9 4/03 パッケージにアップグレードされないため、アップグレードは正常に完了しません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Removing package SUNWcdft:
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
/a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.EUC: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
/a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.GBK: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
/a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.UTF-8: does not exist
pkgrm: ERROR: postremove script did not complete successfully
```

回避方法: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris 9 Beta Refresh の postremove ファイルを適宜削除します。

```
# rm /var/sadm/pkg/SUNWcdfdt/install/postremove
# rm /var/sadm/pkg/SUNWhdft/install/postremove
```

タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)

Solaris 8 Language Supplement CD がインストールされている Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているシステムを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする場合、いくつかの無効なパッケージがあります。タイ語、ロシア語、ポーランド語、およびカタロニア語のロケールパッケージがシステムに残ります。これらのロケールパッケージでは ARCH=sparc11 が設定されているので、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境へのアップグレード時に削除されません。

回避方法: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris Product Registry アプリケーションを使用して Solaris 8 Languages Supplement CD パッケージを削除してください。

第 3 章

実行時の注意事項とバグ情報

この章では、問題として認識されている実行時の問題について説明します。

この章には、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 4/03 ご使用にあたって』の発行後に見つかった、実行時の以下のバグに関する説明が追記されています。

- 71 ページの「アップグレード後、Solaris 管理コンソールを使用して追加したユーザーアカウントにホームディレクトリが作成されない (バグ ID: 4803524)」
- 69 ページの「[日本語環境のみ] ATOK12 で Java のプログラムに日本語を入力するときに、不具合が生じる (バグ ID: 4780941)」

スマートカードのバグ情報

スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094)

ocfserv が終了し、ディスプレイがロックされている場合は、スマートカードを挿入しても取り出しても、システムはロックされたままになります。

回避方法: 次の手順を実行してシステムのロックを解除してください。

1. ocfserv プロセスが終了したマシンにリモートログインして接続します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで次のように入力して、dtsession プロセスを終了させます。

```
% kill dtsession
```

ocfserv プロセスが再起動し、スマートカードのログインおよびその他の機能が復元されます。

スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632)

スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目を使用して、`/etc/smartcard/opencard.properties` にあるスマートカードの構成ファイルを編集することができません。メニュー項目を選択すると、テクニカルサポートを受けないと編集を継続できないことを示す警告メッセージが表示されます。

回避方法: スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目は使用しないでください。スマートカードの設定に関する情報は、『Solaris スマートカードの管理』を参照してください。

共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項とバグ情報

Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項

Solaris 9 では、文字集合 JIS X 0212:1990 に対するフォントが、「平成明朝体」から、「RICOH ゴシック体」と「RICOH 明朝体」に変更になりました (今までの平成明朝体も引き続きインストールされますが、利用するにはシステム側の変更が必要となります)。

また、文字集合 JIS X 0213:2000 に関しては UTF-8 ロケール上で利用可能ですが、UNICODE3.1 で定義された文字集合が対象となります (ただし、Java および DPS からの利用はできません)。

米国英語、中国語、韓国語の Unicode/UTF-8 ロケールがインストールされていないと、ヨーロッパ各国言語およびロシア語の Unicode/UTF-8 ロケールで mp 印刷コマンドの実行に失敗する (バグ ID: 4805695)

次のいずれかのヨーロッパ言語またはロシア語 Unicode/UTF-8 ロケールをインストールしている場合、米国英語、中国語、または韓国語の Unicode/UTF-8 ロケールをインストールしないと、mp(1) 印刷コマンドの実行に失敗します。

- de_DE.UTF-8
- fr_FR.UTF-8
- it_IT.UTF-8
- es_ES.UTF-8
- sv_SE.UTF-8
- ru_RU.UTF-8

mp 印刷コマンドでは印刷ジョブが中止され、次のエラーメッセージが表示されます。

```
mp: config file line: 46, cannot stat font file
      (/usr/openwin/lib/locale/zh.GBK/X11/fonts/TrueType/songti.ttf)
```

注 - その他の CDE デスクトップアプリケーション (dtmail、dtpad など) でも、同様のエラーが発生します。

mp 印刷コマンドについて詳細は、mp (1) のマニュアルページを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の新規インストール、または Solaris 9 4/03 へのアップグレードを実行し、次に挙げる米国英語、中国語、または韓国語の Unicode/UTF-8 ロケールを 1 つ以上選択し、インストールします。
 - en_US.UTF-8
 - zh_CN.UTF-8
 - zh_HK.UTF-8
 - zh_TW.UTF-8
 - ko_KR.UTF-8
- インストールまたはアップグレードが完了している場合は、Solaris 9 4/03 Software 1 of 2 CD またはネットイメージに含まれている SUNWgttf パッケージを手作業で追加します。次の手順に従ってください。
 1. スーパーユーザーとしてシステムにログインします。
 2. Solaris 9 4/03 Software 1 of 2 CD を挿入します。
 3. /cdrom/sol_9*/s0/Solaris_9/Product ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/sol_9*/s0/Solaris_9/Product
4. SUNWg.ttf パッケージを追加します。
# pkgadd -d . SUNWg.ttf
```

x86: CDE 起動アプリケーションが root-window 入力方式で表示される (バグ ID: 4770994)

中国語ロケールの Sun™ LX50 上で共通デスクトップ環境 (CDE) デスクトップセッションを開始すると、起動時に実行される CDE アプリケーションが over-the-spot 入力方式ではなく root-window 入力方式で表示される場合があります。

回避方法: /usr/dt/config/Xsession.d/0020.dtims スクリプトの最後に、sleep 1 という行を追加して、新しく CDE デスクトップセッションを開始します。

CDE のリムーバブルメディア自動実行機能が削除されている (バグ ID: 4634260)

CDE デスクトップ環境のリムーバブルメディア自動実行機能は、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境から一時的に削除されています。

回避方法: CD-ROM などのリムーバブルメディアの自動実行機能を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- リムーバブルメディアのファイルシステムに移動し、最上位のディレクトリで volstart プログラムを実行します。
- CD に記載されている指示に従って、CDE 以外の環境からリムーバブルメディアにアクセスします。

SPARC: FontList オプションが指定されている場合、コマンド行から起動した dtmail がクラッシュする (バグ ID: 4677329)

dtmail をコマンド行から起動した場合、FontList オプションが指定されていると、IMAP サーバーに接続した後で dtmail がクラッシュします。次の例を参照してください。

```
/usr/dt/bin/dtmail -xrm "Dtmail*FontList: -*-r-normal-*:"
```

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Segmentation Fault
```

この問題は、C および ja ロケールの両方で発生します。

回避方法: dtmail をコマンド行から起動するときは、FontList オプションを指定しないでください。

行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793)

Solaris 9 4/03 Unicode または UTF-8 ロケールで、行数の多い電子メールメッセージを読むと、CDE Mailer (dtmail) がハングアップしたようになり、メッセージがすぐには表示されません。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- 132 桁が表示されるように、dtmail メールボックスウィンドウを拡大する。
- 次の手順で、Complex Text Layout 機能を使用不可にする。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 使用システムのロケールディレクトリに切り替えます。

```
# cd /usr/lib/locale/locale-name
```

上の例では、*locale-name* はシステムの Solaris 9 4/03 Unicode ロケール名または UTF-8 ロケール名です。

3. ロケールレイアウトエンジンのカテゴリ名を変更します。

```
# mv LO_LTYPE LO_LTYPE-
```

注 - パッチを適用する場合は、ロケールレイアウトエンジンのカテゴリ名を元の名前 (LO_LTYPE) に戻してから、ロケールレイアウトエンジンにパッチを適用してください。

Solaris PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435)

デスクトップから最後のエントリを削除した後に、PDA デバイスに対して同期処理を実行すると、最後のエントリが PDA デバイスからデスクトップに復元されてしまいます。たとえば、カレンダーの最後のアポイントメントやアドレス帳の最後のアドレスが、削除した後に復元されてしまいます。

回避方法: 同期処理を実行する前に、PDA デバイスから最後のエントリを手動で削除してください。

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を Solaris PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814)

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスと Solaris CDE とで、日本語などの複数バイト文字のデータを交換すると、両方の環境において、交換した複数バイト文字データが壊れる可能性があります。

回避方法: PDA Sync を実行する前に必ず、PDA デバイスに付属しているバックアップ機能やバックアップユーティリティを使用して、PC などにデータの完全なバックアップをとってください。間違っでデータ交換をしてしまった場合には、バックアップデータからデータを復旧させてください。

dtmail で不在返信メッセージを作成すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110)

不在返信メッセージを作成する場合、dtmail はその内容を (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングではなく、dtmail を起動したエンコーディングで保存します。このため、不在返信メールを受信した際に、メールの内容が文字化けすることがあります。

回避方法: 不在返信メッセージが保存されている .vacation.msg ファイルを、次のように入力して (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングに変更し、保存し直します。

```
% /usr/bin/iconv -f org_locale -t ISO-2022-JP $HOME/.vacation.msg \  
> $HOME/.vacation.msg_tmp  
% /usr/bin/cp $HOME/.vacation.msg_tmp $HOME/.vacation.msg
```

上記の *org_locale* には、iconv で使用されるコードセット (dtmail で作成した .vacation.msg ファイルのエンコーディングに対応) を指定します。日本語環境では、次の3つのいずれかです。

eucJP (ja ロケールの場合)
PCK (ja_JP.PCK ロケールの場合)
UTF-8 (ja_JP.UTF-8 ロケールの場合)

[日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項

- ボリュームマネージャのメッセージを表示するためのダイアログウィンドウは XView™ アプリケーションなので、ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールでは英語表示で起動されます。
- ja ロケールで登録したカレンダーは、ja_JP.PCK ロケール および ja_JP.UTF-8 ロケールで起動されたカレンダー・マネージャで見ることができません (ja_JP.PCK ロケールまたは ja_JP.UTF-8 ロケールで作成した場合も同様です)。

[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565)

Solaris CDE 1.2 より前のメールプログラムで、オプションメニューの「移動メニューの設定」で登録したメールボックス名に日本語文字列が含まれている場合、Solaris CDE 1.2 以降のメールプログラムではそれらのメールボックス名が文字化けすることがあります。

回避方法: Solaris CDE 1.2 あるいは Solaris CDE 1.3 のメールプログラムで、再度登録してください。

[日本語環境のみ] ATOK12 で Java のプログラムに日本語を入力するときに、不具合が生じる (バグ ID: 4780941)

ATOK12 を使用して AWT の TextField または TextArea に入力する場合、候補ウィンドウで確定した文字が入力されないという問題があります。また、Swing を使用した Java のプログラムにおいてもプログラムによっては候補ウィンドウで確定した文字が入力されず、その後の入力文字がプレエディットテキスト上で二重に入力されるという問題があります。この問題は、たとえば AWT を使用した Solaris ユーザー登録ツール (solregis) で発生します。

なお、この問題はウィンドウフォーカスの切り替え方法が、Click-To-Mouse (デフォルト) の時には常に発生しますが、Follow-To-Mouse の時にはマウスカーソルが候補ウィンドウ上にある場合にのみ発生します。

次の Solaris 9 Update リリースにバンドルされる J2SE (1.4.1_02a の予定) でこの問題は修正される予定です。また、今後の Java のアンバンドルリリース (J2SE 1.4.1_03 の予定) でも修正される予定です。

回避方法: 以下のいずれかの方法で問題を回避してください。

- ウィンドウフォーカスの切り替えを Follow-To-Mouse に設定して (スタイル・マネージャの「ウィンドウ」のコントロールで「ポインタでウィンドウをアクティブに」を選択します)、問題を発生しづらくする。
- Wnn6 を使用する (ワークスペース・メニューの日本語入力システム切替から切り替えます)。
- ほかのウインドウで入力した文字をカット&ペーストする。
- このバグが修正された J2SE リリース (1.4.1_03 以降の予定) をダウンロードして、/usr/j2se (1.4.1_02) と入れ替える。
- 可能なら、デフォルトの J2SE 1.4.1_02 ではなく、JDK1.2 (/usr/java1.2) を使用する。たとえば、以下の方法で solregis を JDK1.2 を使用して起動することができます。

```
% env JRE_HOME=/usr/java1.2 /usr/dt/bin/solregis
```

システム管理に関するバグ情報

Solaris システムのシステム管理作業を実行する際に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587)

Solaris 7 のディスクレスクライアントを構成する場合、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 106978-10 および 107456-01 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと、ディスクレスクライアント追加時に設定したクライアントのパスワードが、正しく反映されない場合があります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)

Solaris 8、Solaris 8 6/00、Solaris 8 10/00 のディスクレスクライアントを日本語環境で構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 110416-02 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと日本語入力システム ATOK12 が正しく動作せず、CDE 上でアプリケーションが正しく起動できないなどの問題が発生することがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U ディスクレスクライアントを構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 105654-03 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと Sun4U ディスクレスクライアントがブート中にハングアップすることがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

アップグレード後、Solaris 管理コンソールを使用して追加したユーザーアカウントにホームディレクトリが作成されない (バグ ID: 4803524)

Solaris 9 9/02 または Solaris 9 12/02 リリースを Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードして、その後、新しくユーザーアカウントを作成すると、そのアカウントにホームディレクトリが作成されません。

ユーザーアカウントを作成するのに `smuser` コマンド行インタフェース (CLI) を使用すると、CLI の実行の完了とともに端末ウィンドウに "null" エラーが表示されません。

Solaris 管理コンソール (Solaris Management Console) のグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使用してユーザーアカウントを作成した場合は、エラーは何も表示されません。

回避方法: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境にアップグレードした後で、次の手順に従って `jar` ファイルを登録します。

注 - システムをこのリリースにアップグレードした後で追加したユーザーアカウントをすべて削除、または再作成する必要があります。

ユーザーアカウントを削除するのは、`jar` ファイルを登録する前でも後でも構いません。ただし、新しいユーザーアカウントを作成する前に、この回避方法を完了する必要があります。

1. スーパーユーザーになります。

2. jar ファイルを登録します。

```
# /usr/sadm/bin/smregister library -n VUserMgrLib.jar \  
/usr/sadm/lib/usermgr/VUserMgrLib.jar \  
/usr/sadm/lib/usermgr/VUserMgrLib_classlist.txt ALL
```

3. WBEM サーバーを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

4. WBEM サーバーを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

この回避方法を完了した後、新しくユーザーアカウントを追加すると、一般的には /export/home/username というホームディレクトリが正しく作成されます。

詳細は、smuser (1M) のマニュアルページを参照してください。

/etc/named.conf ファイルが存在する場合、Solaris 管理コンソールからユーザーアカウントまたはグループツールで処理を実行しようとするとき失敗する (バグ ID: 4777931)

DNS サーバーとして機能するシステム上のユーザーアカウントまたはグループツールで Solaris 管理コンソールから処理を実行するとき、この DNS システム上に /etc/named.conf ファイルが存在していると、エラーが発生します。

具体的には、GUI または Solaris 管理コンソールのコマンド行インタフェース smuser および smgroup の使用時に次のエラーが発生します。

ユーザーアカウントツールの場合は、Solaris 管理コンソールの新しいダイアログボックスが開くか、次のエラーメッセージとともに smuser コマンドが終了します。

```
"ユーザーまたは役割を表示しようとしたが、予期しないエラーのために失敗しました。
```

```
原因となったエラー: CIM_ERR_FAILED"
```

グループツールの場合は、Solaris 管理コンソールの新しいダイアログボックスが開くか、次のエラーメッセージとともに smgroup コマンドが終了します。

```
"グループ名を読み取ろうとしたが、予期しない CIM エラーによって失敗しました: CIM_ERR_FAILED"
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従って DNS サーバーを再起動します。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. たとえば次のようにして、named.conf ファイルを別のディレクトリに移動します。


```
# mv /etc/named.conf /var/named/named.conf
```

3. DNS サーバーを再起動します。

```
# pkill -9 in.named
```

```
# /usr/sbin/in.named /var/named/named.conf
```

- 次の手順に従って WBEM サーバーを再起動します。

1. スーパーユーザーになります。

2. テキストエディタで

`/usr/sadm/lib/wbem/WbemUtilityServices.properties` ファイルを開いて編集します。

文字列 `/etc/named.conf` を `/tmp/new-filename` に変更します。

注 - すでにシステム上に存在するファイル名以外を使用してください。

3. WBEM サーバーを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

4. WBEM サーバーを起動します。

```
# /etc/init.d/init/wbem start
```

詳細は、`smuser(1M)` および `smgroup(1M)` のマニュアルページを参照してください。

x86: BIOS のブート時に F4 キーを押すと Service パーティションのブートに失敗する (バグ ID: 4782757)

これは、Solaris 9 4/03 (x86 版) オペレーティング環境がインストールされた、Service パーティションを保持する Sun LX50 のブート時に発生します。F4 ファンクションキーを押すことで Service パーティションのブートを選択できますが、F4 を押すと画面が空白になり、Service パーティションのブートに失敗します。

回避方法: BIOS ブート画面の表示時に、F4 キーを押さないでください。タイムアウト後に「Current Disk Partition Information」画面が表示されます。type=DIAGNOSTIC に対応する「Part#」列の番号を選択して、Return キーを押します。Service パーティションがブートします。

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境で、 UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403)

UltraSPARC II ベースのシステム上で動作する Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、いくつかの訂正不可能なメモリーエラーメッセージを伴う CP イベントメッセージが、常に作成されるわけではありません。このようなシステムの例には、Sun Enterprise™ 10000、Sun Enterprise™ 6500/6000/5500/5000/ 4500/4000/3500/3000 があります。つまり、障害のあった CPU を識別するのに必要な情報が常に得られるわけではありません。

回避方法: この問題に関する最新の情報については、SunSolve の Web サイト <http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェース プロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは、com.sun.wbem.provider インタフェースまたは com.sun.wbem.provider20 インタフェースに書き込まれたプロバイダを検出できません。これらのインタフェースに書き込まれたプロバイダ用に Solaris_ProviderPath インスタンスを作成した場合でも、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンはプロバイダを検出しません。

回避方法: デーモンがこのようなプロバイダを検出できるようにするには、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンをいったん停止してから再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 - javax API を使用してプロバイダを作成した場合は、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンを停止してから再起動する必要はありません。Solaris WBEM Services 2.5 デーモンが javax プロバイダを動的に認識します。

XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID: 4497393、4497399、4497406、4497411)

javax アプリケーションプログラミングインタフェースではなく、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースを使用して WBEM ソフトウェアを開発する場合、全面的にサポートされるのは、CIM リモートメソッド呼び出し (RMI) だけです。XML/HTTP など、他のプロトコルについては、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースで完全に機能するという保証はありません。

次の表に、RMI では正常に実行され、XML/HTTP では失敗する呼び出しの例を示します。

メソッド呼び出し	エラーメッセージ
<code>CIMClient.close()</code>	<code>NullPointerException</code>
<code>CIMClient.execQuery()</code>	<code>CIM_ERR_QUERY_LANGUAGE_NOT_SUPPORTED</code>
<code>CIMClient.getInstance()</code>	<code>CIM_ERR_FAILED</code>
<code>CIMClient.invokeMethod()</code>	<code>XMLERROR: ClassCastException</code>

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでは、/ (root)、/usr、/var などのシステムに必須なファイルシステム上のマウントオプションを変更できません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- `mount` コマンドとともに `remount` オプションを使用する。

```
# mount -F file-system-type -o remount,additional-mount-options device-to-mount mount-point
```

注 `--remount` オプションを指定した `mount` コマンドで行なったマウント属性の変更は、一時的なものです。また、上記のコマンドの `additional-mount-options` の部分で指定しなかったマウントオプションのすべてがシステムによって指定されたデフォルト値を継承するわけではありません。詳細は、マニュアルページの `mount_ufs(1M)` を参照してください。

- /etc/vfstab ファイル内の適切なエントリを編集することによって、ファイルシステムのマウントプロパティを変更し、システムを再起動する。

WBEM でデータを追加しようとする CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)

使用可能なメモリー容量が十分でない時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY
```

Common Information Model (CIM) オブジェクトのメモリー容量が十分でない場合、エントリを追加することができません。CIM オブジェクトマネージャ (Object Manager) のリポジトリをリセットする必要があります。

回避方法: 次のようにして CIM オブジェクトマネージャのリポジトリをリセットしてください。

1. スーパーユーザーになります。
2. CIM オブジェクトマネージャを停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```
3. JavaSpaces™ ログディレクトリを削除します。

```
# /bin/rm -rf /var/sadm/wbem/log
```
4. CIM オブジェクトマネージャを再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 - CIM オブジェクトマネージャのリポジトリをリセットすると、データストアに格納されている独自の定義は失われます。定義が含まれている MOF ファイルを mofcomp コマンドを使用して再コンパイルする必要があります。次に例を示します。

```
# /usr/sadm/bin/mofcomp -u root -p root_password your_mof_file
```

[日本語環境のみ] Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の Sun ONE Console で GUI 上のレイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)

Sun ONE Console の「証明書の管理」ダイアログ等でボタンが重なって表示されたり、欠けて表示されたりという問題が発生する場合があります。

回避方法: ウィンドウの幅を広げることでこの問題を回避できます。

admintool を使用してユーザーを作成する場合の注意事項

admintool 上でログインシェルを sh または ksh に指定してユーザーを作成した場合、ホームディレクトリに自動生成される .profile には以下の 1 行が記述されています。

```
stty istrip
```

この行は、入力文字を 7 ビットにストリップすることを意味していますので、このままの設定ではそのユーザーが端末上で日本語入力を行うと、文字が化けてしまいます。

回避方法: 上記の 1 行をコメントにするか、もしくは削除してください。

Solaris ボリュームマネージャの問題

Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある

シリンダ 0 から始まっていないルート (/) ファイルシステムをミラー化する場合には、接続されるすべてのサブミラーにシリンダ 0 から始まるものを含めることはできません。

シリンダ 0 から始まるサブミラーを元のサブミラーにあるミラーに接続しようとする、シリンダ 0 から始まるサブミラーは使用できず、次のエラーメッセージが表示されます。

```
can't attach labeled submirror to an unlabeled mirror
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まるようにする。
- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まらないようにする。

注 - JumpStart インストールのデフォルトでは、swap パーティションがシリンダ 0 から始まっていて、ルートファイルシステム / はディスク上の他の場所から始まっています。システム管理者は通常、スライス 0 をシリンダ 0 から始めようとしています。デフォルトの JumpStart インストールにおいてスライス 0 上にあり、シリンダ 0 から始まってないルートパーティションを、別のディスクのシリンダ 0 から始まるスライス 0 にミラー化しようとするとう問題が発生する場合があります。その結果、ミラーを追加しようとする際に、エラーメッセージが出力されます。Solaris インストールプログラムのデフォルト動作の詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報

障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの `metahs -e` コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)

次の場合に、`metahs -e` コマンドが失敗することがあります。

1. ホットスペアデバイスに障害が発生した場合。たとえば、`metaverify` テストユーティリティを使用したときに、エラーが発生した場合など。
2. メタデバイスにエラーが発生して、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアがホットスペアを起動しようとしたが、このホットスペアが「broken」とマークされている。
3. システムが停止して、障害が発生したホットスペアを含むディスクが同じ配置で新しいディスクに交換された。
4. システムが起動しても、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアが新しいホットスペアを認識しない。
5. 新しいディスクのホットスペアを有効にするために、`metahs -e` コマンドが使用された。

次のメッセージが表示されます。

```
WARNING: md: d0: open error of hotspare (Unavailable)
```

Solaris ボリュームマネージャソフトウェアは、物理的に同じ場所に交換された新しいホットスペアディスクを認識しないため、この問題が起こります。Solaris ボリュームマネージャソフトウェアはすでにシステムに存在しないディスクのデバイス ID を表示し続けます。

注 - ディスクが交換されるとデバイス番号が変わる Photon などのストレージ格納装置では、この問題が発生するかどうかは判明していません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従い、Solaris ボリュームマネージャの状態データベースでホットスペアディスクのデバイス ID を更新する。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアディスクのデバイス ID を更新します。

```
# metadevadm -u logical-device-name
```
 3. 次のコマンドを入力して、新しいホットスペアディスクを利用できるようにします。

```
# metareplace -e logical-device-name
```
- 次の手順に従い、システムのホットスペアとホットスペアプールを管理する。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアスライス用のエントリを削除します。

```
# metahs -d hspot-spare-pool-number logical-device-name
```
 3. 次のコマンドを入力して、正しいデバイス ID を持つ、同じ場所にあるホットスペアスライス用の新しいエントリを作成します。

```
# metahs -a hspot-spare-pool-number logical-device-name
```

論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの `metadevadm` コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)

障害が発生したドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアで構成されたドライブに交換できません。交換するドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアにとって新しいドライブである必要があります。Photon 上のあるスロットから別のスロットにディスクを物理的に移動した場合、`metadevadm` コマンドが失敗することがあります。この問題が発生するのは、スライスの論理デバイス名がすでに存在しないのに、ディスクのデバイス ID がメタデバイス複製に存在しているためです。次のメッセージが表示されます。

Unnamed device detected. Please run 'devfsadm && metadevadm -r to resolve.

注-このとき、新しい場所にあるディスクにはアクセスできますが、スライスにアクセスするためには、古い論理デバイス名を使用する必要があります。

回避方法: ドライブを物理的に元のスロットに戻してください。

Solaris ボリュームマネージャの `metarecover` コマンドが `metadb` 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)

システムからディスクを物理的に取り外して交換して、`metarecover -p -d` コマンドを使用して適切なソフトパーティションの特定の情報をディスクに書き込むと、オープンエラーが発生します。このコマンドはメタデバイスデータベースの名前空間を更新せず、ディスクデバイス識別情報の変更を反映しません。この状態になると、ディスクの一番上に構築された各ソフトパーティションでオープンエラーが発生し、次のエラーメッセージが表示されます。

Open Error

回避方法: `metarecover` コマンドを実行してソフトパーティションを回復するのではなく、新しいディスクにソフトパーティションを作成してください。

注-ソフトパーティションがミラーまたは RAID5 の一部である場合、次の `metareplace` コマンドを `-e` オプションをつけずに使用して、古いソフトパーティションを新しいソフトパーティションに交換します。

```
# metareplace dx mirror または RAID5 old_soft_partition new_soft_partition
```

ネットワークに関するバグ情報

フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)

2 つの IP ノード間に複数の IP トンネルを設定し、`ip_strict_dst_multihoming` または他の IP フィルタを有効にした場合、パケットが失われることがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- まず、2 つの IP ノード間に IP トンネルを 1 つだけ設定する。それから、`-addif` オプションを指定した `ifconfig` コマンドによって、トンネルにアドレスを追加する。
- 2 つの IP ノード間のトンネルでは `ip_strict_dst_multihoming` を有効にしない。

セキュリティに関するバグ情報

CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)

CDE セッションのロックを解除すると、キャッシュされている Kerberos Version 5 (krb5) の資格がすべて削除されることがあります。その結果、さまざまなシステムユーティリティにアクセスできなくなることがあります。この問題は次の場合に起こります。

- `/etc/pam.conf` ファイルにおいて、当該システム用の `dtssession` サービスがデフォルトで `krb5` モジュールを使用するように構成されている。
- CDE セッションをロックした後、そのセッションのロックを解除しようとした。

この問題が発生した場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
lock screen: PAM-KRB5 (auth): Error verifying TGT with host/host-name:
Permission denied in replay cache code
```

回避方法: 次の `pam_krb5 dtssession` のエントリを `/etc/pam.conf` ファイルに追加してください。

```
dtssession auth requisite pam_authtok_get.so.1
```

```
dtssession auth required pam_unix_auth.so.1
```

上記エントリが /etc/pam.conf ファイルに存在すると、pam_krb5 モジュールはデフォルトで実行されません。

cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431)

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境において、ロックされたアカウントは期限切れのアカウントまたは存在しないアカウントと同様に処理されます。したがって、ロックされたアカウントに対して、cron、at、および batch ユーティリティでジョブをスケジュールすることはできません。

回避方法: ロックされたアカウントが cron、at、または batch ジョブを受け付けるようにするには、ロックされたアカウントのパスワードフィールド (*LK*) を NP (パスワードなしの意味) という文字列に置き換えます。

ソフトウェアに関するその他のバグ情報

SPARC: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャを使用してさまざまな作業を実行しようとする場合、vxddladm addjob または vxddladm addsupport ユーティリティでコアダンプが発生する場合があります。

回避方法: 次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザーになります。
2. /var/ld/ld.config ファイルと /usr/bin/crle ユーティリティがシステムに存在することを確認します。
3. 次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
# /usr/bin/cp /var/ld/ld.config /var/ld/ld.config.save
# /usr/bin/crle -E LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib
# appropriate-vxddladm-command
```

```
# /usr/bin/mv /var/ld/ld.config.save /var/ld/ld.config
```

DOCUMENTATION CD に関する注意事項

iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない

iPlanet™ Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese において、「DocHome」というタイトルのリンクと異なるブック間のリンクが機能しません。これらのリンクを選択した場合、Not Found エラーがブラウザに表示されます。

回避方法: 当該システム上で iPlanet Directory Server 5.1 のドキュメント間を移動するには、<http://docs.sun.com> で iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese ページに移動します。そこから表示したい文書へのリンクをクリックします。

他のドキュメントパッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要

SUNWsdocs パッケージが削除されている場合、他のドキュメントパッケージを削除しようとしても失敗します。この状況が発生するのは、SUNWsdocs が他のコレクションとともにインストールされ、ブラウザのエントリーポイントを提供しているためです。

回避方法: SUNWsdocs パッケージを削除している場合は、ドキュメントメディアから SUNWsdocs パッケージをもう一度インストールし、そのあとで他のドキュメントパッケージを削除してください。

DOCUMENTATION CD に関するバグ情報

ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムにおいて、次のヨーロッパロケールでは、Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD 1 of 2 の PDF 文書の表示ができません。

- de (ドイツ語)
- es (スペイン語)
- fr (フランス語)
- it (イタリア語)
- sv (スウェーデン語)

この問題が発生するのは、Adobe Acrobat Reader の制限のためです。この問題の詳細については、<http://www.adobe.com:80/support/techdocs/294de.htm> にある Adobe Technote サイトを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Solaris 9 4/03 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムでは、環境変数 LC_ALL を C に設定する。たとえば、C シェルでは、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
% env LC_ALL=C acroread
```

- Adobe Acrobat Reader 5.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードする。

Solaris 9 4/03 ドキュメントパッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 4/03 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)

次の場合、いくつかの Solaris 9 4/03 文書コレクションが予期せずシステムから削除されます。

1. Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 を両方ともシステムにインストールした。
2. 1 の後、prodreg ユーティリティまたは Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用して、あるドキュメントパッケージを削除した。

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 には共通のコレクションが 3 つあります。このようなコレクションが含まれるパッケージを Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 のどちらかのインストールから削除すると、このパッケージはシステムから削除されます。

次の表に、予期せず削除されることがあるパッケージの一覧を示します。

表 3-1 両方の Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD に含まれる Solaris 9 4/03 ドキュメントパッケージ

HTML パッケージ名	PDF パッケージ名	コレクション名
SUNWaadm	SUNWpaadm	Solaris 9 4/03 System Administrator Collection
SUNWdev	SUNWpdev	Solaris 9 4/03 Software Developer Collection
SUNWids	SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition)

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アンインストールプロセスによって上記ドキュメントパッケージが予期せず削除されたが、これらのパッケージをシステムに置いておきたい場合、これらのパッケージを Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 からインストールし直す。
- この問題を回避するには、`prodreg` ユーティリティを使用せず、`pkgrm` ユーティリティを使用して、削除したいパッケージをシステムから削除する。

ローカライズに関する注意事項

ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項

Solaris 8 では、`ja_JP.eucJP` ロケールは `ja` ロケールと同等のロケールとして定義されていましたが、Solaris 9 からは「UI-OSF 日本語環境実装規約 Version 1.1」を基準に定義されています。よって、`ja` ロケールは従来の Solaris の `ja` ロケールと同じ動作が必要な場合、`ja_JP.eucJP` ロケールは他の UNIX ベンダーと同じ動作が必要な場合に使用するのが適しています。詳細は「日本語環境ユーザズガイド」を参照してください。

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードのハードウェアがサポートされない

このリリース用に、エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードの 3 つのソフトウェアサポートが追加されました。

エストニア、カナダ、およびポーランドのユーザーは、必要に応じて標準 U.S. キーボード配列を変更できます。このため、柔軟性の高いキーボード入力が可能になります。

現時点では、この 3 つのキーボードタイプに適合するハードウェアは入手できません。

回避方法: この新しいキーボードソフトウェアを有効利用するには、次のいずれかの方法で `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイルを編集します。

■ エストニア語タイプ 6 キーボードの場合:

1. `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイル内の `US6.kt` エントリを `Estonia6.kt` に変更します。たとえば、次のように変更します。

```
6                                0                Estonia6.kt
```

2. `/usr/openwin/lib/locale/iso8859-15/Compose` ファイルに次のエントリを追加します。

```
<scaron>                        : "/xa8"                scaron
<scaron>                        : "/xa6"                scaron
<scaron>                        : "/270"                scaron
<scaron>                        : "/264"                scaron
```

3. システムを再起動すると、変更内容が有効になります。

■ フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボードの場合:

1. `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイル内の `US6.kt` エントリを `Canada6.kt` に変更します。たとえば、次のように変更します。

```
6                                0                Canada6.kt
```

2. システムを再起動すると、変更内容が有効になります。
- 通常のポーランド語タイプ 5 キーボードを使用している場合:
 1. /usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の Poland5.kt エントリを Poland5_pr.kt に変更します。たとえば、次のように変更します。

```
4                               52                Poland5_pr.kt
```

注-ディップスイッチの付いたキーボードを使用している場合は、システムをリブートする前に、スイッチがポーランド語のキーテーブルエントリとして正しいバイナリ値 (バイナリ 52) に設定されていることを確認してください。

2. U.S. タイプ 5 キーボードを使用している場合は、
/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の US5.kt エントリを Poland5_pr.kt に変更します。たとえば、次のように変更します。

```
4                               33                Poland5_pr.kt
```

3. システムを再起動すると、変更内容が有効になります。

ローカライズに関するバグ情報

SPARC: アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879)

アラビア語のロケールで分音符号を生成するには、アラビア文字を入力してから Shift-U を入力してください。

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールでソートを行うと、予期しない結果が発生します。

回避方法: フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語の UTF-8 ロケールでソートを行う前に、LC_COLLATE 変数とその言語の ISO8859-1 ロケールに設定してください。

```
# echo $LC_COLLATE
es_ES.UTF-8
# setenv LC_COLLATE es_ES.IS08859-1
```

上記のように LC_COLLATE 変数を設定後、ソートを行なってください。

Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関するバグ情報

Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関する注意事項とバグ情報について説明します。

[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)

Netscape Communicator 4.78 を ja_JP.PCK ロケールまたは ja_JP.UTF-8 ロケールで使用する場合、ページ情報ダイアログ内の日本語の一部が文字化けしたり、ダイアログのタイトルが表示されないことがあります。ja ロケールで使用している場合は、この問題は起こりません。

[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428)

キーボードの Copy キー、Paste キー、編集メニューの「コピー」、「ペースト」を使用して、端末エミュレータやテキストエディタなどの CDE アプリケーションから Netscape Communicator に日本語文字列をコピー&ペーストできません。

回避方法: マウスの左ボタンでコピーしたい文字をハイライト表示し、マウスの中ボタン (2 ボタンマウスの場合は右ボタン) を使って、Netscape Communicator 上にペーストしてください。

注 - マウスボタンのマッピングを左利き用に設定している場合は、左ボタンと右ボタンの機能が逆になります。

Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)

Netscape Communicator 4.78 を最初に起動した際に、使用許諾契約書を表示するダイアログが表示されますが、契約書の内容が途中で切れています。

回避方法 :以下の場所にある license ファイルを直接参照してください。

```
/usr/dt/appconfig/netscape/lib/locale/<locale>/netscape/license
```

Netscape 7.0 に関する注意事項

Solaris 版の Netscape 7.0 は、使用中のデスクトップのロケールに対応する言語環境が自動的に選択されて起動します。たとえば、ja ロケールでデスクトップを使用している場合、Netscape は常に日本語環境で起動します。したがって、Netscape 7.0 の「表示」メニューの「言語 / エリアを設定」メニューから言語を切り替えたり、「設定」ダイアログの「コンテンツパック」から言語またはエリアを切り替えたりしても、その操作は無効です。

また、「設定」ダイアログの「さらにダウンロード」および「表示」メニューの「追加ダウンロード」も機能しません。

Sun ONE Application Server のバグ

デフォルトのブラウザが Sun ONE Application Server 7 と互換性がない (バグ ID: 4741123)

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のデフォルトブラウザで、Sun ONE Application Server 管理インタフェースを使用しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Unsupported Browser: Netscape 4.78
```

```
It is recommended that you upgrade your browser to Netscape 4.79 or Netscape 6.2 (or later) to run the Sun One Application Server Administrative UI. Those who choose to continue and not upgrade may notice degraded performance or unexpected behavior.
```

注 – Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に含まれているバージョンの Sun ONE Application Server 管理インタフェースを実行している場合は、Netscape 4.79 または Netscape 7.0 を使用する必要があります。

回避方法: /usr/dt/bin/netscape の代わりに /usr/dt/appconfig/SUNWns/netscape を使用してください。

SPARC: Netscape Navigator の一部のバージョンでアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされていない (バグ ID: 4750616)

Netscape Navigator™ の一部のバージョンでは、Sun ONE Application Server のアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされていません。Netscape Navigator バージョン 6.x またはバージョン 7.x で ACL のエントリを編集すると、次の症状が断続的に現れることがあります。

例:

- ブラウザのウィンドウが消える
- ACL 編集画面が起動しても表示されない

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ACL 編集をサポートしている Netscape Navigator Version 4.79 または Microsoft Internet Explorer Version 6.0 を使用します。
- ACL ファイルを手動で編集します。ACL ファイルの書式の詳細については、『Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド』を参照してください。

Oracle 9.2 クライアントで Oracle 9.1 データベースにアクセスすると、データが破壊される場合がある (バグ ID: 4707531)

Oracle® 9.2 クライアントを使用して Oracle 9.1 データベースにアクセスする際、タイムスタンプ列の次に番号列が存在するとデータが破壊される場合があります。

この問題は、Oracle 9.1 データベースでは ojdbc14.jar ファイルが使用されることが原因と考えられます。パッチを適用することで、Solaris 32 ビットマシンで Oracle 9.1 データベースを実行しているときに発生するこの問題に対処できる場合があります。このとき JDBC™ ドライバは JDK™ 1.4 を使用する Oracle 用のドライバです。

回避方法: Oracle 社が Oracle Web サイトで提供するバグ ID: 2199718 用のパッチを入手して、サーバーに適用してください。

SPARC: コマンド行で作成した持続マネージャファクトリのリソースを表示すると、管理インタフェースはベリファイエラーを表示する (バグ ID: 4733109)

コマンド行インタフェースで作成した持続マネージャファクトリのリソースに対してベリファイエラーが表示されます。Sun™ ONE Application Server 管理インタフェースでリソースを表示すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ArgChecker Failure: Validation failed for jndiName: object must be non-null
```

回避方法: 次の手順を実行して、新しい持続マネージャファクトリのリソースを作成してください。

1. データソース情報付きの JDBC 接続プールを作成して、データベースに接続する。
2. JDBC リソースを作成して、Java Naming and Directory Interface™ (J.N.D.I.) 参照を介して接続プールを使用できるようにする。
3. 手順 2. で作成した JDBC リソースを備えた持続マネージャファクトリのリソースを作成する。

SPARC: server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性は、any 値をサポートしない (バグ ID: 4743366)

server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性に指定する any 値は、システムで利用可能なインタフェースをすべて待機することを許可します。IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースもその対象になります。ただし、Sun ONE Application Server をデフォルトに設定すると、サーバーの iiop-listener 要素のアドレス値は 0.0.0.0 に設定されます。このデフォルト設定では IPv6 インタフェースが待機されません。システム上に配置されたすべての IPv4 インタフェースだけが待機されます。

回避方法: server.xml ファイルの iiop-listener 要素のアドレス属性に :: を指定すると、システム上の IPv4 と IPv6 を待機します。

SPARC: SSL 対応環境への移行時にアプリケーションサーバーが再起動に失敗する (バグ ID: 4723776)

証明書をインストールしてセキュリティを有効にした後で Sun ONE Application Server の再起動を試みると、再起動が失敗します。メッセージには、サーバーがパスワードを受信できなかったというメッセージが表示されます。

SSL が有効でない場合、パスワードはキャッシュされないため再起動に失敗します。restart コマンドは、非 SSL モードから SSL 対応モードへの移行をサポートしません。

注 - この問題は、サーバーの初回再起動時にのみ発生します。以降の再起動は正常に実行されます。

回避方法: 次のいずれかの回避方法を実行してください。

- この問題に遭遇したら、「起動」ボタンをクリックします。
- この問題を避けるには、「再起動」ボタンをクリックする代わりに次の手順を実行します。
 1. 「停止」ボタンをクリックします。
 2. 「起動」ボタンをクリックします。

SPARC: 動的再ロードの実行中にアプリケーションサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4750461)

アプリケーションが多数の Enterprise JavaBeans™ コンポーネントを保持する場合、アプリケーションの動的再ロード時にサーバーがクラッシュする場合があります。動的再ロード機能は、アプリケーションの小規模な変更をすばやくテストするために開発環境で使用します。クラッシュは、利用可能な限度を超えてファイル記述子を使用しようとした場合に発生します。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. /etc/system ファイルに次の形式の行を追加して、ファイル記述子の制限値を増やします。
 - set rlim_fd_max=8192
 - set rlim_fd_cur=2048

アプリケーションのサイズに応じて、値を大きくすることも小さくすることも可能です。

2. システムをリブートします。

システムのデフォルトエンコーディングが UTF-8 ではない場合、コンソール出力が適切に表示されない (バグ ID: 4757859)

システムのデフォルトエンコーディングが UTF-8 ではない場合、アプリケーションサーバーの出力で複数バイト文字が正しく表示されません。

回避方法: ブラウザで `server.log` ファイルを開きます。

外部証明書のニックネームが、管理インタフェースのニックネームリストに表示されない (バグ ID: 4725473)

Sun ONE Application の管理インタフェースを使用して外部証明書をインストールする場合、外部暗号化モジュールにインストールされた証明書を使用して HTTP リスナーの SSL を有効にしようとする問題が発生します。証明書のインストールは成功しますが、証明書のニックネームが管理インタフェースに表示されません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. Sun ONE Application Server ソフトウェアがインストールされたシステムに、管理ユーザーとしてログインします。
2. `asadmin` コマンドを使用して、外部暗号化モジュールにインストールする証明書に HTTP リスナーをリンクします。`asadmin` コマンドの詳細は、`asadmin(1AS)` のマニュアルページを参照してください。

```
# asadmin create-ssl --user admin user --password password --host host name \  
--port port --type http-listener --certname nobody@apprealm:Server-Cert \  
--instance instance --ssl3enabled=true \  
--ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5 http-listener-1
```

このコマンドにより、証明書とサーバーインスタンス間のリンクが確立されます。このコマンドは、証明書をインストールしません。証明書は、管理インタフェースによりインストールされます。

注 - 証明書は HTTP リスナーとリンクされますが、HTTP リスナーは非 SSL モードで待機します。

3. HTTP リスナーが SSL モードで待機するように設定します。次のコマンドを実行してください。

```
# asadmin set --user admin user --password password --host host name \  
--port port server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true
```

このコマンドにより、サーバーインスタンスの待機状態が非 SSL から SSL に切り替わります。上述の手順の実行後に、証明書が管理インタフェースに表示されます。

これで、必要に応じて、管理インタフェースを使用して HTTP リスナーを編集できます。

SPARC: flexanlg コマンドを使用すると、オープンエラーが表示される (バグ ID: 4742993)

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境で Sun ONE Application Server ソフトウェアを実行し、`/usr/appserver/bin` の `flexanlg` コマンドを実行すると、ファイルオープンエラーが表示されます。

```
ld.so.1: /usr/appserver/bin/flexanlg: fatal: libplc4.so:open failed:  
No such file or directory  
killed
```

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. 次のエントリを `LD_LIBRARY_PATH` ファイルに追加します。
`/usr/lib/mps`
2. `flexanlg` コマンドを実行します。
`% /usr/appserver/bin/flexanlg`

IPv6 のみに対応したクライアントからアプリケーションサーバーに接続できない (バグ ID: 4742559)

注 - ネットワークで IPv6 を使用していない場合、この問題は関係ありません。

デフォルトでは、Sun ONE Application Server 7 のインスタンスおよび管理サーバーのインスタンスは IPv4 を使用します。IPv4 は、Sun ONE Application Server を実行可能なすべてのオペレーティング環境でサポートされます。IPv6 をサポートするオペレーティング環境では、Sun ONE Application Server の構成を変更して IPv6 に適合させる必要があります。

注 - 構成を変更する場合、システムが確実に IPv6 をサポートしていることを確認してください。IPv6 に合わせた構成を IPv4 のみをサポートするシステムに適用すると、アプリケーションサーバーのインスタンスが起動しなくなる可能性があります。

回避方法: 次の手順で構成を変更します。

1. 管理サーバーを起動します。
2. ブラウザで、管理サーバーの HTTP ホストまたはポートに接続して、管理コンソールを起動します。
3. IPv6 用に構成するサーバーインスタンスを選択します (たとえば、`server1`)。
4. ツリービューで、HTTP リスナーノードを展開します。

5. IPv6 用に構成する HTTP リスナーを選択します (たとえば、http-listener1)。
6. 「一般」セクションの「IP アドレス」フィールドの値を「**ANY**」に変更します。
7. 「詳細」セクションの「ファミリー」フィールドの値を「**INET6**」に変更します。
「ファミリー」フィールドを「INET6」に変更しても、IPv6 用の IP アドレスを選択するまで IPv4 の機能は無効になりません。IP アドレスとして選択した「ANY」は、任意の IPv4 または IPv6 アドレスに一致します。
8. 「保存」をクリックします。
9. 左の区画からサーバーインスタンスを選択します。
10. 「変更を適用」をクリックします。
11. 「停止」をクリックします。
12. 「起動」をクリックします。
サーバーが再起動して、変更が実装されます。

変更したサンプルが、再配置するまで更新されない (バグ ID: 4726161)

小さな変更を加えてアプリケーションを再パッケージした後で、ユーザーがサンプルを複数回配置しようとするすると、次のエラーメッセージが表示されます。

Already Deployed

大半のサンプルが `deploy` ターゲットを保持する Ant ユーティリティおよび `common.xml` ファイルを使用しているため、この問題の影響を受けます。これらを組み合わせて使用することで、アプリケーションの配置とリソースの登録が混在します。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- 大半の、Ant ユーティリティ `build.xml` (`common.xml` ファイルを含む) を使用するサンプルアプリケーションの場合、次のコマンドを入力します。

```
% asant deploy_common
```

- 他のサンプルアプリケーションの場合、次のコマンドを入力します。

```
% asant undeploy
```

```
% asant deploy
```

SPARC: トランザクションの設定に 0 以外の値を指定すると、ローカルトランザクションが遅くなる (バグ ID: 4700241)

Local Transaction Manager は、タイムアウト値を指定したトランザクションをサポートしていません。トランザクションサービス要素のタイムアウト属性に 0 より大きな数値を秒単位で指定すると、ローカルトランザクションはすべてグローバルトランザクションとして処理されます。タイムアウト値 0 を指定すると、データソースからの応答がない場合、トランザクションマネージャは永久的に待機します。

注 - データソースのドライバがグローバルトランザクションをサポートしていない場合、ローカルトランザクションは失敗します。

回避方法: タイムアウト値をデフォルト値 (0) にリセットします。

Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない (バグ ID: 4732684)

CMP (Container-Managed Persistence) Bean を使用して Oracle JDBC 最適化を利用するには、`server.xml` ファイルの `classpath-suffix` 属性で `classes12.zip` を指定する必要があります。他社製ライブラリ用のデフォルトディレクトリである `instance/lib/` に、`classes12.zip` を配置しないでください。

回避方法: `classes12.zip` ファイルを `server.xml` の `classpath-suffix` 属性に追加してください。

アプリケーションの動的再ロードおよび呼び出し中にアクセス権の問題が発生する (バグ ID: 4756981)

管理サーバーが `root` により所有され、サーバーインスタンスが `root` 以外のユーザーにより所有される場合、アプリケーションの動的再ロードおよび呼び出し時にアクセス権の問題が発生します。

回避方法: モジュールまたはアプリケーションを配置および再配置した後で (事前コンパイルオプションの有無に関係なく)、以下のディレクトリの所有者を `root` から `root` 以外のユーザーに変更します。このユーザーは、インスタンス所有者と同じユーザーにしてください。

ディレクトリ所有権の変更は、次のリストに示すアプリケーションの種類に基づいて、ディレクトリごとに再帰的に適用する必要があります。

- `domain-root/server-instance /applications/j2ee-apps/application-name`
- `domain-root/server-instance /applications/j2ee-modules/module-name`
- `domain-root/server-instance /generated/ejb/j2ee-apps/application-name`
- `domain-root/server-instance /generated/jsp/j2ee-apps/application-name`
- `domain-root/server-instance /generated/jsp/j2ee-modules/module-name`

1. スーパーユーザーになります。
2. 使用する状況に適合するディレクトリごとに、次のコマンドを入力します。

```
# chown -R non-root-instance-owner directory-name
```

IPv6 アドレスに対する DNS アドレス参照が失敗すると、RMI-IIOP クライアントが IPv6 アドレスに対して動作しない (バグ ID: 4743419)

IPv6 アドレスに対する DNS 参照が失敗すると、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) クライアントが IPv6 アドレスに対して動作しません。

回避方法: IPv6 アドレスを参照するには、DNS (Domain Name Service) を配置サイトで設定する必要があります。

アプリケーションまたはシステムが UTF-8 エンコーディングを使用していない場合、「表示するエントリタイプ」フィールドに指定した値はイベントログ中で文字化けする (バグ ID: 4763655)

ユーザーが「表示するエントリタイプ」フィールドに複数バイト文字を入力してイベントログを検索すると、検索結果は「表示するエントリタイプ」フィールド内の値が文字化けして表示されます。この問題は、メッセージフォーマットが UTF-16 から UTF-8 に変換されたことが原因です。

回避方法: ありません。

デフォルトの管理コンソールの GUI が (ローカライズ版で) 英語で表示される (バグ ID: 4761017)

Admin GUI と `asadmin` CLI の管理サーバーのインスタンスには言語エントリがないため、ローカライズ版を最初からインストールする場合の GUI、または新しく作成したドメインのインスタンスは英語で表示されます。

回避方法 : server.xml ファイルのロケールエントリを手動で設定します。

asadmin ヘルプから翻訳されたマニュアルページが呼び出せない (バグ ID: 4758671)

ローカライズ版の Application Server 7 をインストールしても、Application Server 7 バイナリには翻訳されたマニュアルページが同梱されていません。

回避方法 :

- C ロケールに変更して英語版のマニュアルページを表示します。
- オンラインヘルプまたは asadmin ユーティリティマニュアルページの「Admin Guide」を使用します。

Sun ONE Application Server のセキュリティ関連のバグ

アプリケーションサーバーがすべてのインスタンスを root として開始するため、root 以外のユーザーにも root アクセス権が許可される (バグ ID: 4780076)

Sun ONE Application Server を Solaris インストールの一部としてインストールした場合、アプリケーションサーバーの起動時に次の問題が考えられます。

- Solaris システムの起動時に、アプリケーションサーバーのインスタンスおよび管理サーバーのインスタンスがすべて自動的に開始されます。多くの環境では、Solaris システムの起動時にすべてのインスタンスを自動的に開始することは期待されていません。定義されたインスタンスをすべて開始すると、システムで使用可能なメモリーに悪影響を及ぼす場合があります。
- アプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスを自動的に開始すると、各インスタンスの起動スクリプトが root で実行されます。root 以外のユーザー所有のインスタンス起動スクリプトを実行する際、インスタンスレベルの起動スクリプトを変更することで、root 以外のユーザーによる root ユーザーへのアクセスを可能にできます。

Sun ONE Application Server のインストール時に /etc/init.d/appserv スクリプトおよび /etc/rc*.d/ ディレクトリ内の S84appserv および K05appserv スクリプトへのシンボリックリンクがインストールされます。これらのスクリプトにより、

アプリケーションサーバーインストールの一部として定義されたアプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスすべてが、Solaris システムの起動および停止時に自動的に開始および停止されます。

/etc/init.d/appserv スクリプトには、次のコードが含まれます。

```
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-appserv
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-appserv
    ;;
```

asadmin start-appserv コマンドを実行すると、すべての管理ドメインで定義された管理サーバーインスタンスおよびアプリケーションサーバーインスタンスが、Solaris システムの起動時に開始されます。システムの起動スクリプトおよび停止スクリプトは root で実行されるため、各アプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスの起動スクリプトも root で実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトの名前は startserv で、instance-dir/bin/startserv に存在します。root 以外のユーザーがインスタンスを所有可能であるため、コマンドを root ユーザーで実行するように、root 以外のユーザーが startserv スクリプトを変更できます。

インスタンスで特権設定されたネットワークポートが使用される場合、インスタンスの startserv スクリプトを root で実行する必要があります。ただし、一般的には、root ユーザーによるインスタンスの初回起動後に、指定されたユーザーでインスタンスが実行されるように、インスタンスの構成内で run as user (実行するユーザー) を設定します。

回避方法: 環境に応じて、次のいずれかを実行します。

- すべてのアプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスを root で開始する必要がない環境では、/etc/init.d/appserv スクリプトの asadmin start-appserv コマンドおよび asadmin stop-appserv コマンドの実行をコメントにします。
- 特定の管理ドメイン、または1つ以上の管理ドメイン内の特定のインスタンスを開始する必要のある環境では、スクリプトを変更または作成してこの処理を自動化できます。ここで言う「特定の管理ドメイン」には、各ドメイン内の管理サーバーインスタンスおよびすべてのアプリケーションサーバーインスタンスが含まれます。

次の手順のいずれかを実行します。

- 該当するドメインまたはインスタンスを開始するように /etc/init.d/appserv スクリプトを変更します。
- 使用する環境の要件を満たす /etc/rc*.d/ スクリプトを新しく定義します。

起動時の考慮事項: 指定したアプリケーションサーバー管理ドメインまたはアプリケーションサーバーインスタンスが自動的に開始されるように、Solaris オペレーティング環境の起動スクリプトを変更する場合、以下を考慮してください。

- 特定のドメインを開始する – 管理サーバーインスタンスおよび特定の管理ドメインのすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを root ユーザーで開始するには、/etc/rc*.d/ スクリプトを次のように変更します。

```
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-domain --domain production-domain
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-domain --domain production-domain
    ;;
```

- 特定のアプリケーションサーバーインスタンスを root 以外のユーザーで開始する --c オプションを指定して su コマンドを実行するように /etc/rc*.d/ スクリプトを変更します。

```
case "$1" in
'start')
    su - usera -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain
instance-a"
    su - userb -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain
instance-b"
    ;;
'stop')
    su - usera -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain
instance-a"
    su - userb -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain
instance-b"
    ;;
```

asadmin コマンド行インタフェースで使用可能な startup コマンドおよび shutdown コマンドの詳細は、『Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド』を参照してください。

Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の問題

設定の問題

インストール時、識別名を入力するときには UTF-8 文字セットエンコーディングを使用します。ほかのエンコーディングはサポートされていません。インストール操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。データをインポートするために使用される LDIF ファイルも UTF-8 文字セットエンコーディングを使用する必要があります。インポート操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。

スキーマの問題

Sun Open Net Environment (Sun ONE) Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) 5.1 が提供するスキーマは、RFC 2256 において `groupOfNames` オブジェクトクラスと `groupOfUniqueNames` オブジェクトクラスに指定されているスキーマとは異なります。Sun ONE Directory Server 5.1 が提供するスキーマでは、`member` 属性タイプと `uniquemember` 属性タイプはオプションで選択します。RFC 2256 では、これらのタイプにはオブジェクトクラスごとに少なくとも 1 つの値が存在する必要があると指定されています。

`aci` 属性は操作属性です。明示的に要求しない限り、検索結果は返されません。

レプリケーションの問題

現在、広域ネットワーク上のマルチマスターレプリケーションはサポートされません。

サーバープラグインの問題

Sun™ ONE Directory Server 5.1 は UID 一意性検査 (Uniqueness) プラグインを提供します。デフォルトでは、このプラグインは起動されません。特定の属性について属性の一意性を確実にするには、属性ごとに属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの新しいインスタンスを作成します。属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの詳細については、<http://docs.sun.com> の『iPlanet Directory Server 5.1 管理者ガイド』を参照してください。

現在、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインはデフォルトでオフです。衝突解決ループを回避するために、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインは、マルチマスターレプリケーション環境でも 1 つのマスターレプリカだけで有効にする必要があります。連鎖要求を発行するサーバーで参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインを有効にする前に、パフォーマンス資源、時間、および完全性のニーズを解析します。完全性チェックはメモリー資源と CPU 資源を大量に消費する可能性があります。

サービスのロールとクラスの問題

`nsRoleDN` 属性はロールを定義するのに使用します。この属性は、ユーザーのエントリにおけるロールメンバーシップを評価するには使用しないでください。ロールメンバーシップを評価するときには、`nsrole` 属性を調べます。

インデックスの問題

複数のデータベースを持つ場合、VLV インデックスは正しく機能しません。

Sun ONE Directory Server に関するバグ情報

Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)

Sun ONE Directory Server 5.1 Console を起動し、新しいユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成した場合、新たに作成したユーザーまたはロールがアクティブになります。Console を使用した場合、ユーザーとロールは「アクティブでない」として作成できません。

回避方法: ユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成するには、次の手順に従います。

1. 新しいユーザーまたはロールを作成します。
2. 新たに作成したユーザーまたはロールをダブルクリックするか、あるいは新たに作成したユーザーまたはロールを選択します。「オブジェクト」メニューから「プロパティ」項目をクリックします。
3. 「アカウント」タブをクリックします。
4. 「無効」ボタンをクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

新たに作成したユーザーまたはロールが無効になります。

ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)

Sun ONE Directory Server 5.1 構成時にユーザーが空白文字が含まれるベース DN を指定した場合 (たとえば、「`o=U.S. Government,C=US`」)、結果として DN は切り詰められます (たとえば、「`Government,C=US`」)。構成時に DN を指定するときには、空白文字を使用せずに入力する必要があります (たとえば、「`o=U.S.%20Government,C=US`」)。

回避方法: ベース DN エントリを修正するには、次の手順に従います。

1. Console の「サーバとアプリケーション」タブの左側にあるナビゲーション区画において、一番上のディレクトリエントリを選択します。
2. User ディレクトリサブツリーフィールドにおいて、接尾辞を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)

マスター以外のディレクトリサーバーでパスワードポリシー情報を更新した場合、この情報はほかのすべてのサーバーに複製されません。これはアカウントロックアウトの原因にもなります。

回避方法: 各サーバーでパスワードポリシー情報を手動で管理します。

ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが有効なまま残る (バグ ID: 4527623)

アカウントロックアウトが有効である場合、ユーザーパスワードを変更しても、アカウントロックアウトは有効なまま残ります。

回避方法: ロックアウト属性 `accountUnlockTime`、`passwordRetryCount`、および `retryCountResetTime` をリセットして、アカウントのロックを解除します。

インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)

Sun ONE Directory Server 5.1 をインストールして、コンソールを起動し、ディレクトリを LDIF ファイルで初期化し、サーバーをバックアップした場合、Console はバックアップが成功したと報告しますが、実際にはバックアップは失敗しています。

回避方法: データベースを初期化した後、Console から次の作業を行います。

1. サーバーを停止します。
2. サーバーを起動し直します。
3. バックアップを実行します。

DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)

LDAP ネーミングサービスを使用して、大文字小文字の区別以外は同じである自動マウントパス名を複数作成することはできません。大文字と小文字の区別以外は同じ名前前のエントリがすでに存在する場合、ネーミング属性が大文字と小文字を区別する構文で定義されるエントリは作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。

注 - /home/foo と /home/Foo の両方のパスを作成することはできません。

たとえば、エントリ `attr=foo,dc=mycompany,dc=com` が存在する場合、エントリ `attr=Foo,dc=mycompany,dc=com` は作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。つまり、LDAP ネーミングサービスを使用する場合、自動マウントパス名は大文字と小文字の区別に関わらず一意である必要があります。

回避方法: ありません。

エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)

エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュします。

回避方法: 上記操作中にはサーバーを停止しないでください。

レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)

ユーザーが証明書ベースの認証による SSL (Secure Socket Layer) レプリケーションを構成しようとするとき、次のいずれかの場合、レプリケーションは機能しません。

- サプライヤの証明書が自己署名である場合
- サプライヤの証明書が SSL ハンドシェイク時にクライアントのロールを果たせず、SSL サーバー証明書としてのロールしか果たせない場合

回避方法: ありません。

その他

バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない

いくつかのフリーウェアのソフトウェアが Solaris SOFTWARE CD にバンドルされていますが、多くのものは国際化および各国語対応されていません。

第 4 章

追加情報

この章では、Solaris 9 4/03 マニュアルセットが発行された後に発表された新しい機能に関する情報を紹介します。Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の新しい機能について詳細は、<http://docs.sun.com> の『Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の概要』を参照してください。

この章には、Solaris 9 4/03 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 4/03 ご使用にあたって』の発行後に追加された次の機能に関する説明が追記されています。

- 107 ページの「Solaris Live Upgrade を使用した Solaris フラッシュ差分アーカイブのインストール」

Solaris Live Upgrade を使用した Solaris フラッシュ差分アーカイブのインストール

概要

Solaris Live Upgrade を使用すると、システムを稼働状態のままアップグレードできます。現在のブート環境を実行しながらブート環境を複製し、その複製をアップグレードできます。元のシステム構成は完全に機能する状態に維持され、Solaris フラッシュアーカイブのアップグレードまたはインストールによる影響は受けません。準備ができたなら、システムをリブートして新しいブート環境をアクティブにすることができます。障害が発生したら、簡単なリブート手順で元のブート環境にすばやく復旧できるので、テストプロセスおよび評価プロセスで一般的に発生するダウンタイムが削減されます。

Solaris Live Upgrade を使用してまずアクティブでないブート環境を作成してから、新しいブート環境をアップグレードします。アクティブでないブート環境に Solaris フラッシュアーカイブをインストールするというのは、ブート環境をアップグレードする 1 つの方法です。Solaris フラッシュアーカイブをインストールすると、新しいブート環境のすべてのファイルが上書きされますが、差分アーカイブをインストールすると、ブート環境に対する変更部分のみが更新されます。差分アーカイブには、変更前のマスターシステムイメージと更新後のマスターシステムイメージという 2 つのシステムイメージ間の差分が含まれています。差分アーカイブのインストール時には、アーカイブに示されているファイルだけがブート環境に対して追加、変更、または削除されます。差分アーカイブを使用すると、クローンシステムに部分的な変更のみを行い、すばやく更新できます。

Solaris フラッシュ差分アーカイブの作成については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

- 概要および計画に関する情報は、『Solaris 9 インストールガイド』の「フラッシュの概要と計画」を参照してください。
- タスクに関する情報は、『Solaris 9 インストールガイド』の「フラッシュアーカイブの作成」を参照してください。

▼ Solaris Live Upgrade で使用するプロファイルを作成する

差分アーカイブを作成したら、Solaris Live Upgrade を使用して新しいブート環境にインストールできます。Solaris Live Upgrade にはアップグレード用パラメタを提供するプロファイルが必要です。プロファイルは `luupgrade` コマンドによって使用されます。

1. テキストエディタを使用してテキストファイルを作成します。
2. アップグレード用パラメタを提供するプロファイルのキーワードおよび値を追加します。差分アーカイブには次に示すキーワードを使用できます。

表 4-1 Solaris Live Upgrade プロファイルのキーワードと記述子

プロファイルのキーワード	記述子
(必須) <code>install_type</code>	インストールの種類を決定する。Solaris フラッシュ差分アーカイブを示す値は <code>flash_update</code>
(必須) <code>archive_location</code>	指定した場所から Solaris フラッシュアーカイブを抽出する
(任意) <code>no_master_check</code>	元のマスターシステムから作られたことを保証するためのクローンシステムの検査を無視する

表 4-1 Solaris Live Upgrade プロファイルのキーワードと記述子 (続き)

プロファイルのキーワード	記述子
(任意) local_customization	カスタムスクリプトを保存したディレクトリを指定して、クローンシステムにローカルな構成を保存する
(任意) forced_deployment	新しいファイルをすべて削除して、クローンシステムを希望の状態にする
(任意) no_content_check	クローンシステムがマスターシステムの複製であることを保証するファイルごとの妥当性検査を無視する

3. プロファイルをローカルシステム上のディレクトリに保存する。
4. ルートにプロファイルが存在し、そのアクセス権が **644** に設定されていることを確認する。
5. (任意) プロファイルをテストする。
 差分アーカイブをインストールするのに `luupgrade` コマンドを使用する方法については、『Solaris 9 インストールガイド』の第 33 章「Solaris Live Upgrade を用いたアップグレード」で「プロファイルを使用して Solaris Live Upgrade でアップグレードする」を参照してください。

例 4-1 Solaris Live Upgrade プロファイル

次は、Solaris Live Upgrade でクローンシステムに差分アーカイブをインストールする場合に使用するプロファイルの例です。差分アーカイブで指定されたファイルだけが追加、削除、または変更されます。Solaris フラッシュアーカイブは NFS サーバーから抽出されます。イメージは元のマスターシステムで作成されたものなので、クローンシステムが有効なシステムイメージかどうかを検査しません。このプロファイルは、Solaris Live Upgrade の `luupgrade` コマンドで `-u` オプションおよび `-j` オプションを使用します。

```
# profile keywords      profile values
# -----
install_type           flash_update
archive_location       nfs installserver:/export/solaris/flasharchive/solaris9archive
no_master_check
```


第 5 章

サポート中止に関する情報

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

Solaris 9 でサポートを中止した製品

この節では、Solaris 9 オペレーティング環境に適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

adb マップ修飾子とウォッチポイント構文

adb ユーティリティは、Solaris 9 オペレーティング環境のこのリリースにおいて、新しい mdb ユーティリティへのリンクとして実装されています。

mdb(1) のマニュアルページでは、adb との互換モードなど、新しいデバッグ機能について説明されています。この互換モードにおいても、adb と mdb の間には、次のような違いがあります。

- mdb では、一部のサブコマンドのテキスト出力形式が異なります。マクロファイルの形式は adb と同じ規則に従っていますが、他のサブコマンドの出力に依存するスクリプトは、変更しなければならない場合があります。
- ウォッチポイントの長さを指定する構文が、mdb と adb とで異なります。adb のウォッチポイントコマンド `:w`、`:a`、`:p` では、整数の長さをバイト単位で指定してコロンとコマンド文字の間に挿入することができます。mdb(1) では、繰り返し回数として、数値を初期アドレスの後に指定する必要があります。
 - adb コマンドの場合
123:456w
 - mdb コマンドの場合

123,456:w

- mdb では、/m、 /*m、 ?m、 ?*m 書式指示子はサポートされていないため認識されません。

AnswerBook2 文書サーバー

AnswerBook2™ 文書サーバーは、このリリースには含まれていません。従来の AnswerBook2 文書サーバーは Solaris 9 オペレーティング環境で使用できます。Solaris のマニュアルは Solaris DOCUMENTATION CD によってオンライン形式でご利用いただけます。また、<http://docs.sun.com> で、Solaris の全マニュアルをいつでもご利用いただけます。

aspppd ユーティリティ

aspppd ユーティリティは、このリリースではサポートがされません。Solaris 9 オペレーティング環境に含まれている Solaris PPP 4.0 のpppd (1M) を使用してください。

ATOK8 日本語入力方式

ATOK8 日本語入力方式は、このリリースでサポートが中止されました。Solaris 9 オペレーティング環境に組み込まれている ATOK12 日本語入力方式によって、いくつかの拡張機能とともに、ATOK8 と同様の機能が得られます。

crash ユーティリティ

crash ユーティリティは、このリリースではサポートされません。Solaris 9 オペレーティング環境では、crash ユーティリティに近い機能が mdb (1) ユーティリティで提供されます。mdb ユーティリティもシステムがクラッシュしたときのダンプファイルを調べます。crash ユーティリティのインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の実装に関係のない細部の実装 (スロットなど) の周辺に構成されてきました。

crash から mdb への移行については、『Solaris モジューラデバッガ』の「crash からの移行」で説明されています。

Solaris ipcs コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション

システムクラッシュ時のダンプに、コマンド行で -c オプションと -N オプションを指定して ipcs (1) コマンドを適用する機能は、このリリースではサポートされません。これと同等の機能は、mdb (1) ::ipcs デバッガコマンドで提供されます。

cs00 日本語入力方式

cs00 日本語入力方式は、Solaris 9 オペレーティング環境でのサポートが中止されました。xci インタフェースなどの関連インタフェース、Japanese Feature Package (JFP) の libmle API、および mle コマンドも Solaris 9 オペレーティング環境ではサポートされません。

旧リリースから Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると、従来の公共ユーザー辞書 /var/mle/ja/cs00/cs00_u.dic が削除されます。

Solaris 9 オペレーティング環境でサポートされる日本語入力方式は、ATOK12 と Wnn6 の 2 種類です。ATOK12 と Wnn6 の入力方式に関しては、『国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

x86: devconfig コマンド

devconfig コマンドは、このリリースではサポートが中止されました。

x86: デバイスとドライバソフトウェアのサポート

次の表に、このリリースでサポートが中止されたデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 5-1 デバイスとドライバソフトウェアのサポート

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
Mylex/Buslogic FlashPoint Ultra PCI SCSI	flashpt	SCSI HBA
Madge Token Ring Smart 16/4, Madge Token Ring Smart 16/4 PCI BM Mk2, Madge Token Ring Smart 16/4 PCI BM Mk1, および Madge Token Ring PCI Presto	mtok	ネットワーク
Compaq Integrated NetFlex-3 10/100 T PCI, Compaq NetFlex-3/P, Compaq NetFlex-3 DualPort 10/100 TX PCI, Compaq Netelligent 10 T PCI, および Compaq Netelligent 10/100 TX PCI	cnftt	ネットワーク

アーリーアクセス (EA) ディレクトリ

Solaris 9 リリースでは、EA ディレクトリの名前は ExtraValue に変更されました。

ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ

ESDI ドライブ用の MD21 ディスクコントローラは、Solaris 9 オペレーティング環境でサポートが中止されました。

enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタ

enable_mixed_bcp は、このサポートが中止されました。Solaris 9 以前のオペレーティング環境では、/etc/system の変数 enable_mixed_bcp を 0 に設定すると、部分的に静的にリンクされた、SunOS™ 4.0 と互換性のある実行可能ファイルの動的なリンクを無効にすることができます。設定がない場合、システムは、これらの実行可能ファイルに対して動的リンクを使用します。Solaris 9 オペレーティング環境では動的リンクが常に使用され、enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタがシステムから削除されました。この変更による、SunOS 4.0 と互換性のある実行可能ファイルに対する、バイナリ互換性への影響はありません。

x86: Intel 486 システム

Intel 486 システムにおける Solaris オペレーティング環境のサポートは、このリリースで中止されました。

japanese ロケール

Solaris 1.x リリースからの移行のために ja (EUC) ロケールの別名として提供されてきた japanese ロケールは提供されなくなりました。ja または ja_JP.eucJP ロケールを使用してください。ただし、BCP (JLE) アプリケーションは引き続きサポートされます。

Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2

Java™ SDK バージョン 1.2.2 は、Solaris 9 のリリースには組み込まれていません。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE (Java Runtime Environment) の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8

JDK version 1.1.8 および JRE version 1.1.8 は、このリリースでサポートが中止されました。その代わりに、ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition version 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE の新旧を含むすべてのバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

libjapanese.a

日本語専用ライブラリ libjapanese.a およびそれに関連する次のヘッダーファイルは、提供されなくなりました。

- /usr/include/jcode.h
- /usr/include/ibmjcode.h
- /usr/include/jctype.h
- /usr/include/ja/xctype.h
- /usr/include/wstring.h

libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムは、XPG4.2 などの標準関数を使用して書き換えることをお勧めします。

また、Solaris 7 および Solaris 8 で提供していた、libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムのソース互換性を保つための代替関数およびマクロのソースファイル (SUNWjlibj) も、提供されなくなりました。

OpenWindows 開発ツールキット

OpenWindows™ XView™ および OLIT ツールキットでの開発は、このリリースでサポートが中止されました。開発者は Motif ツールキットへの移行を検討してください。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用して開発されたアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境でも実行できます。

OpenWindows ユーザー環境

OpenWindows 環境は、このリリースでサポートが中止されました。共通デスクトップ環境 (CDE) が Solaris 9 オペレーティング環境のデフォルトのデスクトップ環境です。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用するアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境の CDE でも実行できます。

プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ(priority_paging/cachefree)

priority_paging および cachefree という調整可能なパラメタは、Solaris 9 リリースではサポートされません。これらのパラメタの代わりに、拡張ファイルシステムキャッシュアーキテクチャがプライオリティページングと同様のページングポリシーを実装します。これは常時、使用可能です。/etc/system ファイルにこれらのパラメタを設定しようとする、ブート時に次のような警告が出力されます。

```
sorry, variable 'priority_paging' is not defined in the 'kernel'  
sorry, variable 'cachefree' is not defined in the 'kernel'
```

Solaris 9 リリースに移行するか、または pkgadd で SUNWcsr パッケージを追加し、/etc/system ファイルに priority_paging パラメタまたは cachefree パラメタが含まれていた場合、次のように処理されます。

1. /etc/system ファイルに priority_paging パラメタまたは cachefree パラメタが設定されていると、次のメッセージが表示されます。

NOTE: /etc/system は、調整可能パラメタの参照が含まれていたので変更されました。
変更されたファイルを確認してください。

2. /etc/system ファイルの、priority_paging または cachefree を設定する行の前に、コメントが挿入されます。たとえば、priority_paging が 1 に設定されている場合、その行が以下の行に置き換えられます。

```
* NOTE: As of Solaris 9, priority paging is unnecessary and
* has been removed. Since references to priority paging-related tunables
* will now result in boot-time warnings, the assignment below has been
* commented out. For more details, see the Solaris 9 Release Notes, or
* the "Solaris Tunable Parameters Reference Manual".
```

```
* set priority_paging=1
```

s5fs ファイルシステム

s5fs ファイルシステムは、このリリースでサポートが中止されました。s5fs ファイルシステムは、Interactive UNIX アプリケーションのインストールをサポートするためのものでした。しかし Solaris オペレーティング環境は、Interactive UNIX アプリケーションをサポートしていません。

sdtudc_extract_ps

sdtudc_extract_ps が廃止され、その機能は sdtudc_extract に統合されました。

sendmail ユーティリティ機能

sendmail ユーティリティの一部は、このリリースにサポートされません。サポートが中止される機能は、標準機能に対して Sun が独自に修正を加えた部分です。たとえば、V1/Sun 構成ファイル用の特殊な構文や意味解釈、リモートモード機能、Auto Rebuild Aliases オプション、Sun 固有の 3 つの逆別名機能などがこれに当たります。

これらの機能および移行方法の詳細については、<http://www.sendmail.org/vendor/sun/solaris9.html> を参照してください。

SUNWebnfs パッケージ

SUNWebnfs パッケージは、Solaris オペレーティング環境には含まれません。

ライブラリと関連マニュアルについては、<http://www.sun.com/webnfs> からダウンロードできます。

sun4d ベースのサーバー

sun4d アーキテクチャベースの以下のサーバーは、このリリースでサポートが中止されました。

- SPARCserver™ 1000
- SPARCcenter 2000

sun4d アーキテクチャに依存するハードウェアオプションは、このリリースでサポートが中止されました。

SUNWrdm パッケージ

Solaris SOFTWARE CD に含まれており、Solaris オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報やリリース直前に明らかになった問題点が記載されていましたが、このパッケージはこのリリースでは提供されません。

SUNWrdm に記載されていた情報は、Solaris DOCUMENTATION CD に含まれている『ご使用にあたって』(本書)、印刷マニュアルの『インストールにあたって』(インストールに関する情報のみ)、<http://docs.sun.com> に掲載されている『ご使用にあたって』に記載されていますので、これらを参照してください。

将来のリリースでサポートを中止する予定の製品

この節では、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースに適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

AdminTool コマンド

swmtool を含む AdminTool (admintool) は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

アジアの短縮 dtlogin 名

次にリストするアジアの短縮ロケール名は、将来のリリースでは dtlogin 言語リストに含まれない可能性があります。

- zh
- zh.GBK
- zh.UTF-8
- ko
- ko.UTF-8
- zh_TW

Solaris 8、Solaris 9 および Solaris 9 4/03 リリースでは、下記を含む新しい ISO 標準ロケール名を提供しています。

- zh_CN.EUC
- zh_CN.GBK
- zh_CN.UTF-8
- ko_KR.EUC
- ko_KR.UTF-8
- zh_TW.EUC

廃止されるデバイスドライバインタフェース (DDI)

Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは、一部のデバイスドライバインタフェース (Device Driver Interfaces、DDI) がサポートされなくなります。

次の表に、将来サポートされなくなる可能性がある DDI インタフェースと、好ましい代替 DDI インタフェースを示します。

廃止されるインタフェース	好ましいインタフェース
mmap(9E)	devmap(9E)
identify(9E)	nulldev(9F) を指定する
copyin(9F)	ddi_copyin(9F)
copyout(9F)	ddi_copyout(9F)
ddi_dma_addr_setup(9F)	ddi_dma_addr_bind_handle(9F)
ddi_dma_buf_setup(9F)	ddi_dma_buf_bind_handle(9F)
ddi_dma_curwin(9F)	ddi_dma_getwin(9F)
ddi_dma_free(9F)	ddi_dma_free_handle(9F)
ddi_dma_htoc(9F)	ddi_dma_addr[buf]_bind-handle(9F)

廃止されるインタフェース	好ましいインタフェース
ddi_dma_movwin (9F)	ddi_dma_getwin (9F)
ddi_dma_nextseg (9F)	ddi_dma_nextcookie (9F)
ddi_dma_nextwin (9F)	ddi_dma_nextcookie (9F)
ddi_dma_segtocookie (9F)	ddi_dma_nextcookie (9F)
ddi_dma_setup (9F)	ddi_dma*_handle (9F)
ddi_dmae_getlim (9F)	ddi_dmae_getattr (9F)
ddi_getimminor (9F)	getminor (9F)
ddi_getlongprop (9F)	ddi_prop_lookup (9F)
ddi_getlongprop_buf (9F)	ddi_prop_lookup (9F)
ddi_getprop (9F)	ddi_prop_get_int (9F)
ddi_getproplen (9F)	ddi_prop_lookup (9F)
ddi_iopb_alloc (9F)	ddi_dma_mem_alloc (9F)
ddi_iopb_free (9F)	ddi_dma_mem_free (9F)
ddi_mem_alloc (9F)	ddi_dma_mem_alloc (9F)
ddi_mem_free (9F)	ddi_dma_mem_free (9F)
ddi_map_regs (9F)	ddi_regs_map_setup (9F)
ddi_mapdev (9F)	devmap_setup (9F)
ddi_mapdev_intercept (9F)	devmap_load (9F)
ddi_mapdev_nointercept (9F)	devmap_unload (9F)
ddi_prop_create (9F)	ddi_prop_update (9F)
ddi_prop_modify (9F)	ddi_prop_update (9F)
ddi_segmap (9F)	devmap (9E) を参照
ddi_segmap_setup (9F)	devmap_setup (9F)
ddi_unmap_regs (9F)	ddi_regs_map_free (9F)
free_pktiopb (9F)	scsi_free_consistent_buf (9F)
get_pktiopb (9F)	scsi_alloc_consistent_buf (9F)
makecom_g0 (9F)	scsi_setup_cdb (9F)
makecom_g0_s (9F)	scsi_setup_cdb (9F)
makecom_g1 (9F)	scsi_setup_cdb (9F)

廃止されるインタフェース	好ましいインタフェース
makecom_g5 (9F)	scsi_setup_cdb (9F)
scsi_dmafree (9F)	scsi_destroy_pkt (9F)
scsi_dmaget (9F)	scsi_init_pkt (9F)
scsi_pktalloc (9F)	scsi_init_pkt (9F)
scsi_pktfree (9F)	scsi_destroy_pkt (9F)
scsi_realloc (9F)	scsi_init_pkt (9F)
scsi_resfree (9F)	scsi_destroy_pkt (9F)
scsi_slave (9F)	scsi_probe (9F)
scsi_unslave (9F)	scsi_unprobe (9F)
ddi_peek{c,s,l,d} (9F)	ddi_peek{8,16,32,64} (9F)
ddi_poke{c,s,l,d} (9F)	ddi_poke{8,16,32,64} (9F)
in{b,w,l} (9F)	ddi_get{8,16,32} (9F)
out{b,w,l} (9F)	ddi_put{8,16,32} (9F)
repins{b,w,l} (9F)	ddi_rep_get{8,16,32} (9F)
repouts{b,w,l} (9F)	ddi_rep_put{8,16,32} (9F)
GLOBAL_DEV	0 を指定
NODEBOUND_DEV	0 を指定
NODESPECIFIC_DEV	0 を指定
ENUMERATED_DEV	0 を指定
DDI_IDENTIFIED	不要
DDI_NOTIDENTIFIED	不要

詳細は、『*man pages section 9: DDI and DKI Driver Entry Points*』(英語版) および『*man pages section 9: DDI and DKI Kernel Functions*』(英語版)を参照してください。

power.conf の Device Management エントリ

power.conf (4) の Device Management エントリは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Automatic Device Power Management エントリによって同様の機能が得られます。

詳細は、power.conf (4) のマニュアルページを参照してください。

デバイスとドライバソフトウェアのサポート

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定のデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 5-2 デバイスとドライバソフトウェア

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
AMI MegaRAID host bus adapter, first generation	mega	SCSI RAID
Compaq 53C8x5 PCI SCSI および Compaq 53C876 PCI SCSI	cpqncr	SCSI HBA
Compaq SMART-2/P Array Controller および Compaq SMART-2SL Array Controller	smartii	SCSI RAID コントローラ

フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド

X/Open XFN 標準に基づくフェデレーテッドネーミングサービス (FNS) は、将来のリリースでサポートを中止する予定です。

GMT zoneinfo タイムゾーン

`/usr/share/lib/zoneinfo/GMT[+-]*` タイムゾーンは、将来のリリースでサポートが中止される予定です。これらのタイムゾーンのファイルは、`/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリから削除されます。削除されたファイルの代わりに、対応する `Etc/GMT[+-]*` ファイルを使用してください。詳細については、`zoneinfo(4)` および `environ(5)` を参照してください。

SPARC: グラフィックドライバのサポート

以下のグラフィックデバイスのソフトウェアサポートが、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

デバイス	ドライバ
MG1, MG2	bwtwo
CG3	cgthree

デバイス	ドライバ
SX/ CG14	sx、cgfourteen
TC	cgeight
TCX	tcx

JRE 1.2.2

Java Runtime Environment (JRE) のバージョン 1.2.2 は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

Kerberos バージョン 4 クライアント

Kerberos バージョン 4 クライアントは、将来のリリースで削除される予定です。これに伴い、以下において Kerberos バージョン 4 はサポートされなくなります。

- kinit(1)、kdestroy(1)、klist(1)、mount_nfs(1M)、kerbd(1M) コマンド
- kerberos(3KRB) ライブラリ
- ONC RPC プログラミング API (kerberos_rpc(3KRB))

Korean CID フォント

Korean CID フォントは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris オペレーティング環境には、Korean CID フォントに代わるものとして Korean TrueType フォントが組み込まれているので、そちらを使用してください。

LDAP クライアントライブラリ

LDAP (軽量ディレクトリアクセスプロトコル、Lightweight Directory Access Protocol) クライアントライブラリ libldap.so.3 は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。このライブラリの新しいバージョンである libldap.so.5 は、IETF (Internet Engineering Task Force) の ldap-c-api ドラフトの draft-ietf-ldapext-ldap-c-api-05.txt 版に準拠しています。

廃止される軽量プロセス (LWP) インタフェース

次の軽量プロセス (LWP) インタフェースは、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

- _lwp_create(2)

- `_lwp_detach(2)`
- `_lwp_exit(2)`
- `_lwp_getprivate(2)`
- `_lwp_makecontext(2)`
- `_lwp_setprivate(2)`
- `_lwp_wait(2)`

これらのインタフェースは、デフォルトでマルチスレッドが有効になる一般モデルに含まれていません。これらのインタフェースは、`libthread` をリンクしていないアプリケーション内で使用する場合にかぎり、期待どおり機能していました。

匿名インタフェースグループ機能

`ndd /dev/ip ip_enable_group_ifs` で有効になる匿名インタフェースグループ機能は、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。同様の働きを持つ、サポート対象の IP ネットワークマルチパス機能を使用してください。IP マルチパスグループは、`ifconfig(1M)` コマンドのグループキーワードを使って作成できません。

詳細は、`ndd(1M)` および `ifconfig(1M)` のマニュアルページを参照してください。

netstat の -k オプション

`netstat` の `-k` というサポートされていないオプション (実行中の OS インスタンス上のすべての名前付きカーネル統計情報について報告するオプション) は、将来のリリースで削除される可能性があります。代わりに、サポートされている `kstat(1M)` コマンド (同じ機能を提供している) を使用してください。 `kstat` コマンドは、Solaris 8 オペレーティング環境で導入されたものです。

詳細は、`kstat(1M)` のマニュアルページを参照してください。

NIS+ ネームサービスの種類

NIS+ (ネットワーク情報サービスプラス) は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境には、NIS+ から LDAP への移行ツールが用意されています。詳細は、<http://www.sun.com/directory/nisplus/transition.html> を参照してください。

pam_unix モジュール

`pam_unix(5)` モジュールは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。 `pam_authok_check(5)`, `pam_authok_get(5)`, `pam_authok_store(5)`, `pam_dhkeys(5)`, `pam_passwd_auth(5)`, `pam_unix_account(5)`, `pam_unix_auth(5)` および `pam_unix_session(5)` が同様の機能を提供します。

Perl バージョン 5.005_03

将来 Perl バージョン 5.005_03 は、サポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Perl のデフォルトバージョンが前のバージョン (5.005_03) とバイナリ互換でないバージョンに変更されました (ただし、現在はまだ互換可能です)。サイトで独自にインストールしたモジュールは、新しいバージョンに対応させるために、再構築および再インストールする必要があります。バージョン 5.005_03 を使用する必要のあるスクリプトは、デフォルトバージョン (/bin/perl、/usr/bin/perl または /usr/perl5/bin/perl) の代わりに、バージョン 5.005_03 のインタープリタ (/usr/perl5/5.005_03/bin/perl) を明示的に使用するように変更してください。

電源管理入出力制御コマンド

次の電源管理入出力制御コマンド (ioctls) は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- PM_DISABLE_AUTOPM
- PM_REENABLE_AUTOPM
- PM_SET_CUR_PWR
- PM_GET_CUR_PWR
- PM_GET_NORM_PWR

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境では、次の ioctls が代わりにサポートされています。

- PM_DIRECT_PM
- PM_RELEASE_DIRECT_PM
- PM_GET_CURRENT_POWER
- PM_SET_CURRENT_POWER
- PM_GET_FULL_POWER

ioctls の詳細については、ioctl (2) マニュアルページを参照してください。

64-bit SPARC: libc の ptrace (2) インタフェース

libc に含まれていた 64 ビット版の ptrace (2) インタフェースは、将来のリリースでサポートされなくなります。proc () インタフェースによってその機能が置き換えられます。詳細については、proc (4) のマニュアルページを参照してください。

sendmailvars と L sendmail.cf コマンドまたは G sendmail.cf コマンド

nsswitch.conf(4) に含まれている sendmailvars データベースは、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。L sendmail.cf または G sendmail.cf コマンドを使用せずに、この機能を有効にすることはできませんでした。この変更により、Sun バージョンの sendmail は、sendmail.org バージョンにより厳密に準拠するようになります。

Solaris 32 ビット Sun4U カーネル

Solaris 7、8、および 9 ソフトウェアの多くのインストールでは、デフォルトの 64 ビットカーネルを使って 32 ビットおよび 64 ビットのアプリケーションをサポートします。UltraSPARC システム上で 32 ビットのカーネルを使用するカスタマは、この注意事項をお読みください。

Solaris 7、8、および 9 オペレーティング環境では、UltraSPARC I および UltraSPARC II プロセッサをベースにしたすべてのシステムにおいて、32 ビットカーネルと 64 ビットカーネルのどちらをブートするかを管理者が選択できます。UltraSPARC III 以降のシステムでは、64 ビットカーネルだけがサポートされます。

Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは、UltraSPARC I および UltraSPARC II システムについても、32 ビットカーネルを利用できなくなる可能性があります。

この変更からもっとも影響を受けるのは、サードパーティの 32 ビットカーネルモジュール (たとえば、ファイアウォール、カーネル常駐ドライバ、置換ファイルシステムなど) に依存しているシステムです。こうしたシステムは、これらのモジュールの 64 ビットバージョンを使用するようにアップデートしなければなりません。

この変更のもう 1 つの影響は、200MHz 以下のクロック周波数の UltraSPARC I プロセッサを搭載した UltraSPARC システムが、将来のリリースではサポートされなくなる可能性があるという点です。

システムのカーネルタイプを識別するには、isainfo(1) コマンドを使用します。

```
% isainfo -kv
```

システムのプロセッサクロックレートを識別するには、psrinfo(1M) コマンドを使用します。

```
% psrinfo -v | grep MHz
```

Solaris スタティックシステムライブラリ

この告知は、32 ビット版のスタティックシステムライブラリおよび静的にリンクしたユーティリティだけに該当します。64 ビット版のスタティックシステムライブラリとユーティリティは提供されていません。

32 ビット版の Solaris スタティックシステムライブラリおよび静的にリンクしたユーティリティは、将来のリリースではサポートされなくなります。特に、スタティック C ライブラリ (`/usr/lib/libc.a`) は、将来のリリースでサポートされなくなります。

既存のスタティックシステムライブラリにリンクしたアプリケーションは、将来のリリースでは動作しなくなります。ABI (一般的には、Solaris Application Binary Interface) を提供するシステムライブラリに動的にリンクするアプリケーションの互換性だけが将来的に確保されます。

システムトラップの動作に依存するアプリケーションは、将来のリリースでは動作しなくなります。また、システムトラップの動作に依存するライブラリ (一般的には、ABI 機能を代替的に提供するライブラリ) にリンクされたアプリケーションも将来のリリースでは動作しなくなります。

Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム

Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム (trans メタデバイス) は、Solaris 機能セットの冗長性を軽減するために将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。同等の機能が Solaris 8 オペレーティング環境およびその互換バージョンに含まれる UFS ロギングにより提供されます。

Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents™ は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

SPC ドライバ

SPC ドライバは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

スタンドアロンのルーター検出

IPv4 ICMP ルーター発見プロトコルの `/usr/sbin/in.rdisc` 実装は、Solaris ソフトウェアの将来のリリースではサポートされなくなる可能性があります。このプロトコルとほぼ同等のバージョンが、`/usr/sbin/in.routed` のコンポーネントとして

実装されており、拡張された管理インタフェースをサポートしています。
/usr/sbin/in.routed コンポーネントは、RIP (経路制御情報プロトコル、Routing Information Protocol) バージョン 2 の実装をサポートします。
/usr/sbin/in.routed コンポーネントには、モバイル IP 通知をルーター発見メッセージと区別する機能もあります。

sun4m ハードウェア

sun4m ハードウェアは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカード

Ultra™ AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカードのサポートは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは提供されなくなる可能性があります。

XIL

XIL™ インタフェースは、将来のリリースでサポートが中止される予定です。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING:  XIL OBSOLESCENCE
          This application uses the Solaris XIL interface
          which has been declared obsolete and may not be
          present in version of Solaris beyond Solaris 9.
          Please notify your application supplier.
          The message can be suppressed by setting the environment variable
          "_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG."
```

xutops プリントフィルタ

xutops プリントフィルタは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の mp (1) プリントフィルタで同様の機能が提供されています。

第 6 章

マニュアルに関する情報

この章では、ドキュメントについて知られている問題を説明します。

マニュアルの訂正・補足と注意事項

『Solaris WBEM 開発ガイド』の付録 A 「Solaris スキーマ」

新しい『Solaris WBEM 開発ガイド』の付録 A では、以前『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』で言及されていた MOF ファイルに関する記述が更新されたとあります。新しい『Solaris WBEM 開発ガイド』の Solaris_DMGT1.0.mof および Solaris_VM2.0.mof ファイルに関する記述は誤りです。これら 2 つのファイルは、今回のリリースには含まれません。

『Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の概要』の「ソフトウェア開発者用マニュアルの変更」

新しい『Solaris WBEM 開発ガイド』の付録では、以前『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』で言及されていた MOF ファイルに関する記述が更新されたとあります。しかし、新しい『Solaris WBEM 開発ガイド』と『Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の概要』の Solaris_DMGT1.0.mof ファイルおよび Solaris_VM2.0.mof ファイルに関する記述は誤りです。これら 2 つのファイルは、今回のリリースには含まれません。

『Solaris WBEM 開発ガイド』

Solaris CIM スキーマでは、次のクラスおよび属性に `Deprecated` 修飾子のタグが付いています。

- `Solaris_LogRecord` クラス
- `Solaris_LogService` クラス
- `Solaris_LogServiceSetting` クラス
- `Solaris_IPProtocolEndpoint` クラスの `OptionsEnabled` プロパティ

これらの推奨されないクラスおよび属性には、適切な代替クラスおよび属性を使用してください。適切な代替クラスおよび属性かどうかを判別するには、クラスの `Description` 修飾子を参照してください。

『Solaris WBEM 開発ガイド』の「クライアントプログラム」の記述

「クライアントプログラムの記述」では、`javax.wbem.client` API で RMI プロトコルを使用する WBEM クライアントを作成する際に必要な情報を記載しています。Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーに接続する場合は、クライアントの `CLASSPATH` に `/usr/sadm/lib/wbem/cimapi.jar` ファイルを指定する必要があります。`cimapi.jar` ファイルには、Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーとの通信に必要な `com.sun.wbem` クラスが指定されています。

『Sun ONE Application Server 7 開発者ガイド』

注 - このマニュアルはインデックスが付いた配備ディレクトリだけに関係します。

配備済みアプリケーションのディレクトリ名に付加されるインデックス番号は、インデックス作成機構として実装されています。この機構により、開発者は配備済みアプリケーションに関連する JAR ファイルやクラスファイルを修正することが可能です。Windows プラットフォームでは、ロードしたファイルを上書きすると、共有違反が発生するため、この機構は特に重要です。Windows はロードしたファイルをロックします。セッションが開始されると、ファイルはサーバーインスタンスや IDE (統合開発環境、Integrated Development Environment) にロードされます。共有違反が発生した場合は、次の 2 つの回避方法が可能です。

- 更新されたクラスファイル (元は JAR ファイルの一部) をコンパイルし、クラスパスに置くことで、古いクラスファイルより前にロードさせます。次に、再ロードがアクティブであれば、Sun ONE Application Server に対してアプリケーションの再ロードを許可します。
- JAR ファイルを更新し、EAR ファイルを新しく作成して、アプリケーションを再配備します。

注 – Solaris プラットフォームでは、ファイルをロックするという制約がないため、アプリケーションを再配備する必要はありません。

Windows プラットフォーム上で IDE を起動するか、ANT ファイルをコピー、コンパイルなどして、配備済みアプリケーションを変更すると、ほかの箇所にも変更が発生することに注意してください。ファイルロックによる制約を回避するために、ディレクトリ名に増分したインデックス番号が付加されて、新しいディレクトリ名が作成されます。たとえば、Solaris プラットフォームの場合、J2EE アプリケーションの `helloworld` は、Sun ONE Application Server の次のディレクトリに格納されます。

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-  
apps/helloworld_1
```

ディレクトリ名の変更は、配備済みアプリケーション(例: `HelloServlet.java`) を構成するサーブレットにも適用されます。Sun ONE Studio IDE を起動し、サーブレットのソースファイルを変更した後、前述のディレクトリを指定して `javac` でコンパイルします。ソースファイルを適切なロケーションでコンパイルし、アプリケーションで再ロードするファイルがあると、`server.xml` ファイルの `reload` フラグが `True` にセットされます。アプリケーションを再度アセンブルして、再配備しなくても、サーバーインスタンスを実行するだけで変更内容が反映されます。

Windows プラットフォームの場合、ファイルがロックされるため、JAR ファイルとクラスファイルは変更およびアップデートができません。そのため、Windows プラットフォームでの解決には、次の 2 つの方法があります。

- 変更したソースファイルをコンパイルし、クラスパスにクラスファイルまたは JAR ファイルを付加し、ソースファイルの変更内容を有効にします。
- `helloworld` のソースを変更し、アセンブルした後、古い `helloworld` を削除せずに、配備しなおします。

配備済みアプリケーションのディレクトリ名に増分したインデックス番号が付加されるため、2 番目の方法が推奨されています。2 つ目の `helloworld` アプリケーションを配備すると、ディレクトリ構造は次のようになります。

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-  
apps/helloworld_1
```

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-  
apps/helloworld_2
```

2 番目の `helloworld` は `helloworld_2` に格納されます。

『Solaris ボリュームマネージャの管理』の「ルート (/) のミラー化に関する特殊な考慮事項」

「ルート (/) のミラー化に関する特殊な考慮事項」では、ルート (/) をミラー化する場合に必要な代替起動デバイスへのパスを記録する例を記載しています。SPARC 版の例で、一部の新しい Sun ハードウェアでは、/devices ディレクトリ名を sd@ や dad@ から disk@ に変更する必要があります。

[日本語環境のみ] X Window System 関係の日本語翻訳マニュアルページが古い

一部の X Window System 関係の日本語翻訳マニュアルページは、内容が最新ではありません。

回避方法: 日本語マニュアルページは参考とし、最新の情報は英語版マニュアルページを参照してください。(例: % env LANG=C man XtAddCallback)

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD に関する注意事項

ナビゲーションファイルに関する注意事項

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD には、各言語のコレクションへのリンクなどを集めたナビゲーション用の html ファイル群が用意されています。CD 上からは、これらのナビゲーション用ファイルを参照または使用することができます。

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION CD をインストールした場合には、インストールされた各コレクションへのリンクを持つナビゲーション用の html ファイルが生成されます。生成されるファイル名は、/var/opt/sun_docs/sundocs.html です。このファイルから Netscape などのブラウザにより各コレクションをたどることができます。

『Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) - Japanese』の日本語版マニュアルについて

Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 2 of 2 CD には『Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) - Japanese』が含まれています。ここでは、Solaris 9 4/03 DOCUMENTATION 1 of 2 CD の『Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition)』に含まれる英語版マニュアルのうち一部のみ翻訳されています。また、以下の日本語版マニュアルは、HTML 形式でのみ提供されます。

- Sun ONE Application Server 7 ご使用の前に
- Sun ONE Application Server 7 製品の概要
- Sun ONE Application Server 7 新機能
- Sun ONE Application Server 7 プラットフォーム
- Sun ONE Application Server 7 アーキテクチャの概要
- Sun ONE Application Server 7 入門ガイド

日本語版のないマニュアルについては、上記英文コレクションをご覧ください。

<http://docs.sun.com> で参照できる『Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition) - Japanese』には、以下の日本語版マニュアルが含まれています。

- Sun ONE Application Server 7 ご使用の前に
- Sun ONE Application Server 7 製品の概要
- Sun ONE Application Server 7 新機能
- Sun ONE Application Server 7 プラットフォーム
- Sun ONE Application Server 7 アーキテクチャの概要
- Sun ONE Application Server 7 入門ガイド
- Sun ONE Application Server 7 サーバーアプリケーションの移行および再配備¹
- Sun ONE Application Server 7 開発者ガイド
- Sun ONE Application Server 7 Web アプリケーション開発者ガイド¹
- Sun ONE Application Server 7 Enterprise JavaBeans 開発者ガイド¹
- Sun ONE Application Server 7 管理者用設定ファイルリファレンス
- Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド¹
- Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド J2EE CA Service Provider Implementation¹
- Sun ONE Application Server 7 セキュリティ管理者ガイド¹
- Sun ONE Application Server 7 パフォーマンスチューニングガイド¹

注 1: DocCD には含まれていません。

なお、以下のマニュアルについては、日本語版が存在しません。『Sun ONE Application Server 7 Collection (Solaris Edition)』をご覧ください。

Sun ONE Application Server 7 Developer's Guide to NSAPI

付録 A

Solaris 9 4/03 オペレーティング環境の パッチについて

この付録で示すパッチは、次のいずれかの方法で、すでに Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に適用されています。

- SolStart

この方法で適用されたパッチは、インストールされたシステムの `/var/sadm/patch` ディレクトリにあります。

- Freshbits テクノロジ

この方法で適用されたパッチは、Solaris 9 4/03 オペレーティング環境が作成されたときに適用されたものです。そのため、`/var/sadm/patch` ディレクトリにはありません。

`showrev -p` コマンドを実行すると、インストールしたシステムに適用されているすべてのパッチの一覧が、その適用方法に関わらず表示されます。Solaris 9 4/03 オペレーティング環境には、既知の検査済みのパッチが含まれています。これらのパッチは Solaris 9 4/03 オペレーティング環境からバックアウトすることはできません。

注 - Solaris 9 4/03 オペレーティング環境には、Solaris アップデトリリースのインストールイメージに特有のタスクを実行するパッチが含まれています。これらのパッチはそれぞれの Solaris オペレーティング環境アップデトリリースに固有であるため、Solaris オペレーティング環境のほかのシステム、またはほかのリリースには適用されません。これらのパッチを Solaris オペレーティング環境のほかのシステムにダウンロードまたはインストールしようとしてはなりません。

SPARC パッチの一覧

- 111703-03 - SunOS 5.9: `/usr/ccs/bin/sccs` and `/usr/ccs/bin/make patch`

4654328 4222874 4514485 4483221 4504348 4631517 4654957

■ 111711-03 – 32-bit Shared library patch for C++

4618537 4619221 4660290 4668167 4679619 4680478 4686364 4709155 4710815 4302954 4698028
4699194 4704604 4708982 4745600 4747931 4749398 4749628 4750936 4756106

■ 111712-03 – 64-Bit Shared library patch for C++

4618537 4660290 4668167 4679619 4680478 4686364 4709155 4710815 4302954 4698028 4699194
4704604 4708982 4745600 4747931 4749398 4749628 4750936 4756106

■ 111722-02 – SunOS 5.9: Math Library (libm) patch

4652341 4664522 4810765

■ 112233-05 – SunOS 5.9: Kernel Jumbo Patch

4114317 4201022 4254013 4360843 4382913 4462509 4466085 4484338 4491038 4496935 4498831
4500536 4511634 4521521 4521525 4522402 4525533 4527648 4532512 4533078 4533108 4533270
4533712 4618812 4619870 4623395 4627510 4627620 4629569 4630754 4633008 4633015 4636049
4637031 4638346 4638608 4638981 4640282 4640982 4642754 4643857 4644123 4644346 4644731
4647361 4648171 4649851 4650210 4651201 4653044 4655634 4659588 4664740 4666799 4669486
4672677 4672730 4674788 4675827 4676535 4676707 4677620 4682258 4682918 4686943 4687362
4691127 4691670 4693350 4693574 4698325 4698684 4701854 4702559 4707874 4708822 4709147
4709805 4711013 4711133 4712247 4713409 4714245 4714688 4717581 4718366 4719361 4719365
4720790 4725524 4726041 4729479 4731198 4735093 4739920 4742711 4745795 4748411 4749934
4756968 4757023 4757311 4757718 4772038 4772938 4779758 4780672 4781113 4785538 4786613
4804524 4714062

■ 112540-07 – SunOS 5.9: Expert3D IFB Graphics Patch

4652111 4645735 4650501 4316968 4515693 4494062 4497748 4649811 4652804 4654897 4659006
4663042 4624812 4663732 4664981 4651919 4697564 4703423 4668373 4655393 4675933 4698167
4691212 4617170 4720843 4731406 4733511 4773758 4744109

■ 112565-11 – SunOS 5.9: XVR-1000 GFB Graphics Patch

4636225 4640002 4629777 4638125 4635704 4643375 4587680 4636721 4639155 4643767 4637546
4636748 4641167 4641177 4636866 4636788 4636846 4637796 4652512 4669035 4668381 4670095
4674533 4679353 4685579 4708069 4664996 4671387 4675252 4679830 4699753 4703545 4730199
4717529 4676118 4739840 4734313 4758471 4759742 4745719 4766223 4674551 4772063 4772398
4768264 4775646 4771302 4781933 4783131 4790859 4792390 4772798 4649442

■ 112601-04 – SunOS 5.9: PGX32 Graphics

4502887 4633850 4688024 4728662

■ 112617-02 – CDE 1.5: rpc.cmsd patch

4641721 4687131

■ 112620-03 – SunOS 5.9: Elite3D AFB Graphics Patch

4651358 4714683 4747203 4750896 4685879

■ 112621-05 – SunOS 5.9: Creator and Creator3D: FFB Graphics Patch

4663332 4651358 4714683 4747203 4750896 4685879 4649465

■ 112622-08 – SunOS 5.9: M64 Graphics Patch

4531901 4632595 4668719 4672129 4682681 4452851 4633941 4684877 4692693 4737335 4749353
4769331 4735033

■ **112661-04 – SunOS 5.9: IIIM and X Input & Output Method patch**

4593130 4412147 4726723 4629783 4721656 4721661 4742096 4691874 4650804 4774826 4645171
4643078 4664772 4604634 4617694 4617691 4471922 4691871 4686165 4515546 4772485 4777933
4776987

■ **112764-06 – SunOS 5.9: Sun Quad FastEthernet qfe driver**

4807151 4790953 4772916 4760845 4681502 4738051 4727494 4704689 4717401 4719739 4451757
4367043 4411205 4664588 4655451 4292608 4645631

■ **112771-10 – Motif 1.2.7 and 2.1.1: Runtime library patch for Solaris 9**

4512887 4663311 4664492 4679034 4615922 4661767 4699202 4741124 4757112 4743372 4712265
4750419 4717502 4764309 4787387

■ **112783-01 – X11 6.6.1: xterm patch**

4636452 4657934

■ **112785-13 – X11 6.6.1: Xsun patch**

4649617 4651949 4642632 4644622 4531892 4692623 4700844 4712590 4710958 4710402 4703884
4638864 4729267 4675755 4677235 4729905 4763009 4707069 4709009 4760672 4734353 4762797
4740125 4732113 4676222 4753720 4736505 4780894 4633549 4798375 4742744

■ **112787-01 – X11 6.6.1: twm patch**

4659947

■ **112804-01 – CDE 1.5: sdtname patch**

4666081

■ **112805-01 – CDE 1.5: Help volume patch**

4666089

■ **112806-01 – CDE 1.5: sdtaudiocontrol patch**

4666089

■ **112807-04 – CDE 1.5: dtlogin patch**

4667119 4648724 4750889 4761698 4807292 4720523

■ **112808-03 – OpenWindows 3.6.3: Tooltalk patch**

4668701 4707187 4713445

■ **112809-02 – CDE:1.5 Media Player (sdtjmplay) patch**

4663628 4731319

■ **112810-04 – CDE 1.5: dtmail patch**

4712584 4715670 4786715 4714769 4715322

■ **112811-01 – OpenWindows 3.7.0: Xview Patch**

4690979

■ **112812-01 – CDE 1.5: dtlp patch**

4646929

■ **112817-06 – SunOS 5.9: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 driver patch**

4658962 4651090 4648346 4647988 4645885 4637950 4629291 4675241 4640855 4686107 4686121
4686126 4704372 4696480 4703803 4699088 4698533 4687821 4678583 4704413 4703839 4707612
4702980 4690650 4690643 4730696 4728208 4724811 4717637 4717385 4681554 4708816 4678908
4710796 4735212 4708099 4735224 4735240 4746230 4739846 4738499 4753634 4754360 4753629
4763533 4762837

■ **112834-02 – SunOS 5.9: patch scsi**

4628764 4656322 4656416

■ **112835-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/clinfo**

4638788

■ **112836-02 – SunOS 5.9: patch scsa2usb**

4660516 4756231

■ **112837-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/inet/in.dhcpd**

4621740

■ **112838-05 – SunOS 5.9: pcicfg Patch**

4407705 4496757 4711639 4716448 4717617

■ **112839-04 – SunOS 5.9: patch libthread.so.1**

4254013 4533712 4647410 4647927 4667173 4795308

■ **112840-03 – SunOS 5.9: patch platform/SUNW,Sun-Fire-15000/kernel/drv/sparcv9/axq**

4619267 4652995 4756231

■ **112841-06 – SunOS 5.9: drmach patch**

4652995 4659588 4664749 4669462 4696700 4769147

■ **112854-02 – SunOS 5.9: icmp Patch**

4511634 4647983

■ **112868-07 – SunOS 5.9: OS Localization message patch**

4658681 4685336 4706059 4681374 4733193 4734495 4736248 4775204 4767999 4809660

■ **112874-14 – SunOS 5.9: patch libc**

1258570 4192824 4221365 4248430 4254013 4318178 4390053 4444569 4503048 4510326 4518988
4530367 4533712 4635556 4661997 4669963 4683320 4694626 4700602 4704190 4709984 4749274
4756113 4767215 4770160 4772960

■ **112875-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/netsvc/rwall/rpc.rwalld**

4664537

■ **112902-11 – SunOS 5.9: kernel/drv/ip Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4488694 4502640 4511634 4592876 4639079 4644731 4645471
4647361 4648388 4649557 4656795 4658216 4660167 4662169 4662866 4673676 4682913 4688392
4688398 4688704 4691577 4694560 4712511 4749268 4763402 4784039

- **112903-03 – SunOS 5.9: tun Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388 4660167 4688392 4688398 4688704 4694560
- **112904-02 – SunOS 5.9: tcp Patch**

4645471 4687850
- **112905-02 – SunOS 5.9: ippctl Patch**

4644731 4647361 4712511
- **112906-01 – SunOS 5.9: ipgpc Patch**

4644731 4647361
- **112907-01 – SunOS 5.9: libgss Patch**

4197937 4220042 4642879
- **112908-07 – SunOS 5.9: gl_kmech_krb5 Patch**

4197937 4220042 4521000 4526202 4630574 4642879 4657596 4666887 4671577 4690212 4691352
4727224 4743181 4744280
- **112911-03 – SunOS 5.9: ifconfig Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4488694 4592876 4648388 4660167 4661975 4676731 4688392
4688398 4688704 4694560
- **112912-01 – SunOS 5.9: libinetcfg Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388
- **112913-01 – SunOS 5.9: fruadm Patch**

4505850
- **112915-01 – SunOS 5.9: snoop Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4396697 4417647 4425786 4475921 4479794 4532805
4532808 4532860 4559001 4587434 4592876 4635766 4637330 4637788 4648299 4648388
- **112916-01 – SunOS 5.9: rtquery Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4648299
- **112917-01 – SunOS 5.9: ifrt Patch**

4645471
- **112918-01 – SunOS 5.9: route Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4645471 4648299
- **112919-01 – SunOS 5.9: netstat Patch**

4645471
- **112920-02 – SunOS 5.9: libipp Patch**

4644731 4647361 4712511

■ **112921-01 – SunOS 5.9: libkadm5 Patch**

4197937 4220042 4642879

■ **112922-01 – SunOS 5.9: krb5 lib Patch**

4197937 4220042 4642879

■ **112923-02 – SunOS 5.9: krb5 usr/lib Patch**

4197937 4220042 4642879 4703622

■ **112924-01 – SunOS 5.9: kdestroy kinit klist kpasswd Patch**

4197937 4220042 4642879

■ **112925-02 – SunOS 5.9: ktutil kdb5_util kadmin kadmin.local kadmind Patch**

4197937 4220042 4642879 4646370

■ **112926-03 – SunOS 5.9: smartcard Patch**

4366894 4524620 4629775 4635010 4635082 4635106 4636389 4639842 4642726 4646472 4646476
4646497 4647454 4647542 4649161 4655166 4676018 4682730 4683241

■ **112927-01 – SunOS 5.9: IPQos Header Patch**

4644731 4647361

■ **112928-01 – SunOS 5.9: in.ndpd Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388

■ **112929-01 – SunOS 5.9: RIPv2 Header Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4648299

■ **112941-06 – SunOS 5.9: sysidnet Utility Patch**

4519228 4678406 4683519 4698391 4698500 4704974 4711830 4719195 4759857 4787789

■ **112943-07 – SunOS 5.9: Volume Management Patch**

4429002 4478237 4508734 4516578 4576802 4632847 4637525 4645142 4648750 4656914 4656931
4660125 4664713 4696741 4704081 4715667 4730706 4739995 4764186 4773530 4791015

■ **112945-14 – SunOS 5.9: wbem Patch**

4486297 4496120 4626762 4639638 4641801 4641818 4641851 4643267 4644880 4645051 4645080
4645105 4645146 4645315 4645581 4645811 4647508 4648811 4649058 4654765 4655882 4656941
4658145 4674537 4682188 4686244 4696284 4699585 4700539 4701067 4720857 4739720 4742164
4742960 4754758 4759233 4766098 4766971 4768461 4769053 4769612 4769791 4769795 4769860
4769889 4770013 4770017 4770024 4770027 4771207 4771466 4771469 4771476 4773485 4781761
4786712 4786891 4792126 4795642 4809906 4813116

■ **112951-04 – SunOS 5.9: patchadd and patchrm Patch**

4421583 4529289 4623249 4625879 4639323 4678605 4706994 4723617 4725419 4728892 4731056
4737767 4744964 4750803 4759158

■ **112954-04 – SunOS 5.9: uata Driver Patch**

4432931 4506478 4643720 4776171

- 4682197

 - **112975-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/sys/kaio**
- 4692900 4775188 4804590

 - **112985-03 – SunOS 5.9: Volume Management Localization message patch**
- 4618950

 - **112987-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/tod/sparcv9/todsg**
- 4243984 4424387 4558909 4665297 4670382 4670414 4670468 4674435 4705713

 - **112998-02 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/syslogd**
- 4674651 4683429

 - **113020-01 – SunOS 5.9: SUNW_LOC changes needed and Thai date format updated**
- 4660271

 - **113021-01 – SunOS 5.9: yesstr, nostr nl_langinfo() strings incorrect**
- 4707449

 - **113023-01 – SunOS 5.9: Broken preremove scripts in S9 ALC packages**
- 4114317 4519289 4619267 4633655 4634907 4636186 4644822 4661403 4661424 4680447 4683307
4684649 4694445 4699257 4703343 4719669 4737372 4738280 4772117

 - **113024-04 – SunOS 5.9: wrsm Driver Patch**
- 4640559

 - **113025-01 – SunOS 5.9: libpsvcpolicy_psr.so.1 Patch**
- 4373671 4462054 4508010 4525396 4615383 4615387 4631270 4632281 4634737 4640578 4643091
4648067 4653481 4655532 4662172 4665951 4666299 4668224 4668960 4669927 4678627 4680610
4683907 4690701 4690983 4698878 4701093 4705486 4705513 4710390 4711969 4714648 4714923
4715369 4715443 4718706 4720138 4723547 4725693 4733518 4740375 4774716 4780601 4802281
4814438

 - **113026-05 – SunOS 5.9: /kernel/drv/md Patch**
- 4687199

 - **113027-01 – SunOS 5.9: libfrureg.so.1 Patch**
- 4645622 4658416

 - **113028-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/ipp/flowacct**
- 4222093 4491712 4529739 4529831 4529893 4635940 4635945 4636591 4665847

 - **113029-03 – SunOS 5.9: libaio.so.1 librt.so.1 and abi_libaio.so.1 Patch**
- 4659950 4699850

 - **113030-02 – SunOS 5.9: /kernel/sys/doorfs Patch**
- 4635504

 - **113031-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/edit Patch**

■ **113032-01 – SunOS 5.9: /usr/sbin/init Patch**
 4503048

■ **113033-03 – SunOS 5.9: patch /kernel/drv/isp and /kernel/drv/sparcv9/isp**
 4521066 4657311 4661696 4672156 4682951 4729861

■ **113038-03 – SunOS 5.9: JFP manpages patch**
 4808428 4809083 4695070 4742031 4688476 4710452 4717366

■ **113046-01 – SunOS 5.9: fcp Patch**
 4529255

■ **113061-01 – SunOS 5.9: UTF-8 locale UMLE patch**
 4614828 4668356 4668371

■ **113068-03 – SunOS 5.9: hpc3130 patch**
 4672995 4799299

■ **113070-01 – SunOS 5.9: ftp patch**
 4658282

■ **113071-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/acctadm**
 4696138

■ **113072-05 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/format**
 4334693 4622990 4670999 4689757 4716238 4726667 4766161 4781880 4785642 4791416

■ **113073-02 – SunOS 5.9: ufs_log patch**
 1101554 4409244 4651323

■ **113074-04 – SunOS 5.9: ngdr.conf patch**
 4654448 4712441

■ **113075-01 – SunOS 5.9: pmap patch**
 4660871

■ **113076-02 – SunOS 5.9: dhcpmgr.jar Patch**
 4643257 4673713 4687991 4731988

■ **113077-04 – SunOS 5.9: patch su driver**
 4666211 4707716 4709299 4734045 4766657

■ **113085-02 – SunOS 5.9: Thai font enhancement**
 4688066 4708093 4747781

■ **113086-01 – SunOS 5.9: iconv modules between zh_CN.euc and UTF-8 are incompatible**
 4672806

- 4692528
 - **113087-01 – SunOS 5.9: Cannot use other fonts to display Asian characters in xterm**
- 4671052
 - **113088-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Safe default permission violations**
- 4706829
 - **113089-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Bad postremove script of SUNWkuxft**
- 4714477
 - **113090-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Bad postinstall script of SUNWcdft**
- 4684184 4682788 4707897
 - **113096-02 – X11 6.6.1: OWconfig patch**
- 4684184 4737595 4750162 4749332 4770510
 - **113098-04 – X11 6.6.1: X RENDER extension patch**
- 4670820
 - **113113-01 – SunOS 5.9: Problem with depend file of SUNWhdcl with HK locales in S9**
- 4704023
 - **113125-01 – SunOS 5.9: missing libc_psr.so.1 symlink**
- 4707235
 - **113145-02 – SunOS 5.9: Naturetech /platform links are not exist**
- 4705227 4759882 4737442 4768221
 - **113146-02 – SunOS 5.9: Apache Security Patch**
- 4700173
 - **113167-01 – SunOS 5.9: JFP xhost manpage patch**
- 4674655 4704720
 - **113168-02 – SunOS 5.9: JFP Japanese TrueType Font**
- 4114317 4640542 4655634 4669486 4674788 4678396 4682258 4697219 4704996 4713409 4713787 4721396 4726041 4769411
 - **113218-07 – SunOS 5.9: patch pcipsy**
- 4114317
 - **113219-01 – SunOS 5.9: patch /platform/SUNW,Ultra-Enterprise/kernel/drv/fhc**
- 4114317
 - **113220-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/upa64s**
- 4114317
 - **113221-02 – SunOS 5.9: libprtdiag_psr.so.1 Patch**

- 4664349 4665239 4697505
- **113222-02 – SunOS 5.9: patch /kernel/misc/nfssrv and /kernel/misc/sparcv9/nfssrv**
- 4531662 4658316 4683308
- **113223-01 – SunOS 5.9: idn Patch**
- 4524236
- **113224-01 – SunOS 5.9: efdaemon Patch**
- 4633009
- **113225-01 – SunOS 5.9: 2002c Timezone Patch**
- 4649654 4683487
- **113226-01 – SunOS 5.9: hme Driver Patch**
- 4364929
- **113228-01 – SunOS 5.9: 64 bit locale links missing in Solaris 9**
- 4664306
- **113240-03 – CDE 1.5: dtsession patch**
- 4701185 4743546 4763733
- **113244-01 – CDE 1.5: dtwm patch**
- 4743546
- **113273-01 – SunOS 5.9: /usr/lib/ssh/sshd Patch**
- 4708590
- **113274-01 – SunOS 5.9: libdhcputil Patch**
- 4118738
- **113275-02 – SunOS 5.9: procfs Patch**
- 4254013 4533712 4664249
- **113276-03 – SunOS 5.9: md_trans Patch**
- 1101554 4373671 4409244 4462054 4696312 4714648 4715443 4720138 4742084
- **113277-08 – SunOS 5.9: sd and ssd Patch**
- 4027074 4313732 4334693 4336105 4358054 4360365 4375499 4412239 4500536 4527668 4622990
4624524 4645691 4651339 4651386 4651679 4654850 4655315 4656322 4656416 4672504 4673243
4716238 4722426 4725656 4728530 4734019 4734033 4744131 4758953 4770566 4773941 4819633
- **113278-01 – SunOS 5.9: NFS Daemon Patch**
- 4492876
- **113279-01 – SunOS 5.9: klmmod Patch**
- 4492876
- **113280-01 – SunOS 5.9: patch /usr/bin/cpio**

4646589 4661824 4674849 4677773 4679533 4679805 4688928

- **113281-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/netsvc/yp/ypbind**

4515621

- **113318-04 – SunOS 5.9: patch /kernel/fs/nfs and /kernel/fs/sparcv9/nfs**

4044295 4427971 4465488 4658316 4664740 4680195 4725574 4816496

- **113319-07 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/libnsl.so.1**

1226166 4192824 4248430 4390053 4517003 4648085 4680691 4690775 4691127 4700602 4710928
4727726 4753610 4756113 4772960

- **113320-03 – SunOS 5.9: patch se driver**

4626537 4655495 4730608 4735231 4755417

- **113321-03 – SunOS 5.9: patch sf and social**

4451550 4492895 4589401 4643768 4657427

- **113322-01 – SunOS 5.9: patch uucp**

4686442

- **113323-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/passmgmt**

4687515

- **113325-01 – SunOS 5.9: patch powerd**

4678303 4697189 4697205

- **113326-01 – SunOS 5.9: tar Patch**

4662552

- **113327-01 – SunOS 5.9: pppd Patch**

4684948

- **113328-01 – SunOS 5.9: tmpfs Patch**

4682537

- **113329-01 – SunOS 5.9: lp Patch**

4640166

- **113330-01 – SunOS 5.9: rpcbind Patch**

1226166 4690775

- **113331-01 – SunOS 5.9: usr/lib/nfs/rquotad Patch**

4683311

- **113332-04 – SunOS 5.9: libc_psr.so.1 Patch**

4666069

- **113334-01 – SunOS 5.9: udfs Patch**

4548887 4651869 4655796 4714259

- 4522638

 - 113335-01 – SunOS 5.9: devinfo Patch
- 4671573 4527681 4759414 4656013 4718277 4650055 4707744

 - 113361-02 – SunOS 5.9: Sun Gigabit Ethernet 3.0 driver patch
 - 113374-02 – X11 6.6.1: xpr patch
- 4704388

 - 113390-01 – SunOS 5.9 : CTYPE errors in "ar" locale
- 4728460

 - 113391-01 – SunOS 5.9 : S9 : CTYPE errors in "He_IL"/"he" locales
- 4728469

 - 113400-01 – SunOS 5.9: zh_CN.GBK is incomplete for 64 bit
- 4762909

 - 113403-02 – SunOS 5.9: Tamil/Kannada/Gujarati/Bengali support
- 4769446 4752426 4767689 4767747

 - 113405-02 – SunOS 5.9: sync with 4751190 for th_TH.UTF-8 locales
- 4751190

 - 113407-02 – SunOS 5.9: Added Five stroke input method support in S9U3
- 4741018 4783961 4749970 4749975

 - 113409-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Missing locales in SUNW_LOC in s9u3
- 4780217

 - 113424-01 – CDE 1.5: message patch to add IM title in the workspace menu
- 4731995

 - 113432-06 – SunOS 5.9: Introduction Fujitsu SPARC64-V platforms patch
 - 113434-06 – SunOS 5.9: /usr/snadm/lib Library and Differential Flash Patch
- 4385866 4391400 4501772 4642585 4655075 4660835 4707022 4723051 4724529 4734649 4744624
4750446 4753030 4759768 4760694 4761562 4761681 4763919 4767378 4767678 4768717 4793554
4812304

 - 113445-02 – SunOS 5.9: schpc Patch
- 4640542 4697219 4704996 4779758 4695771

 - 113446-02 – SunOS 5.9: dman Patch
- 4640542 4697219 4704996 4707993

 - 113447-01 – SunOS 5.9: libprtdiag_psr Patch
- 4640542 4697219 4704996

 - 113449-01 – SunOS 5.9: gld Patch

4667724

■ **113451-03 – SunOS 5.9: IKE Patch**

4508547 4628774 4628901 4653051 4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4741543 4745493
4745709

■ **113453-03 – SunOS 5.9: sockfs Patch**

4640282 4640982 4653919 4681040 4711013

■ **113454-05 – SunOS 5.9: ufs Patch**

1101554 4409244 4490164 4507281 4512855 4640210 4662795 4663287 4714988 4734635 4764514
4766103

■ **113456-01 – SunOS 5.9: adb modules**

1101554 4409244

■ **113457-01 – SunOS 5.9: ufs headers**

1101554 4409244

■ **113459-01 – SunOS 5.9: udp patch**

4511634

■ **113464-02 – SunOS 5.9: IPMP Headers Patch**

4373671 4462054 4661975 4676731 4710160 4714648 4715443 4720138

■ **113467-01 – SunOS 5.9: seg_drv & seg_mapdev Patch**

4533078 4533108 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113470-01 – SunOS 5.9: winlock Patch**

4533078 4533108 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113471-02 – SunOS 5.9: truss Patch**

4254013 4533078 4533108 4533712 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113472-01 – SunOS 5.9: madv & mpss lib Patch**

4533078 4533108 4630754 4638608 4644346 4648171

■ **113475-02 – SunOS 5.9: usr/lib/security crypt Patch**

4192824 4248430 4390053 4700602 4715561

■ **113476-05 – SunOS 5.9: usr/lib/passwdutil.so.1 pam_ldap Patch**

4192824 4248430 4357827 4390053 4658625 4660019 4670947 4677591 4682120 4683522 4700602
4709300 4743707 4747441 4751394 4754634 4756113

■ **113477-02 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: class action replacement scripts**

4712441

■ **113480-02 – SunOS 5.9: usr/lib/security/pam_unix.so.1 Patch**

4192824 4248430 4390053 4700602 4756113

■ **113482-01 – SunOS 5.9: sbin/sulogin Patch**

4192824 4248430 4390053 4700602

- **113483-02 – SunOS 5.9: usr/lib/netshvc/yp/rpc.yppasswd Patch**

4192824 4248430 4283355 4390053 4700602

- **113484-02 – SunOS 5.9: WBEM SDK Localization message patch**

4733195

- **113485-01 – SunOS 5.9: DHCP Manager Localization message patch**

4733194

- **113488-01 – SunOS 5.9: Field Replacement Unit ID Platform & Access Library Patch**

4703981 4715000

- **113489-02 – SunOS 5.9: sbd & sbdp Patch**

4641546 4696700

- **113490-01 – SunOS 5.9: Audio Device Driver Patch**

4660099 4670245 4701098

- **113492-01 – SunOS 5.9: fsck Patch**

4640210 4693730 4714988 4734635

- **113493-01 – SunOS 5.9: libproc.so.1 Patch**

4725696

- **113494-01 – SunOS 5.9: iostat Patch**

4511098 4679590

- **113495-01 – SunOS 5.9: cfgadm Library Patch**

4433415 4672974

- **113496-01 – SunOS 5.9: inetd Patch**

4383820

- **113503-01 – SunOS 5.9: GigaSwift Ethernet 1.0 special postinstall script patch**

4735162

- **113513-02 – X11 6.6.1: platform support for new hardware**

4731970 4726510

- **113538-05 – SunOS 5.9: ngdr Patch**

4613988 4661605 4669462 4675057 4696700 4746505 4756231 4759384 4779758

- **113541-02 – X11 6.6.1: XKB patch**

4689365 4633549

- **113571-02 – SunOS 5.9: eFCode & fcgp2 Patch**

4495650 4692542

- 4649171
 - 113572-01 – SunOS 5.9: docbook-to-man.ts Patch
- 4487110 4718737
 - 113573-01 – SunOS 5.9: libpsvc Patch
- 4487110 4718737
 - 113574-02 – SunOS 5.9: SUNW,Sun-Fire-880 libpsvc Patch
- 4678365 4697068 4704672 4704675 4706596 4706608 4706632 4706660 4720281 4725387 4728227
4737586 4756570 4798135 4808977 4809539
 - 113575-03 – SunOS 5.9: sendmail Patch
- 4632818
 - 113576-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/dd Patch
- 4701391
 - 113577-01 – SunOS 5.9: /usr/kernel/sched/FX Patch
- 4670609
 - 113578-01 – SunOS 5.9: inetboot Patch
- 4737417
 - 113579-01 – SunOS 5.9: ypserv/ypxfrd Patch
- 4715028
 - 113580-01 – SunOS 5.9: mount Patch
- 4646929
 - 113581-01 – CDE 1.5: message patch to add to /usr/dt/bin/dtlp
- 4745109
 - 113584-01 – SunOS 5.9: yesstr, nostr nl_langinfo() strings incorrect in S9
- 4720211 4786593
 - 113713-02 – SunOS 5.9: pkginstall Patch
- 4627454 4723484
 - 113716-01 – SunOS 5.9: sar & sadc Patch
- 4712441
 - 113717-06 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files
- 4705891
 - 113718-01 – SunOS 5.9: usr/lib/utmp_update Patch
- 4692542
 - 113720-01 – SunOS 5.9: rootnex Patch
- 4692542
 - 113742-01 – SunOS 5.9: smcpreconfig.sh Patch

4704611

- 113746-01 – SunOS 5.9: uxlibc Localization message patch

4760256

- 113762-02 – X11 6.6.1: xdm patch

4748474 4707057 4707069 4721898 4740125

- 113764-02 – X11 6.6.1: keyboard patch

4716868 4237479 4633549

- 113789-01 – CDE 1.5: dtexec patch

4759425

- 113796-02 – CDE 1.5: Tooltalk feature patch

4722127 4741187 4744289 4784893

- 113798-01 – CDE 1.5: libDtSvc feature patch

4720526

- 113799-01 – SunOS 5.9: solregis Patch

4762680

- 113813-02 – SunOS 5.9: Gnome Integration Patch

4752366 4770721

- 113831-02 – SunOS 5.9: Estonian decimal point character incorrect

4733239

- 113839-01 – CDE 1.5: sdtwsinfo feature patch

4729180

- 113841-01 – CDE 1.5: answerbook feature patch

4729199

- 113861-01 – CDE 1.5: dtksh feature patch

4729959

- 113863-01 – CDE 1.5: dtconfig feature patch

4732757

- 113868-01 – CDE 1.5: PDASync patch

4653758 4705576 4642465

- 113896-01 – SunOS 5.9: en_US.UTF-8 locale patch

4746498 4749928 4633291 4758189 4761039 4753468 4757704 4765728 4765666 4751190 4751699
4767922 4768220

- 113902-03 – SunOS 5.9: Asian UTF-8 iconv modules enhancement

4702278 4750690 4772950

- **113904-02 – SunOS 5.9: 7 indic scripts support in Asian UTF-8 locales**

4768804 4752112 4752144 4790423

- **113906-01 – SunOS 5.9: Fixed some functional problems in Chinese locales**

4731208 4677334

- **113908-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Missing locales in SUNW_LOC for SUNWinttf**
- **113909-01 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: Broken preremove script in S9U3 Asia BCP pkgs**

4780225

- **113911-01 – SunOS 5.9: BCP applications hangs with NIS in asian locales**

4784597

- **113923-02 – X11 6.6.1: security font server patch**

4764193

- **113964-04 – SunOS 5.9: usr/sbin/6to4relay patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434
4635766 4637330 4637788 4639729 4648299 4660167 4661975 4673190 4676731 4688392 4688398
4688704 4690565 4694560 4699047 4701276 4705755 4726444 4728056 4728423 4804064

- **113971-01 – SunOS 5.9: ATOK12 patch**

4770994

- **113973-01 – SunOS 5.9: adb Patch**

4664740

- **113975-01 – SunOS 5.9: ssm Patch**

4709170

- **113977-01 – SunOS 5.9: awk/sed pkgscripts Patch**

4737594

- **113978-01 – SunOS 5.9: syseventconfd Patch**

4737409 4745393

- **113981-02 – SunOS 5.9: devfsadm Patch**

4334693 4517655 4622990 4703964 4716238 4734853

- **113984-01 – SunOS 5.9: iosram Patch**

4721302

- **113993-02 – SunOS 5.9: mkfs Patch**

4708464 4721124

- **114003-01 – SunOS 5.9: bbc driver Patch**

4706975

- 4727485
 - 114004-01 – SunOS 5.9: sed Patch
- 4656587
 - 114006-01 – SunOS 5.9: tftp Patch
- 1250956 4110712 4230685 4338920 4467621 4507274 4616030 4698882 4698886 4740460
 - 114008-01 – SunOS 5.9: cachefs Patch
- 4174383
 - 114010-01 – SunOS 5.9: m4 Patch
- 4665029 4668974 4702333
 - 114014-01 – SunOS 5.9: libxml Patch
- 4759554
 - 114016-01 – tomcat security patch
- 4773318
 - 114020-01 – SunOS 5.9: Syncing Euro UTF-8s to include Indic scripts
- 4755447
 - 114033-01 – SunOS 5.9: Fixing hebrew input method problems
- 4774476
 - 114037-01 – SunOS 5.9: patch for supporting indic script
- 4773166
 - 114039-01 – SunOS 5.9: Bug fix for dtpad column in Euro UTF-8 locales
- 4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4745493 4745709
 - 114125-01 – SunOS 5.9: IKE should support hardware assist for certs and Oakley
- 4692023
 - 114126-01 – SunOS 5.9: todds1287 patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114127-01 – SunOS 5.9: abi_libefi.so.1 Patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114128-01 – SunOS 5.9: sd_lun patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114129-01 – SunOS 5.9: multi-terabyte disk support -libuuid patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114130-01 – SunOS 5.9: multi-terabyte disk support - liba5k.so.2 patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114131-01 – SunOS 5.9: multi-terabyte disk support - libadm.so.1 patch

- 4334693 4622990 4716238
- **114132-01 – SunOS 5.9: fmthard patch**
- 4334693 4622990 4716238
- **114133-01 – SunOS 5.9: mail Patch**
- 4705717
- **114135-01 – SunOS 5.9: at utility Patch**
- 4776480
- **114153-01 – SunOS 5.9: Japanese SunOS 4.x Binary Compatibility(BCP) patch**
- 4775198 4775194
- **114165-01 – CDE 1.5: SUNWsregu Localization message patch**
- 4762680
- **114211-01 – SunOS 5.9: WBEM Localization message patch**
- 4786427 4767999
- **114215-02 – SunOS 5.9: Install/admin Localization message patch**
- 4788175 4804609
- **114217-01 – SunOS 5.9: Install/admin Localization message patch**
- 4788175
- **114219-02 – CDE 1.5: sdtimage patch**
- 4746059 4728421
- **114221-02 – SunOS 5.9: UR bug fixes**
- 4791189 4789202
- **114224-01 – SunOS 5.9: csh Patch**
- 4479584
- **114226-01 – SunOS 5.9: zsh driver Patch**
- 4639552
- **114227-01 – SunOS 5.9: yacc Patch**
- 4735960
- **114229-01 – SunOS 5.9: action_filemgr.so.1 Patch**
- 4714071
- **114231-01 – SunOS 5.9: rpcmod Patch**
- 4662762
- **114233-01 – SunOS 5.9: rsm Patch**
- 4679690 4700142 4728023 4754589

- 4640982 4711013

 - 114235-01 – SunOS 5.9: libsendfile.so.1 Patch
- 4771032

 - 114244-01 – SunOS 5.9: some characters can't be shown in GBK and GB18030 locales
- 4789856 4798658 4762506

 - 114274-02 – SunOS 5.9: Add missing euro entries to UTF-8 fontpaths
- 4776648

 - 114282-01 – CDE 1.5: libDtWidget patch
- 4748729

 - 114312-01 – CDE1.5: GNOME/CDE Menu for Solaris 9
- 4795479

 - 114321-01 – SunOS 5.9: Patch Manager Localization message patch
- 4658782

 - 114325-01 – SunOS 5.9: psvcobj Patch
- 4683247 4775925

 - 114326-02 – SunOS 5.9: /usr/lib/dcs Patch
- 4766460

 - 114329-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/pax Patch
- 4776968 4785495

 - 114331-01 – SunOS 5.9: power Patch
- 4457028 4499864 4712958 4761401

 - 114332-02 – SunOS 5.9: c2audit & *libbsm.so.1 Patch
- 4705226

 - 114335-01 – SunOS 5.9: usr/sbin/rmmount Patch
- 4721451

 - 114338-01 – SunOS 5.9: todm5819 Patch
- 4619267 4661424 4694445 4738280

 - 114339-01 – SunOS 5.9: wrsm header files Patch
- 4655205

 - 114340-01 – SunOS 5.9: SUNW_filesys_rcm.so Patch
- 4777791

 - 114344-01 – SunOS 5.9: kernel/drv/arp Patch
- 4777791

 - 114347-01 – SunOS 5.9: etc/init.d/efcode Patch

4788809

- **114349-01 – SunOS 5.9:/sbin/dhcpagent Patch**

4721209

- **114352-03 – SunOS 5.9: /etc/inet/inetd.conf Patch**

4761190

- **114356-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/ssh Patch**

4685658

- **114359-01 – SunOS 5.9: mc-us3 Patch**

4697555

- **114360-01 – SunOS 5.9: platform/sun4u/cprboot Patch**

4634031

- **114361-01 – SunOS 5.9: /kernel/drv/lofi Patch**

4302817 4331110 4335489 4342447 4348291 4361731 4389001 4446576 4477843 4505225 4526709

4628272 4649233

- **114363-01 – SunOS 5.9: sort Patch**

4725245

- **114368-01 – SunOS 5.9: luxadm patch**

4334693 4622990 4716238

- **114369-01 – SunOS 5.9: prtvtoc patch**

4334693 4622990 4716238

- **114370-01 – SunOS 5.9: libumem.so.1 patch**

4518988 4694626 4709984

- **114371-01 – SunOS 5.9: UMEM - libumem (mdb components) patch**

4518988 4694626 4709984

- **114372-01 – SunOS 5.9: UMEM - llib-lumem patch**

4518988 4694626 4709984

- **114373-01 – SunOS 5.9: UMEM - abi_libumem.so.1 patch**

4518988 4694626 4709984

- **114374-01 – SunOS 5.9: Perl patch**

4675538 4724626 4768924

- **114375-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - PICL & FRUID**

4490112 4510864 4599397 4679229 4692005 4692053 4710160 4710161 4713409 4726041 4733895

4733898 4760403 4776134

- **114376-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - platform links**

- 4713409 4726041 4780672
- **114377-03 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - BSC comms support**
- 4713409 4764078 4781113 4819633
- **114378-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto TOD driver**
- 4713409 4781113 4819633
- **114379-01 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - libprtdiag support**
- 4713409 4726041
- **114380-01 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - rmc_comm/rmcadm/rmclomv/librsc support**
- 4726041
- **114381-03 – SunOS 5.9: rmc_comm/rmcadm/rmclomv/librsc patch**
- 4726041 4733895 4762548 4775419 4781113 4819633
- **114382-01 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - bge driver**
- 4726041
- **114383-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - pca9556 driver**
- 4726041 4781113 4819633
- **114384-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - mc-us3i driver**
- 4726041 4781113 4819633
- **114385-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - pmugpio pmubus driver**
- 4726041 4781113 4819633
- **114386-02 – SunOS 5.9: todm5819p_rmc driver patch**
- 4726041 4781113 4819633
- **114387-02 – SunOS 5.9: Enchilada/Stiletto - scadm support**
- 4448914 4726041 4733895
- **114388-01 – SunOS 5.9: dmfe driver patch**
- 4463714 4498135 4643212 4646439
- **114389-01 – SunOS 5.9: devinfo doesn't work on disks with EFI labels**
- 4745581
- **114390-01 – SunOS 5.9: Slot 1 DR - GPTWOCFG patch**
- 4779758
- **114391-01 – SunOS 5.9: Slot 1 DR - Efcodes Patch**
- 4659144 4779758
- **114392-01 – SunOS 5.9: Slot 1 DR - Efcodes Patch**
- 4682824 4779758

- 4819633
 - 114393-02 – SunOS 5.9: cpc Patch
- 4819633
 - 114394-02 – SunOS 5.9: trapstat Patch
- 4819633
 - 114395-03 – SunOS 5.9:
- 4807341 4819633
 - 114418-02 – SunOS 5.9: cpr patch
- 4796037 4797704 4796973 4799777 4792452 4801660 4800526 4812003 4802530 4804995 4808067 4796917
 - 114470-02 – SunOS 5.9: XVR-4000 Graphics Patch
 - 114473-03 – SunOS 5.9: Introduction Fujitsu SPARC64-V platforms patch
 - 114482-02 – SunOS 5.9: flarcreate Patch
- 4385866 4391400 4655075 4753030 4767378 4767678 4768717 4801439
 - 114495-01 – CDE 1.5: dtprintinfo patch
- 4788209
 - 114497-01 – CDE 1.5: dtsession patch
- 4788212
 - 114501-01 – SunOS 5.9: drmproviders.jar Patch
- 4712814
 - 114503-03 – SunOS 5.9: usr/sadm/lib/usermgr/VUserMgr.jar Patch
- 4762502 4803524
 - 114507-01 – SunOS 5.9: date problems in he_IL.UTF-8 locale
- 4791206
 - 114509-01 – SunOS 5.9: cs_CZ Locale not usable
- 4793388
 - 114510-01 – SunOS 5.9: Introduction Fujitsu SPARC64-V platforms patch
 - 114513-02 – SunOS 5.9: patch for Japanese and English X man pages
- 4811454 4797892 4801395
 - 114516-01 – SunOS 5.9: patch for English sdtudctool man pages for S9UR3
- 4808428
 - 114520-04 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For postinstall script
- 4786712 4809906
 - 114561-01 – X11 6.6.1: X splash screen patch

4807285

- 114607-01 – SunOS 5.8: SPECIAL PATCH: pkginfo replacement scripts (S9U3)
- 114636-02 – SunOS 5.9: KCMS security fix

4661008 4774256

- 114711-01 – SunOS 5.9: usr/sadm/lib/diskmgr/VDiskMgr.jar Patch

4818306

x86 パッチの一覧

- 111713-01 – Shared library patch for C++ _x86

4302954 4698028 4699194 4704604 4708982 4745600 4747931 4749398 4749628 4750936 4756106

- 111728-01 – SunOS 5.9_x86: Math Library (libm) patch

4810765

- 112234-05 – SunOS 5.9_x86: Kernel Patch

4201022 4254013 4491038 4533712 4627620 4640282 4640982 4653044 4664740 4676535 4698684
4708822 4711013 4714688 4735093 4742711 4748411 4757311 4714062 4786613

- 112662-02 – SunOS 5.9_x86: IIM and X Input & Output Method patch

4593130 4412147 4726723 4629783 4721656 4721661 4742096 4691874 4650804 4774826 4772485
4777933 4776987

- 112786-04 – X11 6.6.1_x86: Xsun patch

4760672 4734353 4707069 4709009 4762797 4740125 4732113 4676222 4753720 4736505 4780894
4633549 4798375 4742744

- 113099-01 – X11 6.6.1_x86: X RENDER extension patch

4749332 4770510

- 113241-03 – CDE 1.5_x86: dtsession patch

4701185 4743546 4763733

- 113245-01 – CDE 1.5_x86: dtwm patch

4743546

- 113375-01 – X11 6.6.1_x86: xpr patch

4704388

- 113404-02 – SunOS 5.9_x86: Tamil/Kannada/Gujarati/Bengali support

4769446 4752426 4767689 4767747

- 113406-02 – SunOS 5.9_x86: sync with 4751190 for th_TH.UTF-8 locales

4751190

- **113408-02 – SunOS 5.9_x86: Added Five stroke input method support in S9U3**

4741018 4783961 4749970 4749975

- **113542-01 – X11 6.6.1_x86: XKB patch**

4633549

- **113590-01 – SunOS 5.9_x86: JFP manpages patch**

4808428 4809083 4695070 4742031 4688476 4710452 4717366

- **113719-02 – SunOS 5.9_x86: libnsl & rpc.nispasswd Patch**

4710928 4727726

- **113763-02 – X11 6.6.1_x86: xdm patch**

4748474 4707057 4707069 4721898 4740125

- **113765-02 – X11 6.6.1_x86: keyboard patch**

4716868 4237479 4633549

- **113790-01 – CDE 1.5_x86: dtexec patch**

4759425

- **113797-02 – CDE 1.5_x86: Tooltalk feature patch**

4722127 4741187 4744289 4784893

- **113832-02 – SunOS 5.9_x86: Estonian decimal point character incorrect**

4733239

- **113838-01 – CDE 1.5_x86: libDtSvc feature patch**

4720526

- **113840-01 – CDE 1.5_x86: sdtwsinfo feature patch**

4729180 4773801

- **113842-01 – CDE 1.5_x86: answerbook feature patch**

4729199

- **113846-01 – CDE 1.5_x86: sdtjmplay feature patch**

4731319

- **113862-01 – CDE 1.5_x86: dtksh feature patch**

4729959

- **113864-01 – CDE 1.5_x86: dtconfig feature patch**

4732757

- **113867-05 – Motif 1.2.7_x86 and 2.1.1_x86: Runtime library patch for Solaris 9**

4741124 4757112 4743372 4712265 4750419 4764309 4787387

- 4653758 4705576 4642465

 - 113869-01 – CDE 1.5_x86: PDASync patch
- 4715670 4786715 4714769 4715322

 - 113870-03 – CDE 1.5_x86: dtmail patch
- 4746498 4749928 4633291 4758189 4761039 4753468 4757704 4765728 4765666 4751190 4751699
4767922 4768220

 - 113897-01 – SunOS 5.9_x86: en_US.UTF-8 locale patch
- 4702278 4750690 4772950

 - 113903-03 – SunOS 5.9_x86: Asian UTF-8 iconv modules enhancement
- 4768804 4752112 4752144 4790423

 - 113905-02 – SunOS 5.9_x86: 7 indic scripts support in Asian UTF-8 locales
- 4731208 4677334

 - 113907-01 – SunOS 5.9_x86: Fixed some functional problems in Chinese locales
- 4747781

 - 113910-01 – SunOS 5.9_x86: Thai font enhancement
- 4764193

 - 113924-02 – X11 6.6.1_x86: security font server patch
- 4736248 4775204 4767999 4809660

 - 113966-02 – SunOS 5.9_x86: OS Localization message patch
- 4775188 4804590

 - 113968-02 – SunOS 5.9_x86: Volume Management Localization message patch
- 4760256

 - 113969-01 – SunOS 5.9_x86: uxlibc Localization message patch
- 4733194

 - 113970-01 – SunOS 5.9_x86: DHCP Manager Localization message patch
- 4664740

 - 113974-01 – SunOS 5.9_x86: adb Patch
- 4737409 4745393

 - 113979-01 – SunOS 5.9_x86: syseventconfd Patch
- 4730433 4739660 4743413 4744337 4745932 4746231 4754751 4755674 4772927 4774727

 - 113986-01 – SunOS 5.9_x86: linker Patch
- 4044295 4465488 4664740 4680195 4725574 4816496

 - 113987-03 – SunOS 5.9_x86: nfs Patch
- 4664740 4680195 4725574 4816496

 - 113988-04 – SunOS 5.9_x86: libc Patch

4221365 4254013 4518988 4530367 4533712 4669963 4694626 4709984 4749274 4767215

■ **113990-02 – SunOS 5.9_x86: gl_kmech_krb5 Patch**

4526202 4630574 4727224 4743181 4744280

■ **113991-01 – SunOS 5.9_x86: sar & sadc Patch**

4627454 4723484

■ **113992-04 – SunOS 5.9_x86: ip Patch**

4660167 4662866 4688392 4688398 4688704 4694560 4749268 4763402 4784039

■ **113994-04 – SunOS 5.9_x86: md_sp Patch**

4373671 4462054 4508010 4631270 4632281 4634737 4648067 4655532 4666299 4668224 4668960
4669927 4678627 4680610 4690701 4690983 4698878 4701093 4705486 4705513 4710390 4711969
4714648 4714923 4715369 4715443 4720138 4723547 4725693 4733518 4740375 4774716 4780601
4802281 4814438

■ **113995-01 – SunOS 5.9_x86: doorfs Patch**

4699850

■ **113996-01 – SunOS 5.9_x86: utmp_update Patch**

4705891

■ **113998-01 – SunOS 5.9_x86: mkfs Patch**

4721124

■ **113999-02 – SunOS 5.9_x86: devfsadm Patch**

4334693 4517655 4622990 4703964 4716238 4734853

■ **114002-01 – SunOS 5.9_x86: awk & sed Patch**

4435976 4737594

■ **114005-01 – SunOS 5.9_x86: sed Patch**

4727485

■ **114007-01 – SunOS 5.9_x86: tftp Patch**

4656587

■ **114009-01 – SunOS 5.9_x86: cachefs Patch**

1250956 4110712 4230685 4338920 4467621 4507274 4616030 4698882 4698886 4740460

■ **114011-01 – SunOS 5.9_x86: m4 Patch**

4174383

■ **114012-01 – SunOS 5.9_x86: sockfs Patch**

4640282

■ **114015-01 – SunOS 5.9_x86: libxml patch**

4665029 4668974 4702333

■ **114017-01 – SunOS 5.9_x86: tomcat security patch**

- 4759554
- 114021-01 – SunOS 5.9_x86: Synching Euro UTF-8s to include Indic scripts
- 4773318
- 114034-02 – 5.9_x86: Fixing hebrew/arabic dtlogin/input method problems
- 4755447 4770382 4791206
- 114038-01 – SunOS 5.9_x86: patch for supporting indic script
- 4774476
- 114040-01 – SunOS 5.9_x86: Bug fix for dtpad column in Euro UTF-8 locales
- 4773166
- 114124-05 – SunOS 5.9: SPECIAL PATCH: For EDITABLE files
- 4712441 4805954
- 114134-01 – SunOS 5.9_x86: mail Patch
- 4705717
- 114136-01 – SunOS 5.9_x86: at utility Patch
- 4776480
- 114137-02 – SunOS 5.9_x86: sendmail Patch
- 4697068 4706596 4706608 4706632 4706660 4728227 4737586 4756570 4798135 4808977 4809539
- 114145-01 – SunOS 5.9_x86: Apache Security Patch
- 4737442 4759882 4768221
- 114166-01 – CDE 1.5_x86: SUNWsregu Localization message patch
- 4762680
- 114185-01 – CDE 1.5_x86: rpc.cmsd patch
- 4687131
- 114191-02 – SunOS 5.9_x86: sysidnet Utility Patch
- 4519228 4678406 4683519 4698391 4698500 4704974 4711830 4719195 4759857 4787789
- 114192-04 – SunOS 5.9_x86: Volume Management Patch
- 4429002 4478237 4508734 4516578 4576802 4632847 4637525 4645142 4648750 4656914 4656931
4660125 4664713 4696741 4704081 4715667 4730706 4739995 4764186 4773530 4791015
- 114193-07 – SunOS 5.9_x86: wbem Patch
- 4486297 4496120 4626762 4639638 4641801 4641818 4641851 4643267 4644880 4645051 4645080
4645105 4645146 4645315 4645581 4645811 4647508 4648811 4649058 4654765 4655882 4656941
4658145 4674537 4682188 4686244 4696284 4699585 4700539 4701067 4720857 4739720 4742164
4742960 4754758 4759233 4766098 4766971 4768461 4769053 4769612 4769791 4769795 4769860
4769889 4770013 4770017 4770024 4770027 4771207 4771466 4771469 4771476 4773485 4781761
4786712 4786891 4792126 4795642 4809906 4813116
- 114194-01 – SunOS 5.9_x86: patchadd and patchrm Patch

4421583 4529289 4623249 4625879 4639323 4678605 4706994 4723617 4725419 4728892 4731056
4737767 4744964 4750803 4759158

■ **114196-05 – SunOS 5.9_x86: /usr/snadm/lib Library and Differential Flash Patch**

4385866 4391400 4501772 4642585 4655075 4660835 4707022 4723051 4724529 4734649 4744624
4750446 4753030 4759768 4760694 4761562 4761681 4763919 4767378 4767678 4768717 4793554
4812304

■ **114199-01 – SunOS 5.9_x86: smcpreconfig.sh Patch**

4704611

■ **114200-01 – SunOS 5.9_x86: solregis Patch**

4762680

■ **114201-01 – SunOS 5.9_x86: Gnome Integration Patch**

4752366 4770721

■ **114210-03 – CDE 1.5_x86: dtlogin patch**

4750889 4761698 4807292 4720523

■ **114212-01 – SunOS 5.9_x86: WBEM Localization message patch**

4786427 4767999

■ **114216-02 – SunOS 5.9_x86: Install/admin Localization message patch**

4788175 4804609

■ **114218-01 – SunOS 5.9_x86: Install/admin Localization message patch**

4788175

■ **114220-02 – CDE 1.5_x86: sdtimage patch**

4746059 4728421

■ **114222-02 – SunOS 5.9_x86: UR bug fixes**

4791189 4789202

■ **114225-01 – SunOS 5.9_x86: csh Patch**

4479584

■ **114228-01 – SunOS 5.9_x86: yacc Patch**

4735960

■ **114230-01 – SunOS 5.9_x86: action_filemgr.so.1 Patch**

4714071

■ **114232-01 – SunOS 5.9_x86: rpcmod Patch**

4662762

■ **114234-01 – SunOS 5.9_x86: rsm Patch**

4679690 4700142 4728023 4754589

■ **114236-01 – SunOS 5.9_x86: libsendfile.so.1 Patch**

- 4640982 4711013
- 114237-01 – SunOS 5.9_x86: libaio Patch
- 4636591
- 114238-01 – SunOS 5.9_x86: dhcprmgr.jar Patch
- 4731988
- 114240-01 – SunOS 5.9_x86: cachefs Patch
- 4368576
- 114241-02 – SunOS 5.9_x86: libsldap.so.1 Patch
- 4624458 4720818 4723361 4776571
- 114242-01 – SunOS 5.9_x86: passwdutil.so.1 & pam_authok Patch
- 4743707 4747441 4751394 4754634
- 114243-01 – SunOS 5.9_x86: st driver Patch
- 4027074 4336105 4412239 4728530 4734019 4734033
- 114245-01 – SunOS 5.9_x86:some characters can't be shown in GBK and GB18030 locale
- 4771032
- 114275-02 – SunOS 5.9_x86: Add missing entries to UTF-8 fontpaths
- 4789856 4798658 4762506
- 114283-01 – CDE 1.5_x86: libDtWidget patch
- 4776648
- 114313-01 – CDE1.5_x86: GNOME/CDE Menu for Solaris 9_x86
- 4748729
- 114322-01 – SunOS 5.9_x86: Patch Manager Localization message patch
- 4795479
- 114324-03 – SunOS 5.9_x86: pcplusmp Patch
- 4503704 4677371 4761647 4807473
- 114328-01 – SunOS 5.9_x86: nss_ldap.so.1 Patch
- 4751386
- 114330-01 – SunOS 5.9_x86: pax Patch
- 4766460
- 114334-02 – SunOS 5.9_x86: c2audit & *libbsm.so.1 Patch
- 4457028 4499864 4712958 4761401
- 114336-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sbin/rmmount patch
- 4705226

- 4687850
 - 114337-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/drv/tcp patch
- 4655205
 - 114341-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/rcm/modules/SUNW_filesys_rcm.so patch
- 4283355
 - 114342-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/netsvc/yp/rpc.yppasswdd patch
- 4750637
 - 114343-01 – SunOS 5.9_x86: ksh patch
- 4777791
 - 114345-01 – SunOS 5.9_x86: kernel/drv/arp patch
- 4639729 4673190 4699047 4705755 4726444 4728056 4728423
 - 114348-02 – SunOS 5.9_x86: /usr/sbin/in.routed patch
- 4721209
 - 114350-01 – SunOS 5.9_x86: sbin/dhcpagent patch
- 4761190
 - 114353-03 – SunOS 5.9_x86: /etc/inet/inetd.conf Patch
- 4700305 4777715
 - 114354-01 – SunOS 5.9_x86: libresolv patch
- 4725245
 - 114355-01 – SunOS 5.9_x86: sort patch
- 4685658
 - 114357-01 – SunOS 5.9_x86: usr/bin/ssh patch
- 4691177
 - 114358-01 – SunOS 5.9_x86: usr/lib/snmp/snmpdx patch
- 4302817 4331110 4335489 4342447 4348291 4361731 4389001 4446576 4477843 4505225 4526709 4628272 4649233
 - 114362-01 – SunOS 5.9_x86: lofi patch
- 4334693 4622990 4716238 4809406
 - 114419-02 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - abi_libefi.so.1 patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114420-01 – SunOS 5.9_x86: multi-terabyte disk support - libuuid patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114421-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - libadm.so.1 patch
- 4334693 4622990 4716238
 - 114422-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - fmthard patch

4334693 4622990 4716238

- **114423-04 – SunOS 5.9_x86: format patch**

4334693 4622990 4716238 4726667 4766161 4781880 4785642 4791416 4814438

- **114424-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - prtvtoc patch**

4334693 4622990 4716238

- **114425-01 – SunOS 5.9_x86: md_trans patch**

4373671 4462054 4714648 4715443 4720138

- **114426-01 – SunOS 5.9_x86: header files patch**

4373671 4462054 4714648 4715443 4720138

- **114427-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - libumem.so.1 patch**

4518988 4694626 4709984

- **114428-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - libumem patch**

4518988 4694626 4709984

- **114429-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - llib-lumem patch**

4518988 4694626 4709984

- **114430-01 – SunOS 5.9_x86: Umem - abi-libumeme.so.1**

4518988 4694626 4709984

- **114431-01 – SunOS 5.9_x86: Multiterabyte Disk Support - sd & ssd patch**

4334693 4622990 4716238

- **114432-02 – SunOS 5.9_x86: stack overflow - libthread.so.1 patch**

4254013 4533712 4795308

- **114433-01 – SunOS 5.9_x86: stack overflow - truss patch**

4254013 4533712

- **114434-01 – SunOS 5.9_x86: stack overflow - procfs patch**

4254013 4533712

- **114435-01 – SunOS 5.9_x86: ke hardware - libike patch**

4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4745493 4745709

- **114436-01 – SunOS 5.9_x86: ike hardware - config.sample patch**

4666686 4673333 4687237 4704460 4739746 4745493 4745709

- **114437-02 – SunOS 5.9_x86: 6to4 router - usr/sbin/6to4relay patch**

4660167 4688392 4688398 4688704 4694560 4804064

- **114438-01 – SunOS 5.9_x86: 6to4 router - tun patch**

4660167 4688392 4688398 4688704 4694560

- 4675538 4724626 4768924

 - 114439-01 – SunOS 5.9_x86: Perl patch
- 4745581

 - 114440-01 – SunOS 5.9_x86: devinfo Patch
- 4659144 4779758

 - 114441-01 – SunOS 5.9_x86: Slot 1 DR - Hotplug
- 4660167 4688392 4688398 4688704 4694560

 - 114442-01 – SunOS 5.9_x86: 6to4 router - ifconfig patch
- 4385866 4391400 4655075 4753030 4767378 4767678 4768717 4801439

 - 114483-02 – SunOS 5.9_x86: flarcreate Patch
- 4788209

 - 114496-01 – CDE 1.5_x86: dtprintinfo patch
- 4788212

 - 114498-01 – CDE 1.5_x86: dtsession patch
- 4712814

 - 114502-01 – SunOS 5.9_x86: drmproviders.jar Patch
- 4762502 4803524

 - 114504-03 – SunOS 5.9_x86: usr/sadm/lib/usermgr/VUserMgr.jar Patch
- 4811454 4797892 4801395

 - 114514-02 – SunOS 5.9_x86: patch for Japanese and English X man pages
- 4808428

 - 114517-01 – SunOS 5.9_x86: patch for English sdtudctool man pages for S9UR3
- 4786712 4809906

 - 114521-04 – SunOS 5.9_x86: SPECIAL PATCH: For postinstall script
- 4807285

 - 114562-01 – X11 6.6.1_x86: X splash screen patch
- 4490164

 - 114563-01 – SunOS 5.9_x86: ufs patch
- 4786593

 - 114568-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sadm/install/bin/pkginstall Patch
- 4661008 4774256

 - 114637-02 – SunOS 5.9_x86: KCMS security fix
- 114712-01 – SunOS 5.9_x86: usr/sadm/lib/diskmgr/VDiskMgr.jar Patch

4818306

